

大川小学校事故検証
事実情報に関するとりまとめ（案）

平成25年10月20日

大川小学校事故検証委員会

このとりまとめは、当委員会がこれまで実施してきた調査・検証に基づき、有識者等からの意見聴取のため、現在までに得られた事実情報をとりまとめたものです。

その内容については、今後さらに新しい情報や状況が判明した場合、変更することがあります。

目 次

1. 事故の概要	1
2. 事故検証の経過	3
2. 1 委員会会合等の開催	3
2. 2 資料等の収集・精査	4
2. 3 聴き取り調査の実施	5
2. 4 現地調査等の実施	5
3. 主な事実情報	6
3. 1 事前対策に関する情報	6
3. 1. 1 大川小学校における災害への備え	6
(1) 災害対応の計画・マニュアル	
(2) 防災訓練の実施状況	
(3) 避難路・避難方法、避難地の整備状況	
(4) 通信環境（災害用電話）の整備状況	
3. 1. 2 地域における災害への備え	13
(1) 石巻市の地域防災計画	
(2) 消防署・消防団の対応計画	
(3) ハザードマップの想定と指定避難所の指定	
(4) 地域における防災訓練	
(5) 地域住民の防災意識	
3. 1. 3 学校及び地域の歴史	23
(1) 学校の立地・校舎設計	
(2) 地域における過去の災害履歴	

3. 1. 4	教職員の知識・経験等	27
(1)	学校防災・学校安全に関する知識・経験等	
(2)	地域に関する知識・経験等	
(3)	過去に勤務した教職員の認識	
3. 1. 5	学校経営・職場管理等の状況	35
(1)	学校の運営・管理の状況	
(2)	学校と地域、保護者等との関係	
3. 1. 6	石巻市・宮城県・国における学校防災の取り組み	38
(1)	石巻市における学校防災の取り組み	
(2)	石巻市内小中学校における取り組み状況	
(3)	宮城県における学校防災の取り組み	
(4)	国における学校防災の取り組み	
3. 2	事故当日の状況に関する情報	46
3. 2. 1	気象及び余震等の状況	46
(1)	気象等の状況	
(2)	余震の発生状況	
(3)	学校周辺の被害状況等	
(4)	学校裏山の倒木について	
3. 2. 2	津波の来襲状況	51
(1)	津波の方向	
(2)	津波の到達時刻	
(3)	津波の高さ	
3. 2. 3	地域住民の避難と被害状況	53
(1)	地域住民の避難行動	
(2)	釜谷地区住民の被害状況	

3. 2. 4 大川小学校における避難行動の経過	57
(1) 広報等などから得られた情報	
(2) 地域住民の動き	
(3) 学校内における動き	
3. 2. 5 他校における対応状況	65
(1) 石巻市内の小中学校における児童・生徒の被害状況	
(2) 石巻市内小中学校の対応状況	
(2) 他校における避難良好事例	
3. 3 事後対応	70

1. 事故の概要

平成23年（2011年）3月11日（金）14時46分、三陸沖を震源とするマグニチュード（M）9.0の地震が発生し、宮城県石巻市は、震度6強の激しい揺れに見舞われるとともに、地震に伴う津波によって沿岸域全域に大きな被害を受けた。

この地震により、石巻市立大川小学校（所在地：石巻市釜谷山根1）は、「想定震度6弱」¹⁾の揺れに見舞われた。地震発生当時、在籍する児童108名のうち103名、教職員13名のうち11名が在籍（下校のため学校付近にいた者を含む）しており、地震の揺れを受けて、校庭への二次避難²⁾を行った。その後、保護者等への引き渡し等により下校した児童27名を除く児童76名、教職員11名が津波に遭遇し、うち5名（児童4名、教職員1名）が助かったものの、残る多くの児童・教職員が被災した（下表参照）。

			児 童					教 職 員	
在籍数			108					13	
地震発生時の所在 (内訳)			校内・学校付近		自宅等			校 内	校 外 ^{※2}
			103		5				
			地震後も 校内・学校 付近	地震後に 帰宅等 ^{※1}	欠席	早退	下校 済み	11	2
			76	27	2	2	1		
所在別 被災状況	被災	死	69	0	1	0	0	10	0
		行方不明	3	0	0	1	0	0	0
		計	72	0	1	1	0	10	0
	生存	4	27	1	1	1	1	2	
被災状況 総計	被災	死	70					10	
		行方不明	4					0	
		計	74					10	
	生存	34					3		

※1 地震後、保護者等への引き渡しにより下校した児童。
地震発生時に早退のため保護者が迎えに来ていた1名含む。

※2 休暇1名、用務による外出1名。

1) 石巻市・(株)パスコ「東日本大震災災害検証報告書」(平成24年3月29日)による。

2) 一般に学校現場においては、地震の際の避難を「一次避難：机の下」「二次避難：校庭などの屋外」「三次避難：二次避難場所が危険となった場合のさらなる避難先への避難」としていることから、本とりまとめにおける「一次避難」「二次避難」「三次避難」などの表現は、すべてこの定義に沿って統一する。このため、たとえば大川小学校の災害対応マニュアルなどでは、校庭からの避難先を「二次避難場所」と記載しているが、これを「三次避難場所」と読み替えて表記する。

大川小学校周辺図



2. 事故検証の経過

大川小学校の児童・教職員が、津波の来襲前に安全な場所へ避難することができずに被災したことを受け、この事故を公正中立かつ客観的に検証し、その原因を究明するとともに今後の学校防災に関する提言を行うため、大川小学校事故検証委員会（以下、「当委員会」とする。）が設置された。

これまでの当委員会における主な活動状況は、次のとおりである。

2. 1 委員会会合等の開催

当委員会では、委員・調査委員の全員を構成員とする委員会会合のほか、調査委員を中心に一部の委員も参加する作業チーム打合せを開催し、収集した情報の内容精査、聴き取り結果の確認など、検証作業を進めてきた。

これまでの開催経緯、主な討議内容を、次表に示す。

なお、これら会合とは別に、電子メールなどの活用により、収集した情報の内容精査、聴き取り結果の確認などを随時行った。

委員会会合開催実績

	日 時	主な内容
第1回	平成25年2月7日（木） 13:00～16:25	<ul style="list-style-type: none">● 情報の取扱いについて● 調査の方針・進め方等について
第2回	平成25年3月21日（木） 13:00～16:25	<ul style="list-style-type: none">● 検証に対するご遺族からのご意見等について● 情報収集・分析の現状と今後の方向について
第3回	平成25年7月7日（日） 13:00～16:30	<ul style="list-style-type: none">● 中間とりまとめ（案）について● 「事後対応」について
第4回	平成25年8月24日（日） 13:00～16:30	<ul style="list-style-type: none">● 「中間とりまとめ」以降に判明した主な事実情報について● 「事後対応」について
第5回	平成25年10月20日（日） 13:00～16:___	<ul style="list-style-type: none">● 「事実情報に関するとりまとめ」について● 今後の分析の方向性について

作業チーム打合せ開催実績

	日 時	主な内容
第1回 《合同》	平成25年3月5日(火) 15:00～18:30	<ul style="list-style-type: none"> 宮城県における学校安全の取組 第2回委員会に向けた検討
第2回 《合同》	平成25年4月8日(月) 16:30～20:30	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集等の進捗確認 今後の作業の進め方、役割分担
第3回 《合同》	平成25年4月15日(月) 14:30～20:15	<ul style="list-style-type: none"> 今後の作業内容・手順 ご遺族からの聴き取り
第4回 《チーム2》	平成25年5月17日(金) 14:40～16:40	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集・分析の経過確認 今後の作業内容・手順の調整
第5回 《チーム1》	平成25年5月29日(水) 17:00～19:30	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集・分析の経過確認 今後の作業内容・手順の調整
第6回 《合同》	平成25年6月15日(土) 13:00～17:30	<ul style="list-style-type: none"> 大川小学校裏山等現地踏査
第7回 《合同》	平成25年6月16日(日) 10:00～12:00 13:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> ご遺族からの聴き取り 中間とりまとめについて
第8回 《合同》	平成25年7月2日(火) 9:15～11:15	<ul style="list-style-type: none"> ご遺族からの聴き取り
第9回 《合同》	平成25年7月29日(火) 15:00～19:30	<ul style="list-style-type: none"> 今後の調査内容、役割分担
第10回 《チーム2》	平成25年8月5日(月) 13:00～14:30	<ul style="list-style-type: none"> 今後の調査内容、役割分担
第11回 《合同》	平成25年8月23日(金) 14:00～18:00	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集・分析の状況確認 今後の調査内容、役割分担
第12回 《合同》	平成25年9月28日(土) 9:30～18:00	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集・分析の状況確認 今後の進め方等
第13回 《合同》	平成25年10月13日(土) 10:00～18:30	<ul style="list-style-type: none"> 事実情報の確認・認定 今後の進め方等

2. 2 資料等の収集・精査

関係者・関係機関の協力により、関連する資料・情報等の収集・精査を実施した。主な情報提供機関、提供内容、提供件数等（10月18日現在）について、次表に示す。また、収集した資料等の提供元・表題等について、巻末の資料編に示す。

情報提供機関（主な内容）	資料等の件数
石巻市教育委員会（大川小学校事故関連記録、市・市教委及び同校における事前対策に関する情報など）	558件
宮城県教育委員会（学校防災対策、県内各校の対策状況など）	9件
文部科学省（国における学校防災対策など）	15件
その他、情報提供にご協力いただいている主な機関・個人等： 183件 大川小学校事故ご遺族（児童ご遺族、教職員ご遺族）、元・大川小学校教職員、 仙台管区气象台、宮城県警察河北警察署、石巻市消防本部、石巻市河北総合支所、 国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所、地元各報道機関、 東北大学災害科学国際研究所、東北大学大学院環境水理学研究室、 など	

2. 3 聴き取り調査の実施

ご遺族、地域住民、その他の協力により、グループインタビュー形式も含め、計83回（総時間数：約150時間、延べ時間数：約320時間）の聴き取りを行った。

聴き取り対象 ^{*1)}	延べ人数
児童・教職員ご遺族 ^{*2)}	60人
生存児童・教職員	7人
保護者・地域住民など当時の目撃証言者	50人
市教育委員会関係者・(元)教職員など	20人
その他、学識者・有識者等	13人
計	143人

^{*1)} 委員会における情報の取扱い規程に基づき、どなたに、いつ、どのような内容の聴き取りを行ったかという個別情報は公表しない。

^{*2)} 第2回委員会の資料報告（7名分）、席上発表（3名）、作業チーム打合せ（第3・7・8回）での聴き取りを含む。

2. 4 現地調査等の実施

第1回委員会の会合に先立ち、大川小学校及び周辺（裏山の一部を含む）について、委員・調査委員による現地調査を行った。

また、第6回作業チーム打合せとして、大川小学校裏山について現地踏査を行い、震災当日、生存児童を含む地域住民等が避難した場所や斜面上から学校を見た場所、林道を経由して入釜谷地区へ至る経路などについて確認した。

さらに、植物学の専門家の助言を受けて、裏山の倒木状況に関する写真撮影のための現地踏査を行った。

3. 主な事実情報

3. 1 事前対策に関する情報

3. 1. 1 大川小学校における災害への備え

(1) 災害対応計画、マニュアル

震災当時の大川小学校の災害対応マニュアルが作成されるまでの経緯は以下のとおりである。

平成16年3月に宮城県の第三次地震被害想定が公表されたことなどにより、県下の小中学校では宮城県沖地震の再来に対する危機感が高まっていた。大川小学校でも平成18年度に「教育計画」の見直しを行う際に、災害対応に関する記述を大幅に改訂した。

それまでの「教育計画」では、震災の際の対応としては「地震発生時の対応及び日常の対策」の項目があるだけで、災害時の体制も定められておらず、避難についても、教師の基本行動として「避難場所、方法及び経路を明示して避難させる。(出席簿を携行する。)」という抽象的な記述にとどまっていた(下図)。

XIII-2 地震発生時の対応及び日常の対策活動等について	
	大川小学校
I 地震発生時の対応	
1 地震発生時における措置	
児童が校内にいる場合(登下校中を除く)	
1) 学習指導中	
①放送設備が使用可能な場合	学校防災計画による。
②放送設備が使用不能な場合	学校防災計画を基本とし、状況に応じた適切な措置をとる。
③児童の基本行動	
ア 教室にいる場合は、机の下等に潜り、頭部を保護する。	
イ 指示がない限り、絶対に外には飛び出さない。	
ウ トイレ及び廊下等にいる場合は、最寄りの教室に避難し、その教室の担任教師の指示に従う。	
エ 体育館にいる場合は、水銀灯等の落下の危険のない場合にしゃがむか、非常口付近で速やかに避難できるように待機する。	
オ 校庭にいる場合は、校庭中央部又は定められた避難場所に避難する。	
④教師の基本行動	
【第一次措置】	
ア 机の下に潜り、頭部を保護するよう指示する。(大きな声で、はっきりと、短く。)	
イ ドアを開けて出口を確保する。	
ウ 火気及び薬品等の始末をする。	
【第二次措置】	
ア 児童の状況を把握し、安全を確認する。	
イ 避難場所、方法及び経路を明示して避難させる。(出席簿を携行する。)	
ウ 避難場所で児童の確認を行い、本部に報告する。	
エ 担任以外の教職員は、校舎内を点検する。	
【その他配慮事項】	
ア 地震がおさまった時点で児童を避難させる。	
イ 担任は、児童の確認を確実に行う。	
ウ 負傷者の有無の確認、処置及び報告を確実に行う。	
エ 薬品、熱湯及びガスの始末を確実に行う。	

【出典】
平成17年度
大川小学校教育計画

平成19年度の「教育計画」では、これを大幅に改訂し、「地震発生時の危機管理マニュアル」として、初動体制の確立や避難場所等について記載され、震災当時の災害対応マニュアル（平成22年度のもの）の原型ができあがった。なお、平成19年度のマニュアルには、2ページ目の「2. 地震発生時の基本対応」という項目の中で「安全確認・避難誘導（火災・津波・土砂くずれ・ガス爆発等で校庭等が危険な時）」というように「津波」という文言があるが、あくまでも地震を想定したマニュアルとの位置づけであり、現実問題として津波は想定されてはいなかった。

平成19年度の災害対応マニュアルでは、第三次避難場所（マニュアル中の表現では「第二次」）は、「近隣の空き地・公園」とされていた。これは、地震を想定したものであり、地震や地震に伴う火災、ガス爆発、余震による建物倒壊などによって、校庭に危険が迫ってきた場合に避難する場所という位置づけだった。「近隣の空き地」は釜谷交流会館の駐車場、「公園」は体育館裏の児童公園（ちびっこ広場）をイメージして定めたものであった。

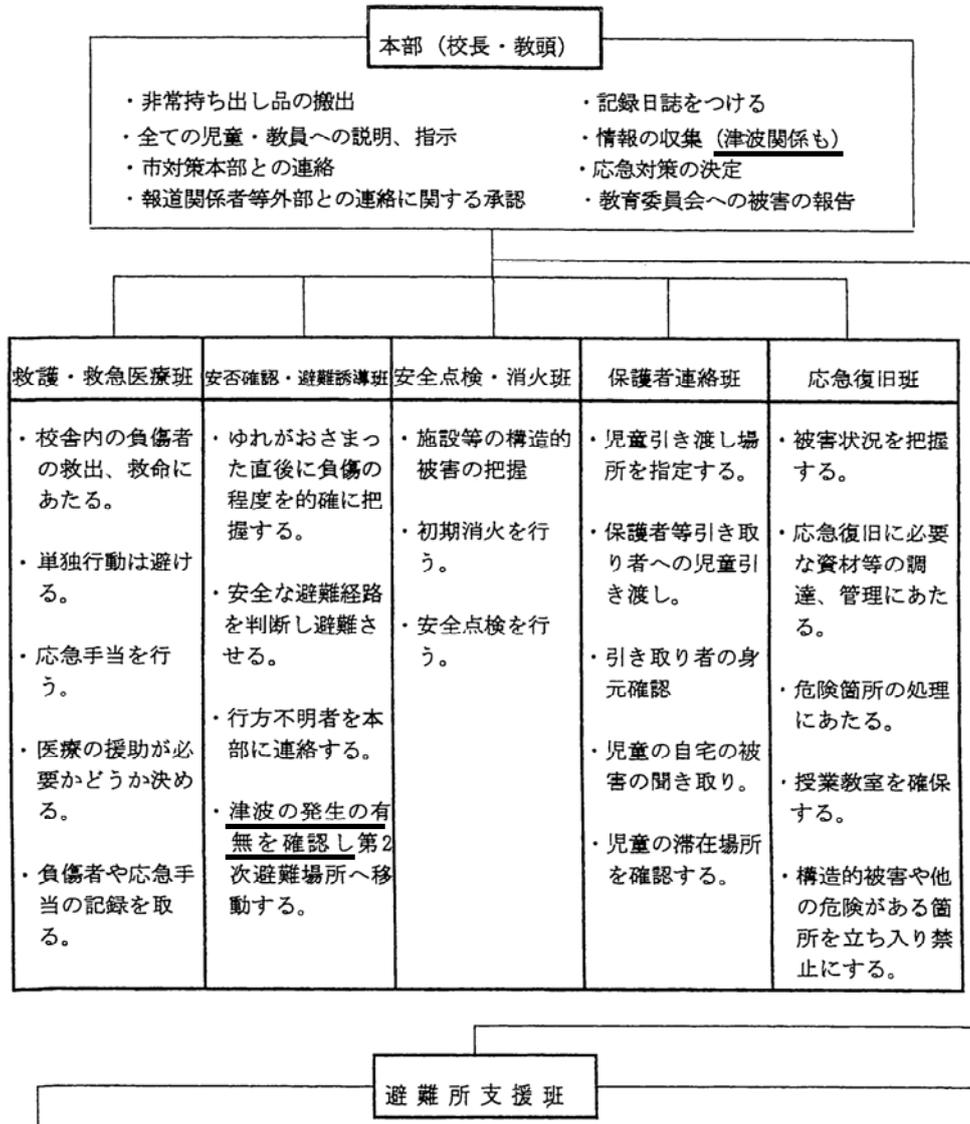
平成20年度の災害対応マニュアルは、19年度のマニュアルの誤字が訂正されただけであり、21年度のマニュアルは、20年度のものと同じである。

その後、3. 1. 6で述べるような地震に対する危機意識の高まりと市教育委員会からの指導や研修を背景に、大川小学校でも、平成22年度の教育計画策定に当たって、災害対応マニュアルにも津波を意識した修正が加えられた。しかし、抜本的な見直しには至らず、表題に「(津波)」という文字が付け加えられたほかには、安否確認・避難誘導班の「津波の発生の有無を確認し第2次避難場所に移動する」という一文が加えられた程度にとどまり、津波を想定した避難行動や第三次避難場所の検討等はなされなかった。マニュアルの改訂は、安全主任が原案を作成し、教頭と教務主任が目を通してから校長が確認して確定した。

このようにして策定された震災当時の大川小学校の「平成22年度教育計画」に含まれている「地震（津波）発生時の危機管理マニュアル」によれば、初期体制の確立として次図が掲載されている。

2 地震（津波）発生時の危機管理マニュアル

1 初動体制の確立 災害対策本部の設置



大川小学校の災害時初動体制

（大川小学校「平成22年度教育計画」より。下線は当委員会による。）

初動体制においては、災害対策本部（校長・教頭）を設置し、本部は「情報の収集（津波関係も）」することとされていた。また、安否確認・避難誘導班は「津波の発生の有無を確認し第2次避難場所へ移動する」こととされていた。さらに、「地震発生時の基本対応」として「臨機応変に行動する」「状況により第二次避難の準備」との記載がある。

同マニュアルによれば、「第一次避難」は「校庭等」とされており、「火災・津波・土砂くずれ・ガス爆発等で校庭等が危険なとき」の「第二次避難」として「近隣の空き地・公園等」との記載がある（なお、この「第一次避難」「第二次避難」は、以下、それ

ぞれ「第二次避難」「第三次避難」と読み替える)。これらの記載は、平成19年度のマニュアルの記載がそのまま踏襲されたものである。

マニュアルには、児童の引渡しについての項目があり、児童の引渡しについては、「引渡しカードにより引き渡す」とされていた。また、保護者は「防災用児童カード」を記入して、カードを学校に提出することとされ、教師は「児童引渡し確認一覧表」を作成して防災用児童カードとともに校長室書庫保管とされていた。震度6弱以上を観測した場合は、原則として保護者引渡しとするとの記載もあるが、具体的な引渡し方法については記述されていなかった。

児童の引渡しについては、平成19年度のマニュアルで記載され、それがそのまま踏襲されたものであるが、マニュアルどおりの運用はされておらず、児童引渡しのルールも周知されていなかった。その経緯は以下のとおりである。

すなわち、平成19年度に児童引渡しのために、まず、保護者に連絡をとる手段としてメール配信の仕組みを構築しようとしたものの、当時は、メール配信サービスの利用料金が高く、また世帯数も70程度であるという理由から断念し、事前に保護者のメールアドレスを登録しておき、学校から直接保護者へメール送信することで対応しようとした。そして、実際に「防災用児童カード」の記入・提出が行われたようであるが、アドレス登録を始めたのが平成19年度の遅い時期であったことや、提出してもらったアドレスが正しいかどうか(大文字・小文字など)の確認を保護者と行っているうちに年度末になってしまい、次年度に引き継がれたものの、そのまま立ち消えになってしまった。その結果、児童引渡しの仕組みも未完成のままであった。平成22年度の「防災用児童カード」、「児童引渡し確認一覧表」は作成されておらず、児童引渡しについても明確な定めがないままであった。

(2) 防災訓練の実施状況

大川小学校の沿革史より、平成7年度から平成22年度までの防災訓練の実施状況を整理したものが、次表である。これによると、毎年最低2回の避難訓練が行われていた。また、平成17～22年度は、不審者対策として1回追加し年間3回行っていた。しかし、津波を想定した避難訓練や児童引渡し訓練が行われたことはなかった。

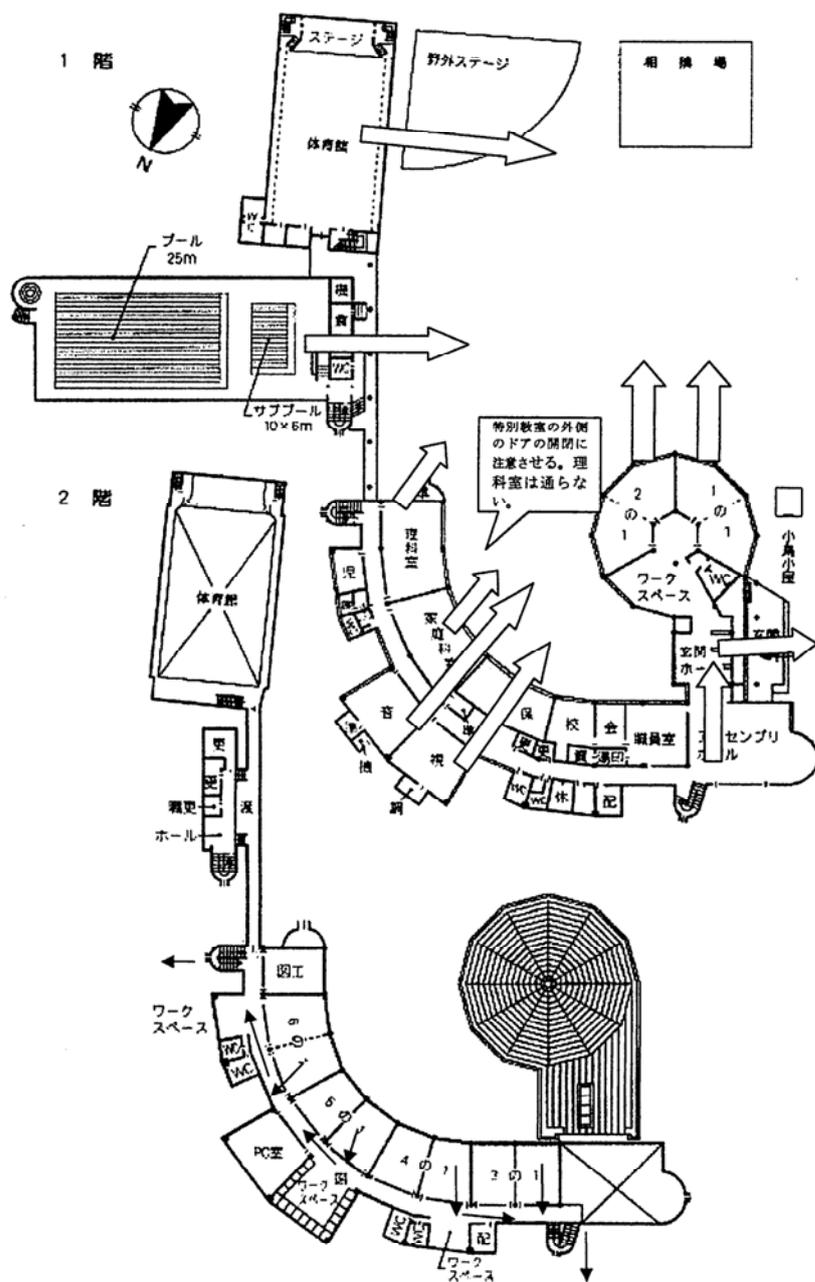
大川小学校における過去の防災訓練実施状況

実施日		訓練内容（想定等）
平成 7年	6月9日	想定不明
	12月4日	同上
8年	6月10日	同上
	12月4日	同上
9年	6月13日	同上
	12月10日	同上
10年	6月8日	同上
	12月2日	同上
11年	6月14日	同上
	12月2日	同上
12年	6月12日	同上
	11月29日	火災想定
13年	6月12日	想定不明（業間訓練）
	12月5日	火災想定
14年	6月12日	想定不明
	11月29日	同上
15年	6月13日	同上
	11月28日	火災想定
16年	6月13日	総合防災訓練
17年	5月13日	不審者対応
	6月13日	地震想定
	12月2日	火災想定（放課後実施）
18年	5月12日	不審者対応
	6月20日	想定不明
	11月24日	同上
19年	5月11日	不審者対応
	6月18日	想定不明（業間訓練）
	11月22日	想定不明
20年	5月13日	同上
	6月12日	同上
	7月7日	想定不明（業間訓練）
	11月21日	想定不明
21年	5月12日	不審者対応
	6月12日	地震想定
	11月20日	火災想定
22年	5月11日	不審者対応
	6月11日	地震想定
	11月24日	火災想定

平成22年度は、平成22年6月11日に地震を想定した避難訓練が実施された。

訓練内容としては、海洋プレート型とみられる地震発生を想定し、A経路（次図）で校庭へ避難し、人員の確認、次の指示まで待機させるところまでである。

避難経路A（地震発生時）



平成22年6月に実施された防災訓練（地震想定）の避難経路

(3) 避難路・避難方法、避難地の整備状況

前述した「地震（津波）発生時の危機管理マニュアル」には、避難路・避難方法についての記載は含まれていない。しかし、防災訓練において避難経路が定められていたことから、地震の際の避難路としては、「A経路」で校庭へ避難することとされていたものと推定される。

また、第二次避難先である校庭に危険が迫った場合には、第三次避難として「近隣の空き地・公園等」と記載があったが、具体的な場所及び避難経路などについての記載はない。前述のとおり、「近隣の空き地」は釜谷交流会館の駐車場、「公園」は体育館裏の児童公園（ちびっこ広場）をイメージして定められたものではあったが、教員や児童の間でその認識が共有されていたとは言い難く、また、津波の際の第三次避難場所については、学校として明確に検討したことはなかった。

(4) 通信環境（災害用電話）の整備状況

震災当時の大川小学校には、通常使用する電話回線として、代表電話番号である回線と、おそらくファクスに利用していたと考えられる回線の、計2回線が設定されていた。これらはいずれも、災害時優先電話¹⁾となっていなかった。同校の備品台帳に記載されている電話機のうち機種名称から親機と考えられる電話機は、停電対応型（停電時にも利用可能なタイプ）であり、代表電話番号の回線につながっていたものと推定される。台帳上、この電話機は「(非常時優先)」と記載されていたが、この回線が災害時優先電話でないことから、これは停電対応型であることを示すものと考えられる。

一方、震災の約2カ月前に相当する平成23年1月19日、大川小学校では「避難所特設公衆電話」の事前配備が行われた。これは、石巻市において災害時に避難所となる小中学校に実施した事前配備の一環として行われたもので、この回線は災害時優先電話となっていた。大川小学校では、体育館の1階階段下付近にモジュージャック（MJ）が設置され、いざという時には別途貸し出しを受けて保管されている電話機（3台）をこれに繋ぎ込むことで利用可能となる。電話会社からは、事前の配線工事などと併せ、施設管理者である学校の教職員に対し、こうした運用方法についての説明が行われた。

¹⁾ 災害時優先電話とは、大規模災害発生時に電話利用が急増した場合でも通話制限を受けないため、一般の電話と比べて発信がつながりやすい電話回線のことである。

3. 1. 2 地域における災害への備え

(1) 石巻市の地域防災計画

平成17年4月に旧1市6町が合併して新石巻市となるまでは、各自治体が地域防災計画を策定していた。合併に伴い、各種災害の発生及び被害予想箇所の情報を一元化して組織的な災害対応を行うため、新石巻市の地域防災計画及び各種ハザードマップの策定が喫緊の課題とされた。

そこで、石巻市では、宮城県が平成16年3月に公表した第三次地震被害想定調査に基づいて地域防災計画とハザードマップを策定することとし、平成18年5月に第1回石巻市地域防災計画策定委員会を開催して作業を開始した。そして、本庁各部・各総合支所へ旧防災計画の見直しを依頼するとともに、策定業者に業務委託して作業を進め、平成20年6月までには作業を終えた。

「石巻市地域防災計画（平成20年6月）」の震災対策編では、「第6節 被害想定」において、宮県の実施した「第三次地震被害想定調査」²⁾に示された想定のうち「本市の被害が最も大きいと想定されている『宮城県沖地震（連動）』を本計画の想定地震とし、被害想定に基づいた対策を講じていく」としている。なお、同調査では、連動型の宮城県沖地震（マグニチュード8.0）が想定され、この想定に基づいた津波浸水予測図が作成されており、同図は、後述のとおり石巻市におけるハザードマップの土台となった。

また、同計画においては、学校教育における防災教育として、防災体制の整備や学校等の管理者は災害の発生に備えて、平常時には学校安全（防災）委員会等を組織し、防災計画を策定するほか、日ごろから防災体制の充実に努めることや教職員に対する防災研修を求めている。

さらに、同計画資料編の「資料第15 避難所等一覧」において、大川小学校は次のように示されている。

²⁾ 宮城県防災会議地震対策等専門部会「宮城県地震被害想定調査に関する報告書」（平成16年3月）

名称	対象とする災害				※注4, 5 屋内収容 可能人数
	※注1 風水害	※注2 土砂	地震	※注3 津波	
大川小学校	○	○	○	○	339

注1：原出典（地域防災計画資料編）の注記に「◎印は、所在地が平成17年国土交通省公表の「浸水想定区域」から外れていることを示す」とあることから、○印はこの浸水想定区域内であることを意味するものと考えられる。

注2：○印は、平成15年宮城県公表の「土砂災害の恐れのある箇所」から外れていることを示す。

注3：○印は、平成16年宮城県公表の第3次地震被害想定調査報告書「津波の予想浸水域」から外れていることを示す。ただし、「地震」の○印については、地震による避難所建物の倒壊の可能性を否定したものではない。

注4：屋内収容可能人数は、屋内面積から1人当たり2㎡を目安に換算。

注5：学校の避難所は、体育館、講堂を指定している。ただし、避難者数の増大、被害の拡大、あるいは浸水からの回避等、被害の状況によっては校舎の利用も考慮する。

また、同じく資料編の「資料第23 災害時の広報文例」として、地震後に津波警報（大津波）が発表された場合の広報文案が下記の通り示されている。

[例文6] 地震後に津波予報が発表された場合の広報

6-1 津波警報（大津波・津波警報）が発表された場合

- 緊急放送、緊急放送、こちらは、石巻市災害対策本部です。
さきほどの地震（○○で発生した地震）により、午前（午後）○時○分、宮城県に「大津波(津波) 警報」が発表されました。大津波（津波）が来襲します。
- 津波到達時刻は○○沿岸で、午前（午後）○時○分頃の予定です。
- 沿岸部や北上川河口区域にいる皆さんは津波の危険がありますので直ちに指定されている避難場所に避難（避難の準備を）して下さい。
- 予想される津波の高さは高いところで約3（2）メートル以上に達する見込みですから、今までに津波に被害を受けたようなところや、特に津波が大きくなりやすいところでは、厳重な警戒を要します。その他のところも1メートル（数十センチ）ぐらいに達する見込みですから厳重な警戒が必要です。
- 引き続き、テレビ、ラジオ等からの津波情報に厳重に注意して下さい。

〔 なお、現場に警察官や市職員・消防職員・消防団員などがいる場合には、その指示に従って落ち着いて避難して下さい。 〕

以上、石巻市災害対策本部です。

くりかえしてお知らせいたします。.....

（避難完了が確認されるまで繰り返すこと。）

(2) 消防署・消防団の対応計画

石巻市広域行政事務組合消防本部（以下、「市消防本部」とする。）の大地震災害初動マニュアル（発災時）には、「第4 地震災害における活動方針」の中で、次のように記載されている。

4 津波対策

- (1) 津波警報が発令された場合は、警対本部は管内海岸部への来襲時刻、来襲時の潮位から判断される予想浸水区域などを、関係機関から情報収集し、各現場本部へ伝達する。
- (2) 現場本部では、市町防災無線による広報を確認しながら、海岸部及び予想津波高より低い地区をパトロールし、避難を広報する。
- (3) 「オオツナミ」が予報される場合など、津波による相当な被害が予想される場合は、沿岸部の住民を高台へ避難させることを最優先に実施する。
- (4) 津波襲来予想時刻の10分前には、浸水予想区域内から全ての舞台（消防団隊含む）を撤退させる。

また、これをもとに策定されたものと推定される河北消防署の「大地震災害時の初動体制」によると、「2 津波対応準備」として、次のように記載されている。

2 津波対応準備

- (1) 津波情報確認、津波到達時間 （満潮時間も掲示）
- (2) 支所（災対本部）へ携帯無線（河北携帯1）を持参し出向する。（災害状況等により異なる）（司令補以上）
- (3) 広報については、津波襲来時分を考慮し広報車で長面・尾崎地区へ出向する。防災無線による広報は石巻市（総合支所で実施する）。海面監視の状況は、北上所より情報提供を受ける。

さらに、石巻市河北消防団の「災害時の活動要領（H22）」には、消防団員の任務内容として「津波警報が発表になった場合は原則として第4分団のみ参集」とされている。震災当時の第4分団は、第1部（福地班、横川班、谷地班）、第2部（針岡第一班、針岡第二班、間垣班）、第3部（釜谷班、入釜谷班、長面班、尾崎班）で編成されていた。

関係者への聴き取りによると、津波警報発表時の対応は、具体的には、分団ごとに設定されていた代表詰所へ参集し、被害状況を把握するとともに総合支所に設置された対策本部へ報告することが挙げられる。加えて、水門閉鎖と避難呼び掛けの広報を、長面・尾崎地区を中心に実施することが想定されていたとのことである。

(3) 指定避難所の指定とハザードマップの想定

石巻市の地域防災計画によれば、市は、住災害により家屋の倒壊、焼失等の被害を受けた住民や、被害を受けるおそれのある住民等が避難する施設として、地区及び災害種別ごと(地震災害、津波災害、土砂災害)に指定避難所を定め、その所在、名称、構造、受け入れ可能人員等を把握し、住民へ周知することとされており、「安全性が確認され³、かつ、避難者を一時的に受け入れ、保護し、避難者の生活機能を確保することができる、市が指定・運営する施設であること」が指定避難所の施設基準とされていた。

指定避難所に関しては、本庁及び各総合支所でそれぞれ候補となる施設を挙げ、宮城県が平成16年3月に公表した第三次地震被害想定調査に基づいて、津波や洪水の浸水予測など災害危険の有無と、その立地の標高などを勘案して、安全性を確認の上で指定された。

なお、地域防災計画の修正と並行して、「日本海溝・千島海溝付近海溝型地震に係る地震防災対策推進計画」の策定が県から求められた。この際、「津波に関する防災対策を講ずべきものに係る区域」の指定が行われたが、この特定にあたっては、県の発表した第三次地震被害想定調査の津波浸水域をもとに、地図上で対象区域を町丁目単位にするという作業が行われた。この結果、河北地区においては、次表の地区が対象区域とされた。なお、町丁目名に誤りがあるが、どの段階で誤りが生じたのかは現段階では特定できていない。

河 北	福地字大正、福地字昭和、福地字山下、釜谷字新町裏、釜谷字谷地中、釜谷字川前、長面字鳥屋場、長面字須賀、長面字洞が崎、長面字平六、長面字角内谷地、長面字梨木、長面字江畑、尾崎字弘象
-----	---

前述のとおり、石巻市では、宮城県が平成16年3月に公表した第三次地震被害想定調査に基づいて地域防災計画とハザードマップを策定することとし、ハザードマップについては、平成21年3月から市民、関係機関への配布を開始した。

石巻市の「防災ガイド・ハザードマップ」(平成21年3月)によれば、大川小学校は、津波の予想浸水域から外れており、津波の際の避難所として示されていた(なお、洪水の浸水深区分0.5m~1.0mとされており、洪水の際は避難所としての利用は不可とされ

³ 「津波・洪水時の避難所としては浸水しない施設であること」とされていた。

ていた)。

この津波予想浸水域は、宮城県の「第三次地震被害想定」で想定された津波浸水域であり、前述のとおりこの想定結果に基づいて「地域防災計画」で津波の際の避難所として指定されていたことによる。

ただし、このハザードマップが依拠している宮城県の第三次地震被害想定における津波浸水予測図は、宮城県沖地震（連動型）を想定して予測した津波浸水域に、既往津波（昭和三陸津波、チリ地震津波）の浸水域を重ねて作成されたものであり、今回の東日本大震災のような巨大地震による津波は、そもそも前提とされていなかった。そのため、このハザードマップには、「浸水の着色のない地域でも、状況によって浸水するおそれがありますので、注意してください」との記載がある。



凡例	避難所	浸水深 5.0m以上	浸水深 2.0m以上 ～3.0m未満	国道
		浸水深 4.0m以上 ～5.0m未満	浸水深 1.0m以上 ～2.0m未満	県道・主要地方道
	警察署	浸水深 3.0m以上 ～4.0m未満	浸水深 0.0m以上 ～1.0m未満	
	郵便局			

「石巻市防災ガイド・ハザードマップ」大川小学校周辺拡大図
(「防災ガイド・ハザードマップ 石巻市 平成21年3月」を元に作成)

(4) 地域における防災訓練

宮城県下では、昭和53年6月12日に発生した「宮城県沖地震」を契機として、6月12日が「県民防災の日」に指定されており、毎年、その時期に合わせて各地で総合防災訓練が実施されている。

平成22年度の石巻市における総合防災訓練は、平成22年6月6日（日）、市内各地区で実施された。このうち河北地区では、市立二俣小学校を主会場として、次の項目の訓練が行われている。

- (1) 濃煙道通過体験訓練
- (2) 初期消火（消火器）訓練
- (3) 初期消火（水バケツ）訓練
- (4) 初期消火（濡れシート）訓練
- (5) 応急手当訓練 ①骨折の応急手当て、②止血の仕方、③担架の作り方
- (6) AED（除細動器）使用訓練
- (7) 炊き出し訓練
- (8) 天ぷら油火災消火訓練
- (9) 消防団放水訓練

また、平成16年6月13日（日）には、大川小学校を会場とし、大川地区を重点地区とした「河北町6.12総合防災訓練」が行われた。震度6弱の地震で町内に甚大な被害が発生したとの想定の下、大川小学校の児童・教職員も参加して、初期消火、応急救護の訓練が行われた。その結果報告には、「*今回の訓練で、宮城県沖地震を想定し、初の「発災型訓練」として、住民総参加の訓練を試みたが、大川小学校が出校日にしての協力、釜谷地区という地域の利便性等が加味され、予想を超える参加者があり、当初の目的以上の効果が表れたものと言える訓練であった。」⁴⁾との記載がある。

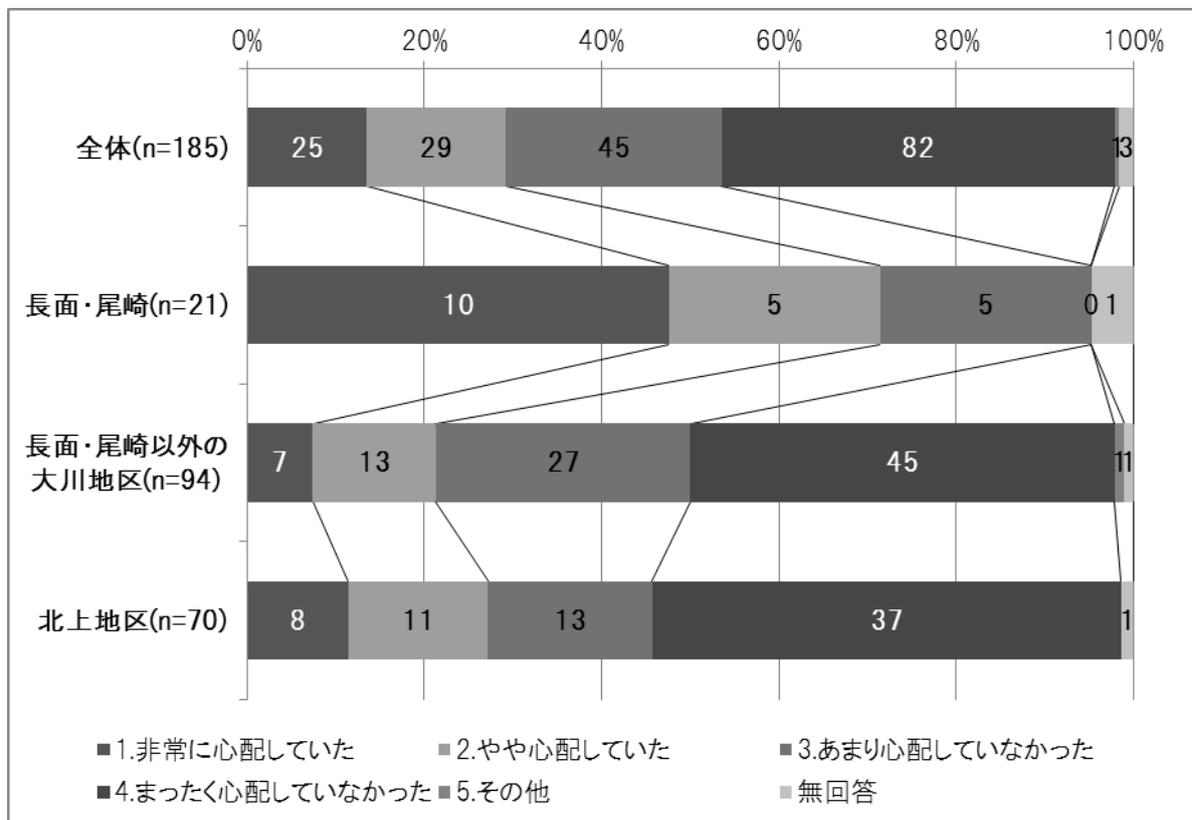
なお、平成23年6月に開催予定（震災のため実際には開催されず）であった平成23年度総合防災訓練も、大川小学校を会場とすることが予定されていたため、震災の直前、防災訓練を担当する河北総合支所職員が同校を訪問して打ち合わせが行われた。これに参加した複数の関係者によると、この打ち合わせの場で、津波に関する事項が話題にのぼり、学校としての避難先について会話が交わされたものの、具体的な避難先や避難方法は明確にならなかったとのことである。

⁴⁾ 平成16年6月15日付け報告文書による。

(5) 地域住民の防災意識

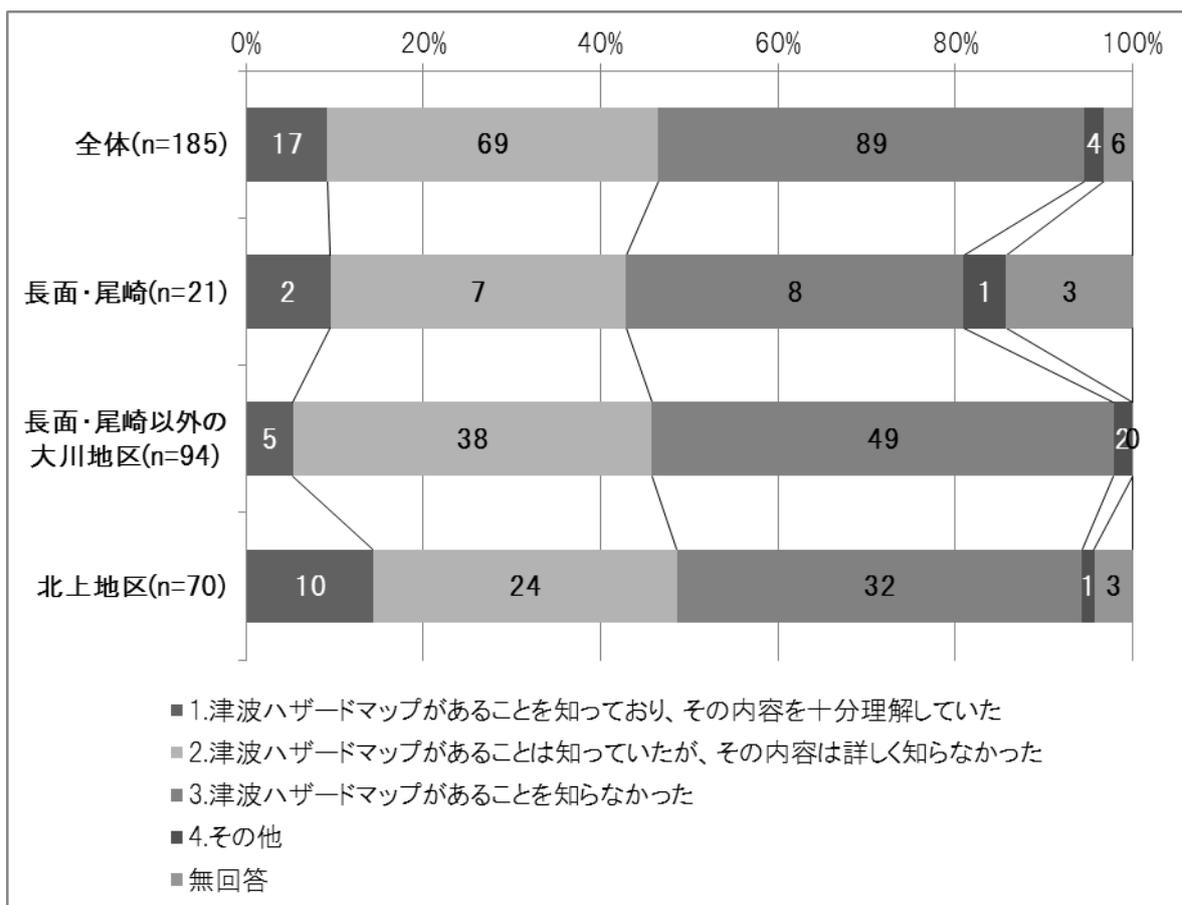
震災当時、大川地区・北上地区に在住であった住民を対象として行ったアンケート調査の結果から、地域住民の当時の防災意識についてまとめると、次のとおりである。

震災以前に「津波災害」をどの程度心配していたかについて尋ねたところ、「非常に心配していた」「やや心配していた」との回答は長面・尾崎地区では約70%にのぼったが、長面・尾崎以外の大川地区では約20%、北上地区では約25%にとどまり、「あまり心配していなかった」「まったく心配していなかった」との回答が70%以上を占める結果となった。



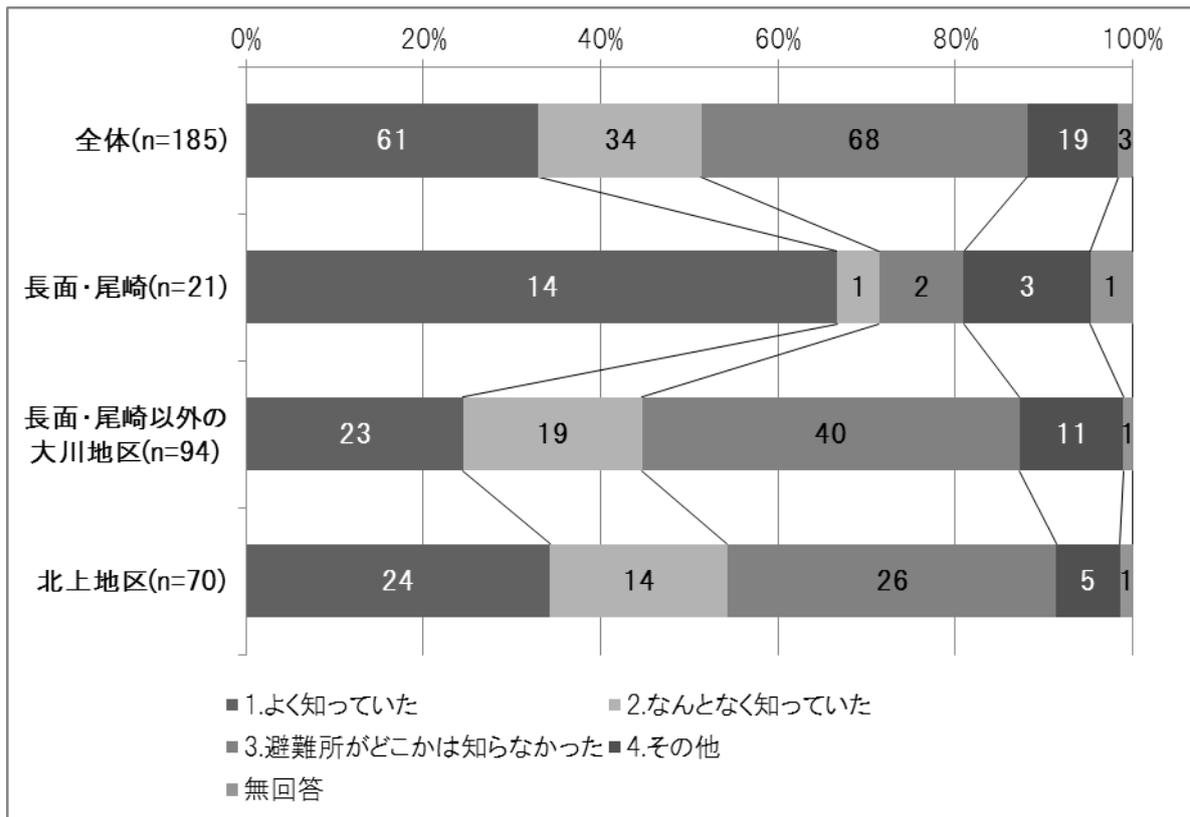
震災以前の居住地区での「津波災害」発生に対する意識（グラフ中の数字は回答数、以下同じ）

また、平成21年3月に配布された「防災ガイド・ハザードマップ」中にある津波浸水予想区域（津波ハザードマップ）の認知度を尋ねたところ、「津波ハザードマップがあることを知っており、その内容を十分理解していた」との回答は、全ての地区で10%前後であり、回答者の多くがその内容を詳しく知らなかった、もしくは、津波ハザードマップがあること自体を知らなかったことが明らかとなった。



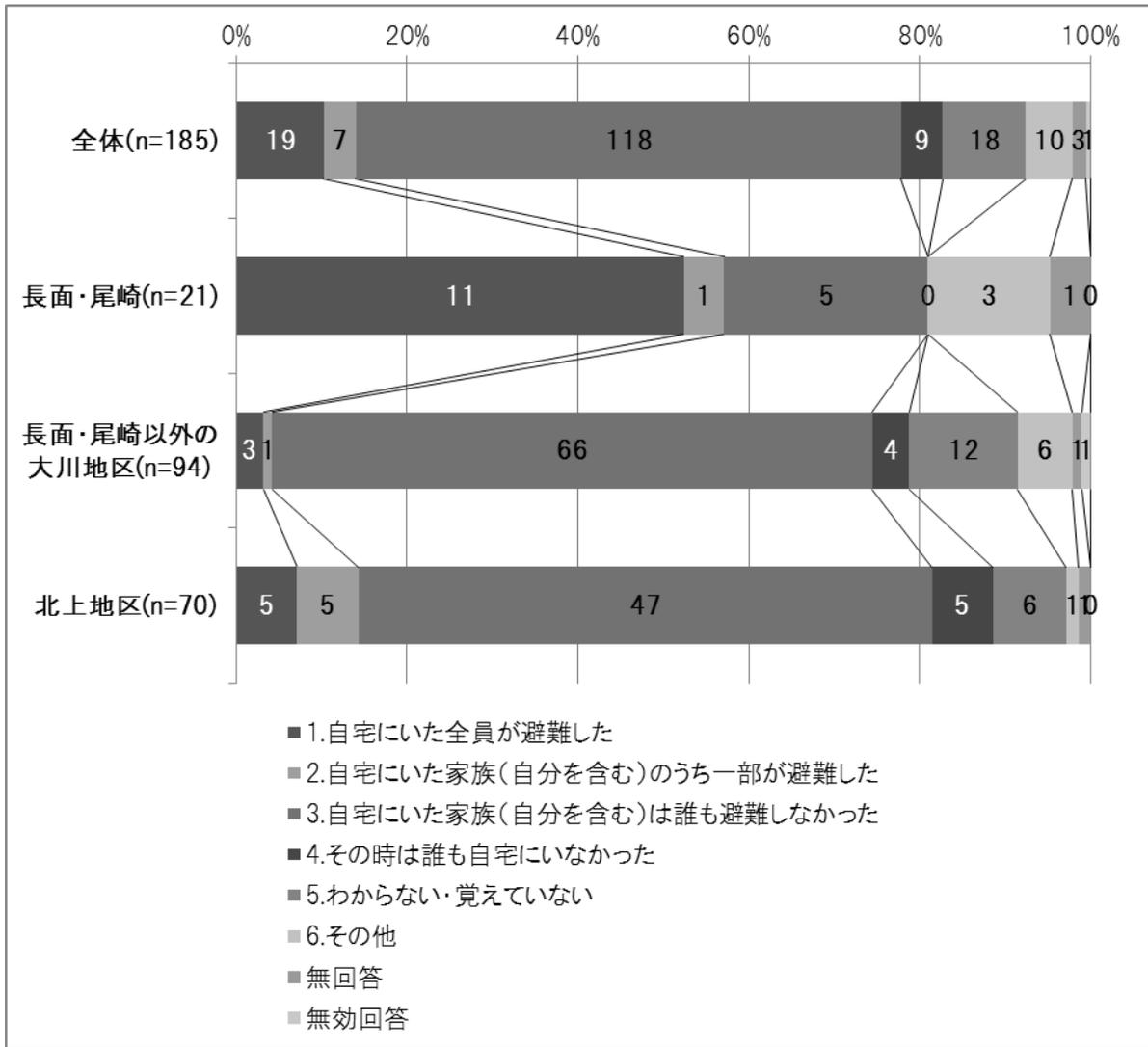
津波ハザードマップの認知度

さらに、津波発生時の避難すべき場所について、その認知度を尋ねたところ、「よく知っていた」「何となく知っていた」との回答は、長面・尾崎地区では約70%となり、長面・尾崎以外の大川地区では約45%、北上地区では約55%となった。一方で、「避難所がどこかは知らなかった」との回答は、長面・尾崎地区では約10%にとどまったものの、長面・尾崎以外の大川地区および北上地区では約40%となった。



津波発生時に避難すべき場所の認知度

震災の前年（平成22年）2月28日に南米チリで発生した地震に伴い大津波警報が発令された際の行動を尋ねた設問に対しては、「自宅にいた全員が避難した」「自宅にいた家族のうち一部が避難した」との回答は、長面・尾崎地区では約60%にのぼる一方で、長面・尾崎以外の大川地区および北上地区では10%前後となり、「自宅にいた家族は誰も避難しなかった」との回答が70%前後という結果であった。



平成 22 年 2 月 大津波警報発令時の避難行動

3. 1. 3 学校及び地域の歴史

(1) 学校の立地・校舎設計

大川小学校は、海岸から約4キロメートル、北上川から約200メートルの場所に位置しており、その標高はおよそ1～1.5メートル程度であった。震災当時の校舎は、昭和60年3月に完成し、翌4月、河北町立大川第一小学校と大川第二小学校を統合して開校した河北町立大川小学校（当時）として供用を開始したものである。

新築する校舎を現在の校地に建設することは、設計開始の時点ですでに決まっており、当初、町は、木造の旧校舎が建っている場所に新校舎を建設するという意向を持っていたが、約2年近い工事期間中の学校活動を考慮し、木造校舎を活かしてそこで授業を行いつつ、当時のグラウンド部分に、若干の敷地拡張をして新校舎を建設することになった。体育館のみ、旧校舎時代から使っていたものをそのまま使って、新校舎と渡り廊下で結んだ。

新校舎の全体計画は「既存屋内運動場を有効な動線で連結し、その効率的活用を図る事を基本とし」ており、「廊下及び渡り廊下を軸線とした動線計画により授業間の児童の移動をスムーズにし、更にゆとりある空間を多く取り入れた事により児童が自由に学習でき、そして楽しい学校生活を営む事ができるよう施設整備に配慮した」とされる。

新校舎の地震対応については町から指示があり、構造計画に当たっては、地盤のボーリング調査が行われている。ボーリング調査の結果によれば、大川小学校の校地は、液状化のおそれがある砂シルト層で、基礎杭を12～22mほど打つ必要があった。（理想的には、地盤改良を行いたいところだが、予算・期間の関係からそれをあきらめたという経緯がある。）また、校庭は常に凹凸ができ、少し掘れば水が出るなど、地下水位も浅い地盤であったことから、学校の立地としては決して良い地盤ではない。

また、設計上、地震や火災等の災害時の避難については考慮されており、低学年の1～2年生は別棟にして窓からすぐに校庭に出られる構造となっているほか、体育館側と昇降口側の2方向に避難できるようになっている。しかし、設計時に水害や津波は全く想定されていなかった。新校舎は、津波の来襲する川・海の方に開いておらず、校庭側に開口部の多い校舎となっていたが、それは、既存校舎の側を校庭にする関係で、校庭側に向かって開くようにしただけで、津波や水害を意識して設計されたわけではない。

(2) 地域における過去の災害履歴

大川村誌（昭和 31 年発行）には、次のような記載がある。

「洪水被害中藩費を以て復旧した当村に關係ある年代とその情況

文久八年七月三日の洪水 倉塚、福地、相野谷、橋浦の各村堤防破壊、水利上に就いての紛争。」

（注：文久は 4 年(1864 年)までで、元治、慶応と続く。文久 8 年は慶応 4 年に相当。）

明治三陸大津波に関しては、宮城県海嘯誌（明治 36 年発行）に

「大川村 大川村は追波の河口に臨み又其湾に面し居るも沿海民家少なかりしを以て流失家屋僅かに一戸死亡亦一人に止まれり」とある。

昭和三陸大津波では、宮城県昭和震嘯誌（昭和 10 年 3 月 3 日発行）第 6 章震嘯災日記抄に大川村長からの報告として、

「昭和八年三月三日 大川村長 柴桃正實 印

石巻土木工區主任殿

被害報告ノ件

昭和八年三月三日午前三時頃海嘯襲來左記被害有之候ニ付報告候也

記

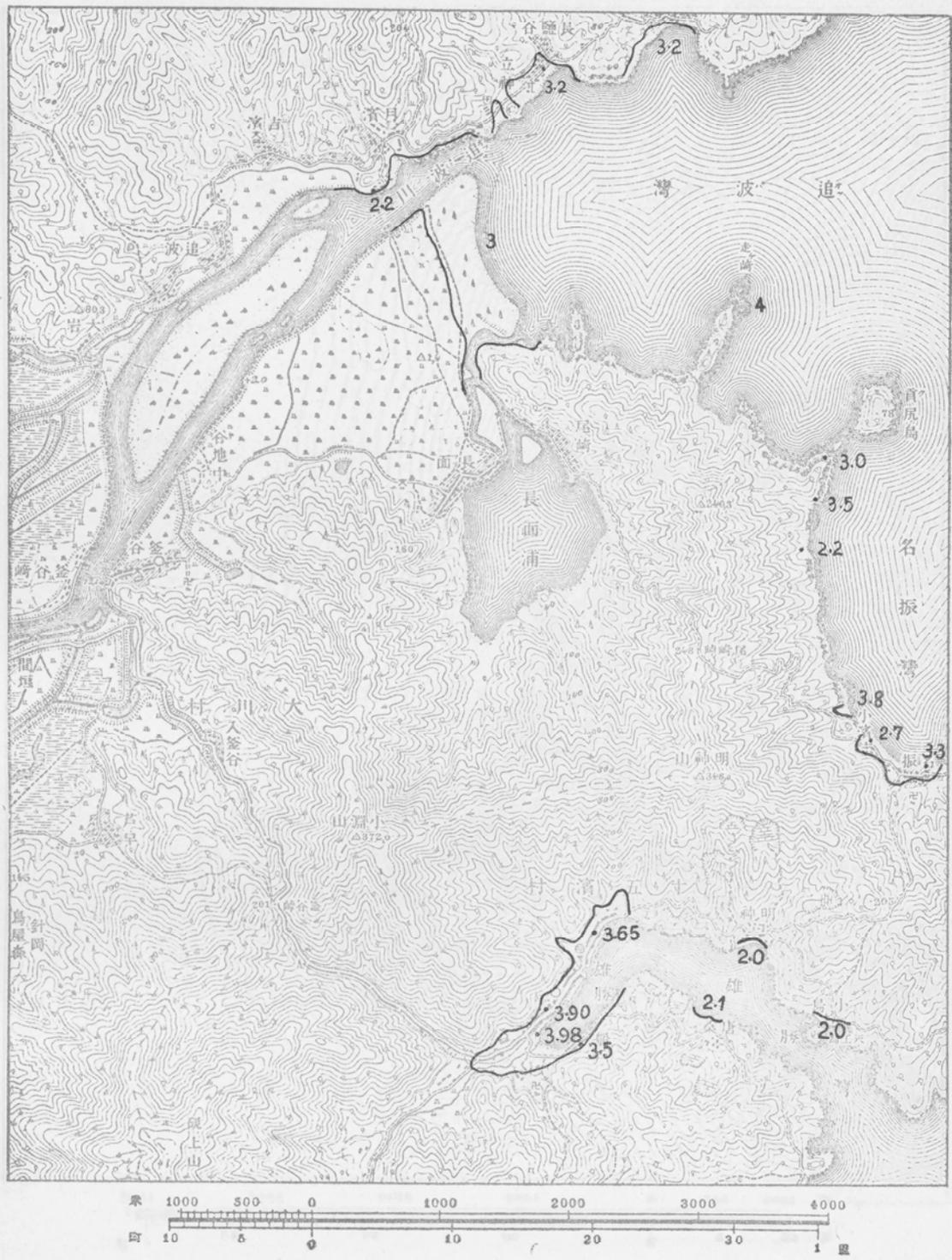
- 一、長面、尾崎間橋梁悉皆流失セリ
- 一、海岸堤防(須賀)表腹付約二十間餘欠潰
- 一、海門口防波堤約三十間流失埋没セリ

追而電話同朝ヨリ不通ニ付書面ヲ以テ申上候」とあるほか、

大藏省令第六號 昭和八年法律第十三號(震災被害者テ對スル租税ノ免除猶豫等ニ關スル件)施行法（昭和 8 年 3 月 27 日）の第一条震災地に大川村が含まれている。

また、地震研究所彙報別冊第 1 号には、測定結果として次ページに示す図が付けられている。

(震研彙報別冊、第一號、報告圖版)



第 197 圖 Map No. II, 55.

昭和三陸津波における大川地区近隣の津波来襲状況
 【出典】地震研究所彙報別冊第1号（昭和9年3月）

これらに加え、大川小学校及びその前身である大川第一小学校・大川第二小学校の沿革史に、近隣における過去の災害履歴として記載されているものを加えると次表のようになる。

発生日	災害内容
文久8年7月3日 (慶応4年8月20日)	洪水で倉塚、福地、相野谷、橋浦の各村堤防破壊
明治29年6月15日	明治三陸大津波（長面にて、死者1名、流失家屋1）
昭和8年3月3日	昭和三陸大津波（長面・尾崎間橋梁全て流失、須賀海岸堤防表法20間決壊、海門口防波堤30間流失） （長面にて津波痕跡高3m）
昭和53年 6月12日	宮城県沖地震（震度5）
昭和55年12月24日	台風による風水害（長面地区大被害）
平成15年 7月26日	宮城県北部連続地震発生（大川小学校異常なし）
平成18年10月 7日	低気圧接近により尾崎地区を中心に床下浸水の世帯が でる。
平成22年 2月28日	チリ地震津波により住民避難所となる （11：20開設指示～21：50避難所待機解除）

また、同校の沿革史等には記載はなかったものの、関係者からの聴き取りによると、平成15年3月末頃、大川小学校裏山の斜面（斜面崩壊対策工が施されている位置）において崖崩れが発生し、校地の一部まで土砂が押し寄せた事例がある。この結果、平成15～16年度に「大川小学校前急傾斜地工事」が施工された。

3. 1. 4 教職員の知識・経験等

(1) 学校防災・学校安全に関する知識・経験等

事故当時、大川小学校に勤務していた13名の教職員について、個々の教職員の研修履歴に関する記録（おおむね平成20年度分までが記載されている）をもとに、受講した研修名称等の確認を行った。この結果、研修名から学校防災・学校安全に特化した内容であることが推測できる研修は、1名の受けた1件（昭和57年度「安全指導者講習会」）のみであった。ただし、研修名称のみでは内容の把握できないものがあり、また、研修履歴の記録が各教職員の受講した研修をすべて網羅していない可能性もある。

一方、平成21～22年度に、宮城県及び石巻市により実施された学校防災・学校安全関連の研修などとしては、下記のようなものがある。

平成21～22年度に行われた学校防災関連の研修等

①宮城県教育委員会が行った研修会

- ・平成21年5月26日
- ・平成22年5月25日

②石巻市・石巻市教委が行った研修会

- ・平成22年1月28日（平成21年度石巻市学校安全対策研修会）
- ・平成23年1月20日（平成22年度石巻市学校安全対策研修会）

③石巻市教委による各種研修会・連絡会議・調整会議・指示及び通達

- ・平成21年6月4日（第1回学校安全連絡会議）
- ・平成21年8月19日（第2回学校安全連絡会議）
- ・平成22年1月28日（第3回学校安全連絡会議）
- ・平成22年2月8日（市教委「学校における災害対策体制についての指示」）
- ・平成22年8月4日（教頭・中堅教員研修会）
- ・平成22年8月10日（定例校長会）蛇田中学校長による講話
「非常災害時の対応について」
- ・平成23年2月15日（避難所開設に伴う調整会議）

これらについて、その内容の詳細を把握するとともに、大川小学校の事故当時の教職員（研修当時は他校教職員であった場合も含む）の参加状況を確認した結果が、以下のとおりである。

平成21～22年度に行われた学校防災関連の研修会等の主な内容と参加状況

① 〈宮城県教育委員会による研修会〉

開催日時	研修名	主な内容（概要）	参加状況
平成21年 5月26日	平成21年度 防災教育指導 者養成研修会	<p>「防災教育の現状と課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の宮城県沖地震について ・防災教育の実態の把握（マニュアル・避難訓練等） ・みやぎ防災教育基本方針 <p>「防災教育指導計画の作成にあたって」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全教育の進め方 ・発達に応じた教育について <p>「研究協議（グループ協議）」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校での現状・課題の意見交換 ・防災教育をより効果的に実施する授業プラン 	1名 ※研修当時は 他校に在任 中で、その 後大川小学 校へ転任
平成22年 5月26日	平成22年度 防災教育指導 者養成研修会	<p>「防災教育の現状と課題」</p> <p>「防災教育指導計画の作成にあたって」</p> <p>「研究協議（グループ協議）」</p> <p>《以上、前年度とほぼ同様の内容》</p> <p>「緊急災害から身を守るために -局地的大雨、津波防災-」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震の基礎知識 ・津波の基礎知識、避難について ・局地的大雨、川の増水について、気象情報 	1名 当時の安全 主任教諭

② 〈石巻市教育委員会による学校安全対策研修会〉

開催日時	研修名	主な内容（概要）	参加状況
平成22年 1月28日	平成21年度 石巻市学校安 全対策研修会	<p>「石巻市地域防災計画（震災対策編）」</p> <p>「学校における災害対応の基本方針」</p> <p>「石巻市立〇〇〇学校災害対策要綱（例）」</p> <p>「(参考資料) 災害対応マニュアル(例)」等紹介</p>	1名 教頭
平成23年 1月20日	平成22年度 石巻市学校安 全対策研修会	<p>「石巻市地域防災計画（風水害等対策編）」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第18節 防災教育」 ・「第9節 避難所収容対策」 	1名 教頭

③ 〈石巻市教育委員会による各種研修会・連絡会議・調整会議・指示および通達〉

開催日時	項目名	主な内容（概要）	参加状況
平成21年 6月4日	第1回 学校安全 連絡会議	「平成20年度石巻市学校安全連絡会議事業報告・計画」「石巻市学校安全連絡会議会則」 「防災対策に関する実態調査」（小学校:43校中学校:23校） 『「防災対策に関する実態調査」の結果より』 「児童生徒の安全を確保するために」	不明
平成21年 8月19日	第2回 学校安全 連絡会議	「児童生徒の安全を確保するために」 『「児童・生徒の安全を確保するために」～提言～（案）」	不明
平成22年 1月28日	第3回 学校安全 連絡会議	「児童生徒の安全を確保するために～防災教育への提言～」 「平成20年度防災対策に関する実態調査結果」	1名 教頭
平成22年 2月8日	学校における 災害対策体制 についての指 示	学校における災害対策体制の整備を指示する文書 （メールにて市教委から石巻市立の小中学校宛に）	—
平成22年 8月4日	平成22年度 石巻市立小・ 中学校教頭・ 中堅教員研修 会	「児童生徒の安全確保・文教対策」 ・児童生徒の安全確保（予警報発表時の対応、 発災時の対応） ・災害後の学校施設の利用 ・教育再開に向けた取り組み	3名 教頭 教務主任 教諭
平成22年 8月10日	校長定例会	蛇田中学校校長の講話 「非常災害時の対応について」 同年1月28日に提示された「学校における災害対応の基本方針」等の課題等	1名 校長
平成23年 2月15日	避難所開設に 伴う調整会議	避難所開設に伴う連絡体制 避難所運営 非常電話の設置	1名 教頭

（2）地域に関する知識・経験等

事故当時、大川小学校に勤務していた13名の教職員について、同校における勤続年数（平成22年度初頭時点）別に集計すると、次のとおりである。

震災当時の大川小学校教職員の同校における勤続年数

大川小学校での 勤続年数	人数	1 2 3 4 5 6 (人)					
		0年(1年目)	4	■	■	■	■
1年(2年目)	5	■	■	■	■	■	
2年(3年目)	1	■					
3年(4年目)	2	■	■				
4年(5年目)	0						
5年(6年目)	1	■					
6年以上	0						
計	13						

※「1年(2年目)」5名中1名は、過去に7年間、同小の勤務経験がある。

【出典】石巻市教育委員会提供資料より作成。

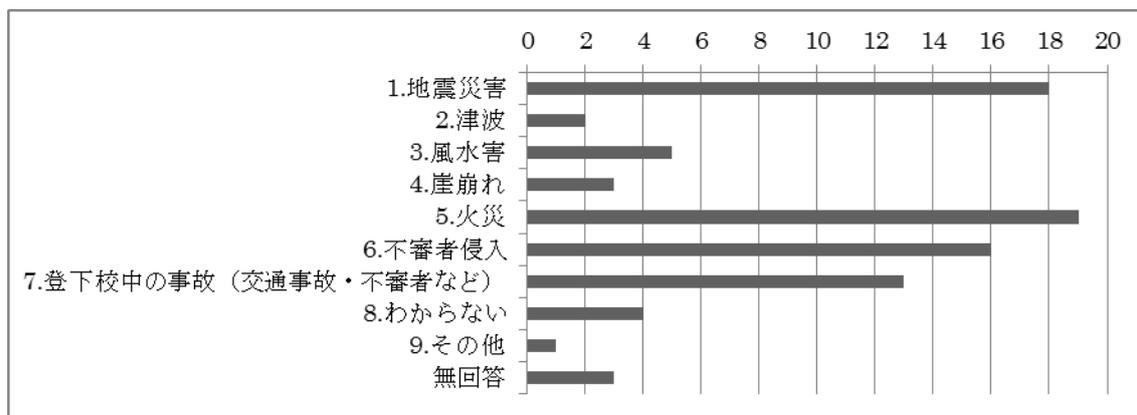
教職員13名の大川小学校での勤務年数は、過去の経験年数(勤続年数「1年(2年目)」のうち1名が過去に7年間の勤務経験を有していた)を加算しても、事故当時(平成23年3月)時点で2年未満が8名(約6割)を占めている。このため、教職員の多くは、学校周辺の地域の状況(地理的条件、災害履歴、社会環境等)について、必ずしも熟知していなかった可能性が考えられる。

(3) 過去に勤務した教職員の認識

大川小学校に震災以前在籍していた教職員を対象に、在籍当時における災害対策マニュアルの認知度や避難訓練といった事前対策、災害時における地域社会との関わり、および裏山の利用・指導状況について尋ねるアンケート調査を行った。

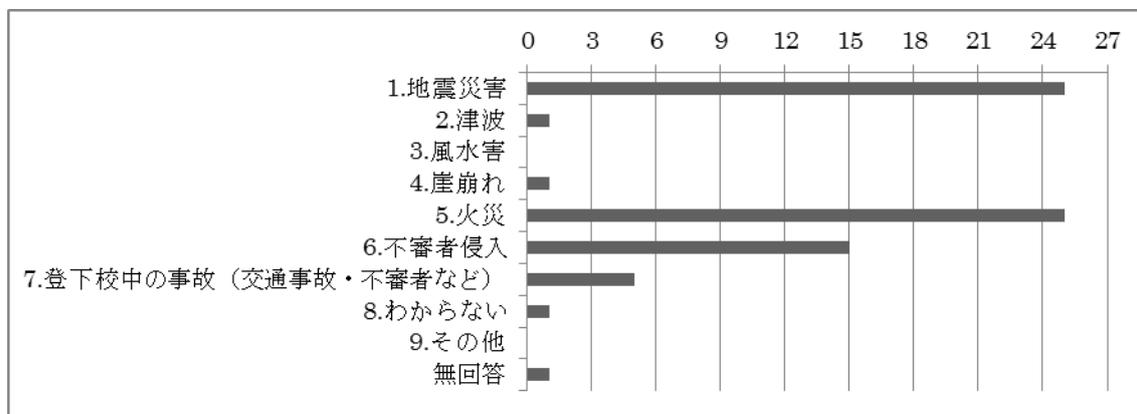
事前対策関連として、大川小学校における災害対応マニュアルについて尋ねたところ、職員会議で災害対策マニュアルについての話し合いが持たれた頻度は「たまに」であり、「マニュアルの存在は知っていたが、内容については詳しく知らなかった」と回答した人が多く見受けられた。このことから、過去の大川小学校においては、必ずしも常に教職員全員が災害対応マニュアルの内容を把握している状況ではなかったと考えられる。また、その災害対応マニュアルで想定されていた事件・事故・災害は、地震災害、火災、不審者侵入、登下校中の事故(交通事故・不審者など)であったと多くの人が回答しており、津波、風水害、崖崩れが想定されていたと答えた人は少数だった。

災害対応マニュアルの想定



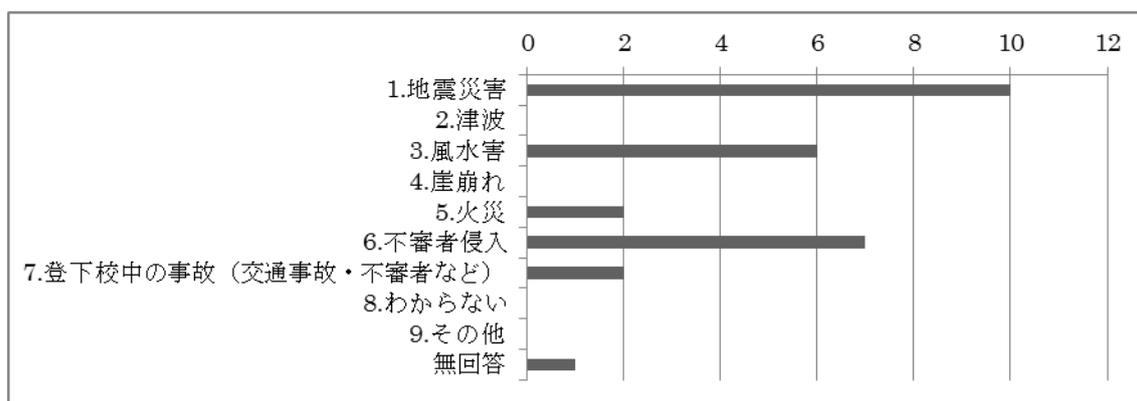
また、大川小学校において実施されていた避難訓練では、災害対応マニュアルとほぼ同様、地震災害、火災、不審者侵入が想定されていたと答えた人が多かった。

訓練避難の想定



災害時、児童を保護者に渡す引渡しについては、その訓練を大川小学校で実施したことはないという回答の人が大多数を占めていた。実施はしていないが、引渡し訓練について教職員間で話したことがあると答えた人は、主に地震災害、風水害、不審者侵入を想定しての話だったと回答している。

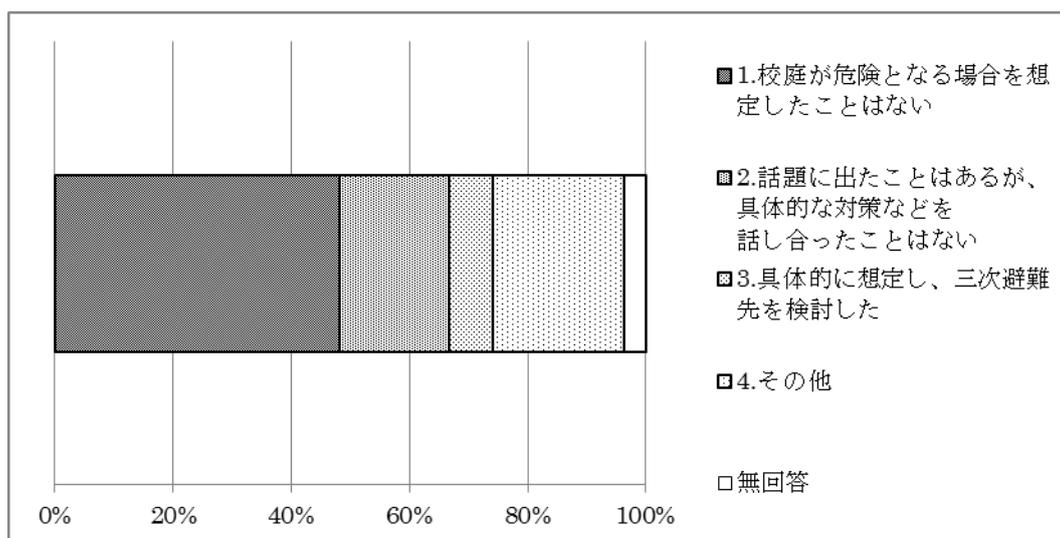
引渡し訓練の想定



次に、災害対応マニュアルや職員会議に限らず、大川小学校在籍中に教職員間で津波災害あるいは浸水被害について話したことがあるか尋ねたところ、津波災害については大半の人が話したことがないと答えた。その一方で、浸水被害については多くの人が話したことがあると回答した。さらに、津波災害あるいは浸水被害について、個人として、大川小学校赴任時や在籍中にどの程度心配していたかを尋ねたところ、津波災害については大多数の人が心配していなかったと答えた。その理由としては、海から遠いこと、過去の津波被害を聞いた事がなかったこと、などが挙げられていた。一方、浸水被害については、過去に浸水したことがあったため心配していたという人や、堤防があるため心配していなかったと答える人が見受けられ、各回答者の在籍中の経験や堤防等の周囲の状況により回答が分かれたようだった。

また、二次避難先である校庭に危険が及ぶことを検討したことがあるか尋ねたところ、「校庭が危険となる場合を想定したことはない」あるいは「話題に出たことはあるが、具体的な対策を話し合ったことはない」と答える人が多かった。その一方で、少数ではあるが、「具体的に想定し、三次避難先を検討した」と回答し、その三次避難先として「三角地帯」が話に出たと回答する人もいた。

二次避難先（校庭）の危険性に関する検討状況



災害時における地域社会との関わりに関して、大川小学校が災害時における地域の避難所となっていることについては、大半の人が「なんとなく知ってはいたが、学校がどう対応するのかは十分知らなかった」と答えており、学校が避難所であることに対しては「特に疑問・心配は感じていなかった」あるいは「安全性には疑問を感じなかったが、学校で避難所対応ができるのか心配だった」と答えた人が見受けられた。また、大多数の人が、地区懇談会や PTA 会議など、学校と地域や保護者が話し合う場で災害時の避難について話題になったり要望が出されたりしたことはなかったと答えた。これらのことから、教職員、地域や保護者とも、災害時における大川小学校の安全性について格段に危機感を抱いていたわけではなく、教職員は避難所となった時の対応について特に憂慮していたと考えられる。

裏山の利用および指導状況については、裏山を「A：ポンプ小屋の付近から登る山」、「B：土留め工事された場所」、および「C：体育館の裏手の山」の3か所に分けて尋ねた。3か所のうちCについては、学校管理下で自分や他の教員が登ったり、児童と登ったりしていたと答える人が割と多く見受けられたが、AとBの箇所を登っていたとの回答は少数だった。

学校裏山の利用状況

在職中における裏山A～Cの利用状況 (単位：人)					
使われ方		山の場所	A	B	C
学校管理下で	1.自分が登ったことがある		4	3	12
	2.自分が授業で児童と一緒に登ったことがある		2	0	9
	3.他の先生が登るのを見たことがある		1	3	5
	4.他の先生が授業で児童と登るのを見たことがある		1	1	6
学校とは 関わりなく	5.自分が登ったことがある		1	3	3
	6.他の先生が登るのを見たことがある		1	2	0
	7.地域の人が登るのを見たことがある		1	0	2
	8.子どもが登るのを見たことがある		0	1	2
9.誰かが登っているのを見たことも聞いたこともない			5	4	4
10.以前は登っていたと聞いたことだけはあ			0	4	1
11.その他			0	1	1
無回答			1		

また、在職中、学校として児童に対して山へ登ることについてどのように指導していたか尋ねたところ、「危ないので登らないようにと指導していた」あるいは「特段の指導は行っていなかった」と回答した人が多かった。登らないようにと指導した理由としては、急斜面であったことや崖崩れを心配したことなどが挙げられていた。これらのことから、裏山のAとBの箇所はあまり利用されていなかったこと、頻度はわからないもののCの箇所は登ることがあったこと、教職員によっては子どもの安全を考えて登らないように指導していたこと、が考えられる。

3. 1. 5 学校経営・職場管理等の状況

(1) 学校の運営・管理の状況

①教育計画に見られる学校の経営・管理の目標とその評価

大川小学校の教育計画（平成22年度）は、石巻市教育基本方針を受けて学校経営の方針が立てられており、「学ぶ意欲と思いやりのある豊かな心を持ち、たくましく生き抜く児童の育成」を教育目標にしている。そして、目指す児童像として「考える子ども」「思いやりのある子ども」「たくましい子ども」の3本柱を掲げている。

また、目指す教師像としては、「学校は一つの組織体である。全教職員の協働体制を確立しながら、一致協力し合い、児童一人一人が個性を發揮し、充実した生活を送ることができるよう、次の教師像を掲げ努力する。」と、組織体と協働体制を強調している。

こうした教育計画に基づいて行われた教育活動および経営・管理は、年度末に自己評価（教職員と保護者によるアンケート調査）し、学校評議委員会（学校の管理職と外部委員3名で構成）で審議され、見直されることになっている。その評議委員会に出された自己点検評価資料（「大川小学校をよりよくするためのアンケート調査結果」では、保護者からの評価もよく、総じて問題のない教育活動がなされていた。そのことは、ある学校評議員が、その委員会に出された資料から、「保護者の評価も高く（80%以上）、先生方も一生懸命やっており、よいのでないかと思った」と語っている。

②児童の安全面と関わっての学校運営・管理の状況

大川小学校の教育計画に掲げる3本柱の目標の3番目、「たくましい子ども」像に対応した「日常生活における健康安全の問題を自分で判断し、安全に行動できる能力・態度を身につけさせる。」にかかわって、さまざまな事故・災害への対応が記載されている。とりわけ重視していたのが、交通事故への対応・訓練であり、不審者対応であった。

こうした部分を含む教育計画の作成過程については、通常、毎年12月頃にその年度の反省点を各教職員が確認した後、1月頃から数回に分けて改善点を話し合い、その後分担して改善点を修正、それを教務主任・教頭で集約し、次年度の変更点について全体で確認する、というやり方を原則としていた。完成直前の最終確認は、主として教務主任と教頭が担当し、校長は特に気になる部分を中心に目を通した上で、印刷・製本が行

われる。ただし、平成22年度の教育計画に関しては、一部教職員の体調不良などが関係して教育計画の完成が遅れ、4月までずれこんだとされる。

また、平成22年度の教育計画の災害対応マニュアルに関しては、3. 1. 4 (1) で前述した平成21年度の各種研修会等から得られた防災に関する知見が反映された形跡は、あまり見受けられない。同様に、平成21～22年度に行われた各種の研修会や会議における知見、指示・通達などに関して、職員会で議論されたり、訓練などの実践に結びついたりしたという形跡が見つからない。

地震や津波対応については、3. 1. 1 (1) に記載した「地震（津波）発生時の危機管理マニュアル」が平成22年度教育計画の末尾に書かれているが、この文書の記載がなされたプロセスや、これをどのように教職員に共通理解され、運用しようとしたのかという経緯に関しては定かでない。

③学校評価・学校評議委員会と学校安全面での評価の不備

先に述べたとおり、毎年度の教育活動評価をするための保護者と教師によるアンケート調査の結果によると、総じて教育活動の評価は高かった。しかしながら、その評価アンケート調査（大川小学校をよりよくするためのアンケート）の項目に、自由記述も含めて児童の命や安全面に關わる事項がまったく含まれていなかった。

また、学校評議委員制度は、学校の運営管理や教育活動を、学校内部の自己点検評価だけでなく、外部の有識者の目を借りて見つめなおし改善するという目的で、平成12年度より全国的に実施されてきたものである。しかしながら、大川小学校でこれを実施し始めたのは、それ以前に同校に勤務していた複数の教職員（管理職）への聴き取りの結果、平成22年度からのようである。また、同年度の評議委員会議は、年度末も近い3月に1回開催され、前述の評価アンケート結果の確認とともに、委員からの自由意見として卒業式の服装のあり方などに関する意見を得て、約1時間あまりで終了した。

(2) 学校と地域、保護者等との関係

大川小学校の平成22年度学校経営要録には、「児童・生徒及び地域の実態」に関する記述として、児童の特徴・地域の自然環境や生活状況を述べた上で、「保護者は学校教育への関心が強く、学校行事やPTA活動に積極的に参加し、協力的である。地域の諸団体や祖父母の協力も得られやすい。」と書かれている。

保護者、地域住民、元教員に対する聴き取り結果でも、このように学校と地域・保護

者との関係は密接だったということが大方の意見であり、たとえば「何かあると地域の
人と相談し、また地域の人も心配して学校に来てくれた。地域との団結力は強く、素晴
らしい数年間の学校生活を送ることができた。」(元教員)などの意見があった。しかし
他方で、近年、これまで行ってきた学校と地域との関連的活動(学校行事ではないスポ
ーツ少年団の活動や有志によるスキー行事など)に対する教員の参加がなくなるなど、
学校と保護者との協力関係に変化が生じていたことを複数の保護者が指摘した。

また、平成19・20年度のPTA拡大役員会(第1回・共に年度当初の4月開催)
では、議題に「地震発生時のPTAの役割」が入っており、その資料中に「児童の引き
渡しについて」が記載されて、原則震度6以上の場合の学校とPTAの連絡体制、対策
本部、引き渡し手順等が書かれている。しかし、同22年度の拡大役員会にはその議題
がなく、資料もない。

3. 1. 6 石巻市・宮城県・国における学校防災の取り組み

(1) 石巻市における取り組み状況

石巻市における近年の学校防災に対する取り組み状況を次表に示す。

平成14年度以降の石巻市における学校防災の取り組み

(石巻市教育委員会提供資料をもとに作成)

年度	石巻市教育委員会	宮城県教育委員会	その他
平成14			平成14年7月11日 台風6号被害
15	平成15年8月29日 石巻教育事務所における教育懇談会において、「災害発生時の学校の対応等の基本的なあり方」を試案として提示		平成15年5月26日 三陸南地震 平成15年7月26日 宮城県北部地震 平成15年9月15日 「みやぎ震災対策アクションプラン」策定
16	平成16年10月7日 「学校における災害対策方針」策定、平成16.10.12付で各小中学校に通知(合併前の旧石巻市のみ)	平成16年7月22日 「宮城県地域防災計画」改訂に伴い「地震災害に対応する学校職員の服務等」回答	平成16年6月 「宮城県地域防災計画」修正
17			平成17年4月 1市6町合併
18	—	平成18年3月 「宮城県教育委員会災害対策マニュアル」策定	
20	平成20年7月 小中学校校長会議で、新「石巻市地域防災計画」を引用し、学校における災害対応について説明	平成21年2月 「みやぎ防災教育基本指針」作成	平成20年6月 「石巻市地域防災計画」修正 平成21年2月28日 チリ地震により津波警報(大津波)
21	平成21年6月4日 第1回学校安全連絡会議 平成21年8月19日 第2回学校安全連絡会議 平成22年1月28日 第3回学校安全連絡会議 平成21年度学校安全対策研修会		
22	平成23年1月20日 平成22年度学校安全対策研修会		

石巻市では、平成14年7月の台風6号接近に伴う避難勧告により学校に避難所が開設された際、教職員の服務等が何も定められていなかったことがきっかけとなり、また翌年に三陸南地震、宮城県北部地震が連続して発生したことから、「災害発生時の学校対応の基本的あり方」が問われるようになった。その結果、「学校における災害対策方針」が平成16年10月に策定され、市内（合併前の旧石巻市）各小中学校に周知された。

その後、平成20年の石巻市「地域防災計画」修正、翌21年の「みやぎ防災教育基本指針」（宮城県）策定という動向を受けて、「石巻市学校安全連絡会議」が開催され（第1回：平成21年6月、第2回：同8月、第3回：平成22年1月）、「学校における災害対応の基本方針」が策定された。そして、平成22年1月を皮切りに「石巻市学校安全対策研修会」が継続的に開かれるようになる。

第1回「石巻市学校安全対策研修会」（平成22年1月28日開催）では、これまでの主な取り組み経緯、石巻市地域防災計画の関連部分について紹介されるとともに、上記の「学校における災害対応の基本方針」が周知され、同時に各校に策定を求める災害対策要綱のサンプル様式としての「石巻市立〇〇〇学校災害対策要綱（例）」及び参考資料「災害対応マニュアル参考例」が示された。なお、「学校における災害対応の基本方針」中に示されている「校内災害非常配備体制（例）」の配備基準、及び参考資料である「災害対応マニュアル参考例」の配備基準には、津波注意報・津波警報の発表が含まれていない（石巻市地域防災計画に定められた市全体としての配備基準においては、津波注意報「津波注意」発表時に0号警戒配備、津波警報「津波」発表時に1号特別警戒配備、津波警報「大津波」発表時に2号非常配備を、それぞれ自動設置することと定められている）。この点も含め、上記3つの文書中には「津波」に関する記述は見られない。

また、得られた資料から、近年開催された教頭会・校長会の議事内容における学校防災・学校安全関連の記述を抽出すると、次表に示すとおりである。ここからは、平成21年度から22年度前半にかけて、石巻市内の学校現場では防災に対する取り組みが進捗しつつあったことが伺える。

しかし、上述のとおり「学校における災害対応の基本方針」をはじめとする関連文書に「津波」に関する記述がないことから、これらの取り組みにおいて津波対策の必要性は必ずしも十分に認識されていなかった可能性が考えられ、今後さらなる検証が必要である。

近年の教頭会における学校防災・学校安全の取り組み状況

	開催日	会議名	配布資料中の学校防災・学校安全関連の記述
平成 21 年度	4月22日	4月定例 教頭会議	<ul style="list-style-type: none"> 「3 学校管理運営について(2)校務を整理する」中、「・危機管理・危機対応マニュアルの確認・点検整備・周知・実施・継続・評価」の記載有。 別添資料「親展文書・報告の取扱いについて」中、報告類型の1つとして「(4)大雨警報発令および震度4以上の地震等非常変災発生時の被害状況等報告」あり。
	6月5日	6月定例 教頭会議	<ul style="list-style-type: none"> 「2 教職員の指導について(6)危機管理体制の点検・周知と初期対応・組織対応の確認」の記載有。
	9月9日	9月定例 教頭会	<ul style="list-style-type: none"> 「2 学校管理運営等について(3)危機管理について」として「・非常変災等発生時の報告事務確認と適切な校内(外)体制の構築」の記載有。 「災害時における被害状況等報告」の資料中に、災害種別の報告基準が示されており、「震度4以上の地震が発生」時には「地震発生後1時間以内」に第一次報告を行うことと規定。
平成 22 年度	4月16日	4月定例 教頭会議	<ul style="list-style-type: none"> 「3 学校管理運営等について(2)校務を整理する ③教育環境及び危機管理体制の整備・充実」中、「・危機管理・危機対応マニュアルの整備・周知→確実な実施」の記載有。 「災害時における被害状況等報告」の資料内に、災害種別の報告基準が示されており、「震度4以上の地震が発生」時には「地震発生後1時間以内」に第一次報告を行うことと規定。 「3 学校管理運営等について(5)危機管理と適切な対応…いつでも、どこでも起こりうるという認識」と題して、「初期対応…関係者・関係機関の範囲を確認、外部との対応等に留意が必要」「待機・点検・報告・連絡態勢の確認」の記載有。
	6月10日	6月定例 教頭会議	<ul style="list-style-type: none"> 特に防災に関する特記事項なし。
	9月2日	9月定例 教頭会議	<ul style="list-style-type: none"> 「2 2学期の学校運営等について(3)危機管理について」として「・非常変災等発生時の報告事務確認と適切な校内(外)体制の構築」の記載有。 「4 制度指導について」の中で「(7)台風等に関する事故防止・点検補修と気象変化等への対応」の記載有。 「5. その他」として「(1)災害時における被害状況報告について」の記載有。
	11月17日	11月定例 教頭会議	<ul style="list-style-type: none"> 「1 学校管理運営について(2)適切なりスクマネジメントについて」の記載有。 「4 その他(4)土砂災害警戒メール配信システムの紹介」があり、その中に「石巻市で10月から始めた「災害情報メール配信サービス」は、「防災行政無線広報」と同様に津波響報や避難勧告等を通知するものであり、大雨警報が発令されても、被害が出ない場合は通知されない。」の記載有。

近年の校長会における学校防災・学校安全の取り組み状況

開催日	会議名	配布資料中の学校防災・学校安全関連の記述	
平成 22 年度	4月12日	4月定例校長・園長 会議	<ul style="list-style-type: none"> 「3 学校管理運営について(1)学校経営上の留意点について③教育環境と危機管理体制の整備・充実」で危機管理・危機対応マニュアルの整備・周知との記載有。
	5月11日	5月定例校長会議	<ul style="list-style-type: none"> 特に防災に関する特記事項なし。
	7月6日	7月定例校長会議	<ul style="list-style-type: none"> 手書きのメモで、「避難所の問題」「地震と同じ対処と考える」(誰の記載したものか不明) 「3.(3)事故節と安全指導」の項目で、交通事故・暴力行為等の問題行動・不審者にかかる事故・水の事故などと記載されているが地震・津波に関する記載なし。
	8月10日	8月定例校長会議	<ul style="list-style-type: none"> 「5 児童生徒の事故防止、災害対策(3)「〇〇学校災害対策要綱」の定め」の記載有。
	10月6日	10月定例校長会議	<ul style="list-style-type: none"> 特に防災に関する特記事項なし。
	12月2日	12月定例校長会議	<ul style="list-style-type: none"> 特に防災に関する特記事項なし。
	1月12日	1月定例校長会議	<ul style="list-style-type: none"> 特に防災に関する特記事項なし。
	2月8日	2月定例校長会議	<ul style="list-style-type: none"> 特に防災に関する特記事項なし。

(2) 石巻市内小中学校における取り組み状況

石巻市内の小中学校全64校における平成22年度教育計画などから、防災計画、災害対応マニュアル等に該当する部分を抜粋し、その内容を精査して、津波想定の有無、第三次避難についての記述の有無を確認するとともに、各校の所在地と津波予想浸水域の範囲との関係を整理した(なお、一部の学校については、防災計画、災害対応マニュアルの提供がなく、防災訓練計画の内容のみとなっている)。

まず、石巻市の地域防災計画では、市内64校の小中学校のうち津波予想浸水域の範囲内にある(すなわち津波の際に避難所として使用できない)とされていた学校は1校のみであり、残る63校は範囲外とされていた。この63校の中には、過去の津波災害で浸水した記録のある場所に立地している学校も含まれている。また、東日本大震災による津波では、これら63校のうち28校(44.4%)が浸水により何らかの被害を受けた。このことから、津波予想浸水域の範囲設定に際して、災害時には避難所として利用することの多い小中学校の立地がどのように考慮されたのかなどについて、さらに調査することが必要である。

津波浸水予想と実際の浸水状況

津波予想 浸水域	学校数	うち津波浸水	
		あり	なし
内	1	1	0
外	63	28	35
計	64	29	35

※網かけは、大川小学校が該当する箇所
 ※浸水の判断は、石巻市教育委員会「石巻市立施設災害復旧整備計画」、国土地理院「2万5千分1浸水範囲概況図」、日本地理協会「津波防災マップ」、その他現場写真などから判断。

同じく市内64校の小中学校において、平成22年度の防災計画、災害対応マニュアル、防災訓練計画などにおいて、何らかの形で「津波」に関する記述が確認できたのは、約半数の33校（52.4%）のみであった。この中には、大川小学校も含まれている。実際に津波で浸水した学校は29校であったが、うち10校のマニュアル等には津波に関する記述は確認できなかった。

津波に対する事前対策と津波浸水予想・実際の浸水状況

津波に関する 記載	学校数	うち津波予想浸水域		うち津波で浸水	
		内	外	あり	なし
記載あり	33	1	32	19	14
記載なし	31	0	31	10	21
計	64	1	63	29	35

※網かけは、大川小学校が該当する箇所

また、第二次避難の避難先（校庭等）に危険が及んだ場合に避難する「第三次避難場所」について、何らかの記述があった学校は、64校中、大川小学校を含む17校のみであり、残る47校にはその記載がなかった。前述のとおり、石巻市教育委員会は、平成22年1月28日に「石巻市学校安全対策研修会」を開催して各学校に災害対応マニュアルの作成を求めているが、その際に配布された参考資料「災害対応マニュアル参考例」の中には、第三次避難場所として「該当市町村が指定する広域避難地」とある。17校のうち3校はこの参考例どおりの記述であり、14校のみが何らかの独自の記述を行っていた。なお、大川小学校の第三次避難場所は、前述のとおり「近隣の空き地・公園等」となっており、この14校に含まれる。

第三次避難場所の記載と津波浸水予想・実際の浸水状況

第三次避難場所 の記載		学校数	うち津波予想浸水域		うち津波で浸水	
			内	外	あり	なし
記載 あり	独自設定	14	1	13	11	3
	参考資料と同じ	3	0	3	1	2
記載なし		47	0	47	17	30
計		64	1	63	29	35

※網かけは、大川小学校が該当する箇所

17校における第三次避難場所の記載内容

学校名	マニュアル等における第三次避難場所
相川小学校	学校裏山
飯野川第一小学校	高台
石巻小学校	成田山・緑地公園
大川小学校	近隣の空き地・公園等
雄勝小学校	新山神社境内
開北小学校	該当市町村が指定する広域避難地▲
門脇小学校	石巻市立女子高等学校校庭
住吉小学校	津波到達時間30分以内は屋上、30分以上は住吉中校庭
貞山小学校	山下中学校庭ソフトボール練習場、広域避難場所、校舎3階へ避難
山下小学校	該当市町村が指定する広域避難地▲
吉浜小学校	大盤平・電子工場跡地
飯野川中学校	市指定の避難所
大川中学校	校舎3階
雄勝中学校	校舎屋上か正面の山
門脇中学校	該当市町村が指定する広域避難地▲
河北中学校	市指定の避難所
蛇田小学校	広域避難場所、該当市町村が指定する広域避難地

▲印：参考資料「災害対応マニュアル参考例」と同一の記述

(3) 宮城県における取り組み状況

宮城県教育委員会では、昭和53年6月の宮城県沖地震を受けて、翌54年に学校防災に関する指針を策定した。その後、平成12年11月に国の地震調査研究推進本部地震調査委員会から「宮城県沖の地震の長期評価」が公表され、今後30年以内の地震発生確率が99%（基準日：平成21年1月1日）などとされる中、この指針の見直し・改訂等が行われていなかったことから、平成20年度に検討を開始、同年6月に発生し

た岩手・宮城内陸地震の教訓も反映して、平成21年2月、「みやぎ防災教育基本指針」を策定・公表した。この指針では、「防災教育基本構想」「防災教育基本計画」と並んで、「組織活動基本計画」「地震防災管理」という項目があり、その中では「震災応急対策マニュアル」中の記載として「津波警報等の発令時（見込みを含む）は、更に高台等に二次避難する。」との記述がある。ただし、この部分以外には、災害時における学校の対応等の中で津波に関する記載はなく、「防災教育実践校の紹介」として気仙沼市階上中学校の防災教育を詳しく紹介しているのみである。

また、防災に関する教員向けの研修としては、平成18～22年度まで、「防災教育指導者研修会」が開催されている。資料から見ると、平成18年度の研修会は、前年に行われた安全教育担当者対象の「防災教育指導者研修会」と、教頭対象の「防災教育管理者等研修会」を一本化したものとされる。このうち、平成18～20年度は希望する学校のみ参加であったが、21・22年度は県内7教育事務所で全校参加の研修を行ってきた。研修の内容は、21年度は「防災教育の現状と課題」（宮城防災教育基本方針）と「防災教育指導計画」であり、22年度は、前年の内容に加えて「緊急災害から身を守るために」と題して、津波の基礎知識の中身も含まれている。この会には大川小学校からは1名の教員が参加している。

こうした取り組み状況については、今後、他県等との比較を行い、さらに検討する。

なお、東日本大震災の発生後、文部科学省及び岩手・宮城・福島の被災3県が合同で行ったアンケート調査結果によると、宮城県内で津波による浸水が予想されていた地域の学校等（35校等）のうち、津波に対する避難についてマニュアルに規定していたのは19校（54%）、津波に備えた避難訓練を実施していたのは15校（43%）であった。

（4）国における取り組み状況

文部科学省が共催の事業として、平成22年度までに年1回開催してきた学校安全関連の研修会には、都道府県の指導主事や教員に対する「学校安全指導者養成研修（主催：独立行政法人教員研修センター）」と、各地域の学校安全を担当する行政職員を対象とした「健康教育行政担当者連絡協議会」の2種類がある。これらの研修内容は、洪水や津波等の自然災害も含むが、不審者対応や交通事故、熱中症等も含む学校安全全般にわたっている。

文部科学省では、東日本大震災以前の5年間に以下の冊子、各種教材等の入ったDVDなどを作成し、先の研修会等で活用を促して、各地域で学校安全の普及に努めるようにしていた。

- ①学校安全参考資料『『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育』
- ②防災教育のための参考資料『『生きる力』をはぐくむ防災教育の展開』
- ③小学校教職員用研修資料DVD「子どもを事件・事故災害から守るためにできることは」
- ④中学校・高等学校教職員用研修資料DVD「生徒を事件・事故災害から守るためにできることは」
- ⑤小学生用防災教育教材CD「災害から命を守るために」
- ⑥中学生用防災教育教材DVD「災害から命を守るために」
- ⑦高校生用防災教育教材DVD「災害から命を守るために」

ただし、平成23年度に行った「東日本大震災における学校等の対応等に関する調査研究」によれば、上記②～⑥の岩手・宮城・福島3県における活用率は、12%程度であった。

3. 2 事故当日の状況に関する情報

3. 2. 1 気象及び余震等の状況

(1) 気象等の状況

大川小学校に近い2箇所のアメダス観測点における事故前後の気象データを次表に示す。

観測点 時刻	石巻 ¹⁾		雄勝 ²⁾
	降水量*	気温	降水量*
14:40	0.0	1.9	0.0
14:50	0.0	1.6	0.5
15:00	0.0	1.4	0.0
15:10	0.0	1.2	0.0
15:20	0.0	0.9	0.0
15:30	0.0	1.0	///
15:40	0.0	0.9	///
15:50	0.5	0.6	///
16:00	×	0.4	///
16:10	×	0.4	///
16:20	×	0.2	///
16:30	×	0.1	///
16:40	×	0.0	///
16:50	×	0.1	///
17:00	×	0.2	///

¹⁾石巻観測点（所在地：石巻市泉町4）。地震による通信障害の影響で、16時から17時の降水量が欠測となっている。

²⁾雄勝観測点（所在地：石巻市雄勝町雄勝寺4）。津波により観測機器が壊れたため、15:30から観測が行われていない。

※降水量欄における記号等の意味は、下記のとおり。
 0.0：降水量はあるが0.5mmとすることに足りない場合
 ×：欠測の場合
 ///：欠測または観測を行っていない場合

【出典】気象庁ホームページ「気象統計情報」

震災当日の北上川河口域における降雪については、福地水門（大川小の西南西約5km）に設置されていた河川監視カメラの映像、北上中学校付近（大川小の北約2.5km）から撮影された月浜第一水門付近への津波来襲の様子を撮影した動画のいずれにおいても、地震発生から大川小学校付近へ津波が来襲する前までの時間帯において降雪が確認できる（写真参照）。



福地水門に設置された河川監視カメラの映像

※映像解析から画面の時刻表示は約16分進んでいたと認められるため、実際の時刻は14:46頃、すなわち地震発生直前の映像である。

また、地域住民等の聴き取りにおいては、大川小学校付近において、津波来襲前に雪は降っていなかったという証言もあるものの、校庭における降雪についてかなり具体的な状況を証言する者もいた。

以上のことから、大川小学校付近においては、地震発生から津波来襲までの時間帯において、降雪はあったものと認められる。ただしこの降雪は、地面に降り積もるほどの量ではなかったものと推定される。

なお、地震2日前の3月9日、石巻のアメダス観測点では一日計13cmの降雪があり、翌10日時点の積雪11cmという記録が残されている。また、雄勝のアメダス観測点では、地震前2日間の降水量として、6.5mm（3月9日）、0.5mm（3月10日）と記録されている。この残雪について、地域住民を対象としたアンケート調査結果によると、大川地区住民の約45%が「雪はすべて溶けており、残っていなかった」と回答し、「日当たりの悪い場所など一部だけ」「山林の中など、ほとんど人が立ち入らない場所に」残っていたとの回答も合わせて約2割である。このことから、震災当日の大川地区には、2日前の降雪の残雪は、ほとんど残っていなかったか、残っていてもごく一部であったものと推定される。

（2）余震の発生状況

地震当日、14時46分の本震後も計測が続けられていた震度観測点のうち、大川小学校に最も近い2地点（同校からの距離約4kmの「石巻市北上町」、同じく約1.2kmの「石巻市大瓜」）における当日17時までの観測結果を次表に示す。

No.	時刻	北上 ¹⁾	大瓜 ²⁾
1	14:46	震度6弱	震度5強
2	14:51	震度3	震度2
3	14:54		震度3
4	14:55		震度1
5	14:57		震度1
6	14:58		震度2
7	15:01		震度1
8	15:03	震度2	震度1
9	15:05	震度2	震度2
10	15:06		震度3
11	15:08		震度2
12	15:11		震度1
13	15:12	震度3	震度2
14	15:15		震度2
15	15:20		震度1
16	15:21		震度1
17	15:22		震度1
18	15:23		震度3
19	15:25		震度3
20	15:29		震度1
21	15:30		震度1
22	15:34		震度1
23	15:35		震度1
24	15:36		震度1
25	15:40		震度1
26	15:44		震度1

No.	時刻	北上	大瓜
27	15:46		震度1
28	15:48		震度1
29	15:49		震度1
30	15:52		震度1
31	15:54		震度1
32	16:01		震度1
33	16:03		震度1
34	16:04		震度2
35	16:05		震度1
36	16:10		震度1
37	16:14		震度2
38	16:17		震度1
39	16:25		震度2
40	16:28		震度3
41	16:30		震度2
42	16:31		震度1
43	16:34		震度1
44	16:36		震度1
45	16:37		震度1
46	16:37		震度1
47	16:38		震度1
48	16:40		震度3
49	16:54		震度2
50	16:54		震度2
51	16:56		震度1

【出典】仙台管区气象台提供資料

1) 石巻市北上町（イシノマキシキタカミチヨウ）観測点（所在地：石巻市北上町十三浜字東田50-7）。15:12分以降は、震度計が津波により流出したため観測記録なし。

2) 石巻市大瓜（イシノマキシオウリ）観測点（所在地：石巻市大瓜字鷲ノ巣42-2）。

この2つの観測点のうち、大川小学校に近い位置にある「石巻市北上町」では、観測記録が残る地震は計5回（本震を含む）に留まるものの、より遠い位置にある石巻市大瓜と比べてより大きい（4回）又は同等（1回）の震度を記録している。また「石巻市大瓜」では、この間に計51回の地震が観測されており、数分ごとに地震の揺れに見舞われていた。

震災当日、釜谷地区にいた地域住民等の中には、この余震について「揺れがおさまったという感覚はなく、強くなったり弱くなったりしなげらうと揺れていた」「ずっと大きな揺れが続いていた気がする」などと述べる者がおり、その大きさも体感としては震度3以下とは思えないとの証言があった。

これらのことから、震災当日の大川小学校付近においては、本震の発生以降も、少なくとも震度1～3程度、現地にいた人々の体感としてはそれ以上の大きさの余震が、ほぼ継続していると感じられるような間隔で続いていたものと推定される。

(3) 学校周辺の被害状況等

地域住民等の証言によると、本震発生後の釜谷地区内においては、屋根瓦に被害を受ける、エアコンの室外機が落下しかかるなど、地震による被害が見受けられた。しかしながら、家屋全半壊などの大きな被害があったとの証言はなかった。

また、学校近隣を通る道路の地震による被害状況については、次のような証言が得られた。

- 釜谷地区内を通る県道については、少なくとも谷地中から釜谷にかけて、通行の支障となるような被害はなかった。
- 三角地帯のすぐ上流側、堤防上を通る県道30号の橋（富士川橋）は、地震により橋と道路の間に段差ができて車両通行できない状態となっていた。
- 堤防上の県道30号は、さらに上流よりの間垣付近（針岡地先）で路面が波打ったようになっており、車両通行が困難（やっと通れる状態）だった。
- 釜谷交流会館前の道路には、路面にひび割れがあった。

これらのことから、堤防上の県道30号で三角地帯より上流部分に交通に支障のあるような被害があったことを除き、大川小学校周辺の道路には交通に支障をきたすような被害はなかったものと推定される。

さらに、学校周辺の道路の混雑状況については、地域住民等の証言によると、次のように推定される。

- 長面方面から釜谷地区を通る県道については、それほど多くの通行量があったわけではなく、地震発生から津波来襲まで、一部の一時的な渋滞を除き、ほとんど渋滞はなかった。
- 釜谷交流会館と学校間の道路、学校正門付近の県道については、迎えに来た保護者の車が数台停車していたり、スクールバスが路上停車（及び校地内にバックで進入）をしていたことから、一時的に、車が詰まる状態になっていた時期があった。
- 津波来襲の直前、三角地帯付近では、雄勝方面から釜谷地区へ向かおうとする車両に対して雄勝方面（釜谷トンネル方面）へ戻るよう誘導が行われていた関係から、方向転換する車両に遮られるなどして、車が詰まる状態になっていた。

(4) 学校裏山の倒木について

大川小学校の裏山には、本検証の過程で行った現地踏査（平成25年6月15日および9月27日）において、多数の倒木の存在が確認できた。これらの倒木の原因と時期について、植物学の専門家の助言にしたがって撮影した写真を提供してその意見を求めたところ、次のような見解を得た。

- 写真を見る限り、これらの倒木は、倒れた時期の異なるものが混在している。過去1～2年以内に倒れたと考えられる比較的新しいものもある一方で、震災の時期かそれ以前に倒れていたと考えられるものもある。
- 一般に、枯死木を除けば、地震の揺れで樹木が中折れするなどして倒れることは考えにくい。ただし、樹木の生えている場所に地割れや土砂崩れが発生した場合は、これにより倒木が生じることはあり得る。
- 写真では同一方向に倒れる樹木群が見られることもあわせて考えると、地震や津波による倒木ではなく、強風を原因とする倒木である可能性が高い。宮城県内では、震災以降も台風などによる強風が複数回発生しており、大川小学校の裏山に現存する倒木は、こうした強風によるものであると考えられる。

なお、震災当日、裏山において地割れや土砂崩れが発生していたという証言はなく、また震災直後に裏山の捜索を行った消防団の関係者によると、捜索の際に地震による地割れ、土砂崩れなどの形跡は見受けられなかったとのことである。

以上のことから、現地踏査において確認された多数の倒木は、震災以前から倒れていると考えられるものも含めて、強風等を原因として発生したものと推定される。

3. 2. 2 津波の来襲状況

(1) 津波の到達時刻に関する情報

大川小学校付近へ来襲した津波は、北上川の堤防の陸側を主として陸上を遡上した津波と、北上川の河道を遡上して新北上大橋直下の右岸から越流した津波の、大きく2つに分けられる。一般に陸上を遡上する津波は、河道を遡上する津波に比較して遡上速度が遅いことから、これら2つの津波の大川小学校付近への到達時刻も、北上川からの越流が先で陸上を遡上した津波が後であると考えられる。

国土交通省の設置した水位計のデータによると、北上川を遡上した津波の第1波は、下表のように河川を遡上したものと推定される。ただし、これらの時刻は、水位計の記録が残されている「福地」と「飯野川上流」を除き、分単位の正確さを持つものではない。

北上川を遡上した津波のそれぞれの地点付近への到達時刻

		月浜第一水門	新北上大橋	大川中学校	福地	飯野川上流
河口からの距離(Km)		2.0	3.7	4.8	8.6	14.9
到達時刻	立ち上がり	15:22	15:26	15:28	15:37	15:51
	ピーク	15:28	15:32	15:34	15:42	15:55

※斜体は福地・飯野川上流の水位計記録に基づく遡上速度と河口からの距離からの推算値。

新北上大橋のトラスには、津波によって流された樹木や船舶などが滞留し、ダムのような状態になっていたと考えられ、この堰効果によって堤防からの越流が生じたものと推定される。また、この越流は、水位計のデータから推定した新北上大橋への到達時刻である15時26分(立ち上がり到達時刻)から32分(ピーク到達時刻)までの間に生じた可能性が高いと考えられる。

一方、大川小学校に残されていた時計については、現存しているもの2点と、震災直後に撮影された写真によるもの1点の計3点の情報が得られた。これらはそれぞれ15:38:53、15:37:46、15:36:40で停止しており、その平均停止時刻は15:37:46であった。これらの時計は陸上を遡上して大川小学校付近に到達した津波によって停止したものと考えられる。

(2) 地域住民等による主な目撃証言

津波来襲の際に三角地帯や学校周辺の釜谷地区内にいた地域住民等への聞き取りの結果、釜谷地区に来襲した津波に関して、主として以下のような証言が得られた。

釜谷地区の県道よりも北上川寄りの地域では、新北上大橋からおおよそ500m下流付近までの間において北上川を遡上する津波が目撃されていたほか、津波に押し流されて川を遡上する船舶や、富士川の堤防からこぼれ落ちる黒い塊の津波も目撃されている。

また、大川小学校から新北上大橋へ向かう県道付近からは、北上川の堤防を越流する津波が住民や児童によって目撃されている。これらの証言の中には、堤防を越えてしぶきをあげる津波が手前にある2階建て家屋よりも高いものだった、堤防を越えたあとに大きな音をたて砂埃をあげていた、などと述べるものがあった。

さらに、三角地帯付近にいた住民等もまた、新北上大橋のたもと付近から、津波が堤防を越流する様子を目撃している。この越流前には、表面張力のように、水面が堤防よりも高い状態がある程度の時間、続いていたとの証言もあった。

一方、陸上を遡上する津波については、釜谷地区内の東南にある溜め池から富士川への用水路が通る付近の路上から、家屋とほぼ同じ高さの波が音を立てて建物を破壊しながら、海側から三角地帯方向に向かって進む様子が目撃されている。また、大川小学校付近においても、やはり家屋と同じくらいの高さの津波が、県道を海側から三角地帯方向へ向けて遡上していったという証言も得られた。

大川小学校の裏山に避難して助かった証言者の中には、津波の来襲直前、大きな音とともに突風のような風を感じたという者がいる。また、堤防を越流する津波を見てから山へ駆け上り、そのあと少ししてから津波に巻き込まれた、などの証言も得られた。

(3) 釜谷地区を襲った津波の挙動に関する推定

以上から、釜谷地区を襲った津波の挙動は、次のようなものであったと推定される。

北上川の河口付近へ到達した津波は、河川を遡上していったものと、海岸の松林などをなぎ倒しながら陸上を遡上していったものの、大きく2つに分かれた。

河川を遡上した津波は、新北上大橋に樹木等が滞留した堰効果によって、堤防を越流した。3.2.4に後述するとおり、地域住民等の多くはその越流を目撃して避難を開始しており、この越流津波は人々に強い恐怖感・切迫感を抱かせるものであるとともに、堤防近くの家屋等を損壊させる程度の威力を持っていたものと推定される。

その数分後、陸上を遡上した津波が釜谷地区中心部付近に到達した。この津波の高さは数メートル、水量は膨大なもので、到達直前には突風をもたらし、大きな衝撃音とともに建ち並ぶ家屋を次々と破壊していった。大川小学校の校舎における津波痕跡はT. P. 約10mであり、屋根まで全てが水没したわけではないものの、校舎内には避難できる場所がなかったと考えられる。大川小学校にあった時計は、この津波の浸水により停止した。

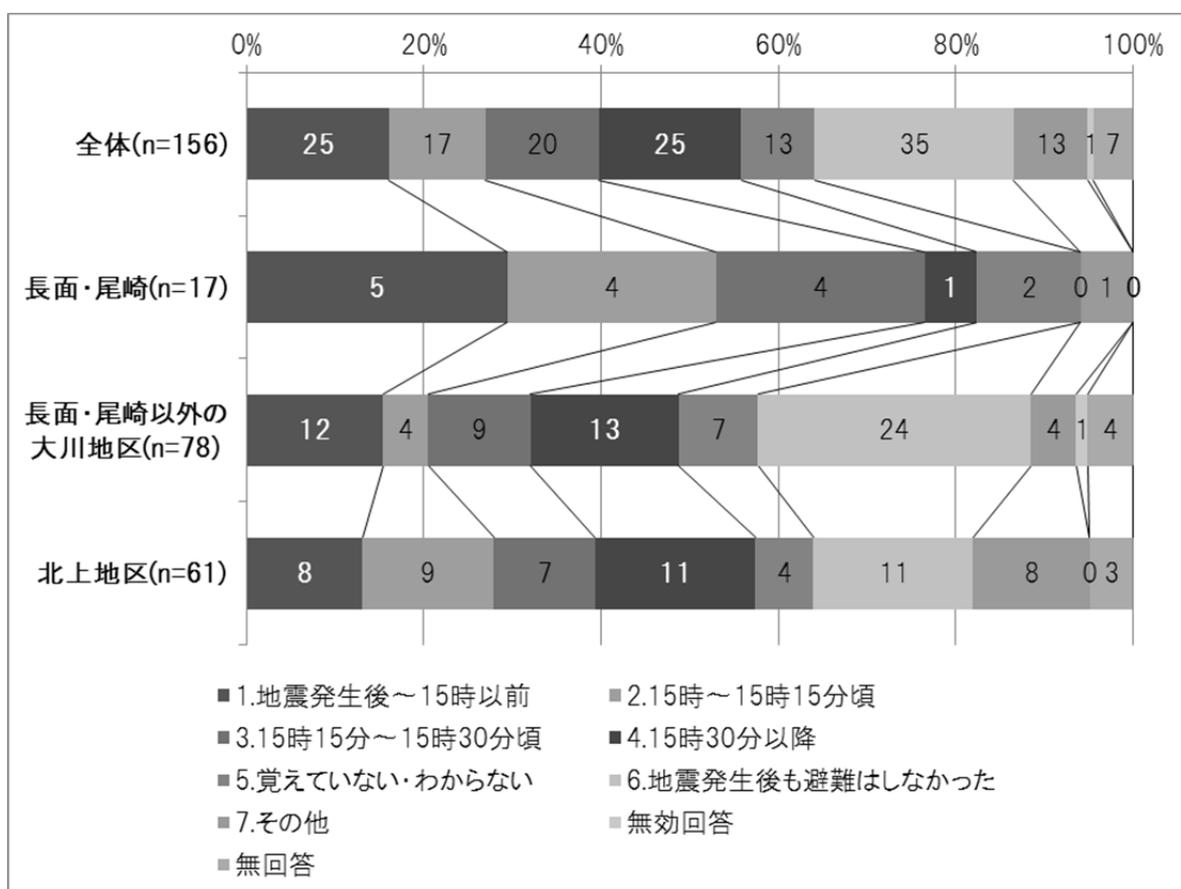
大川小学校付近に到達した津波によって犠牲になった人々の中には、最初に堤防を越流した津波で被災するものがあったと考えられる。しかし、大川小学校の児童・教職員をはじめ、釜谷地区にいた人々の多くは、その数分後に陸上を遡上して到達した津波に巻き込まれて被災したと推定される。

3. 2. 3 地域住民の避難と被害状況

(1) 地域住民の避難行動

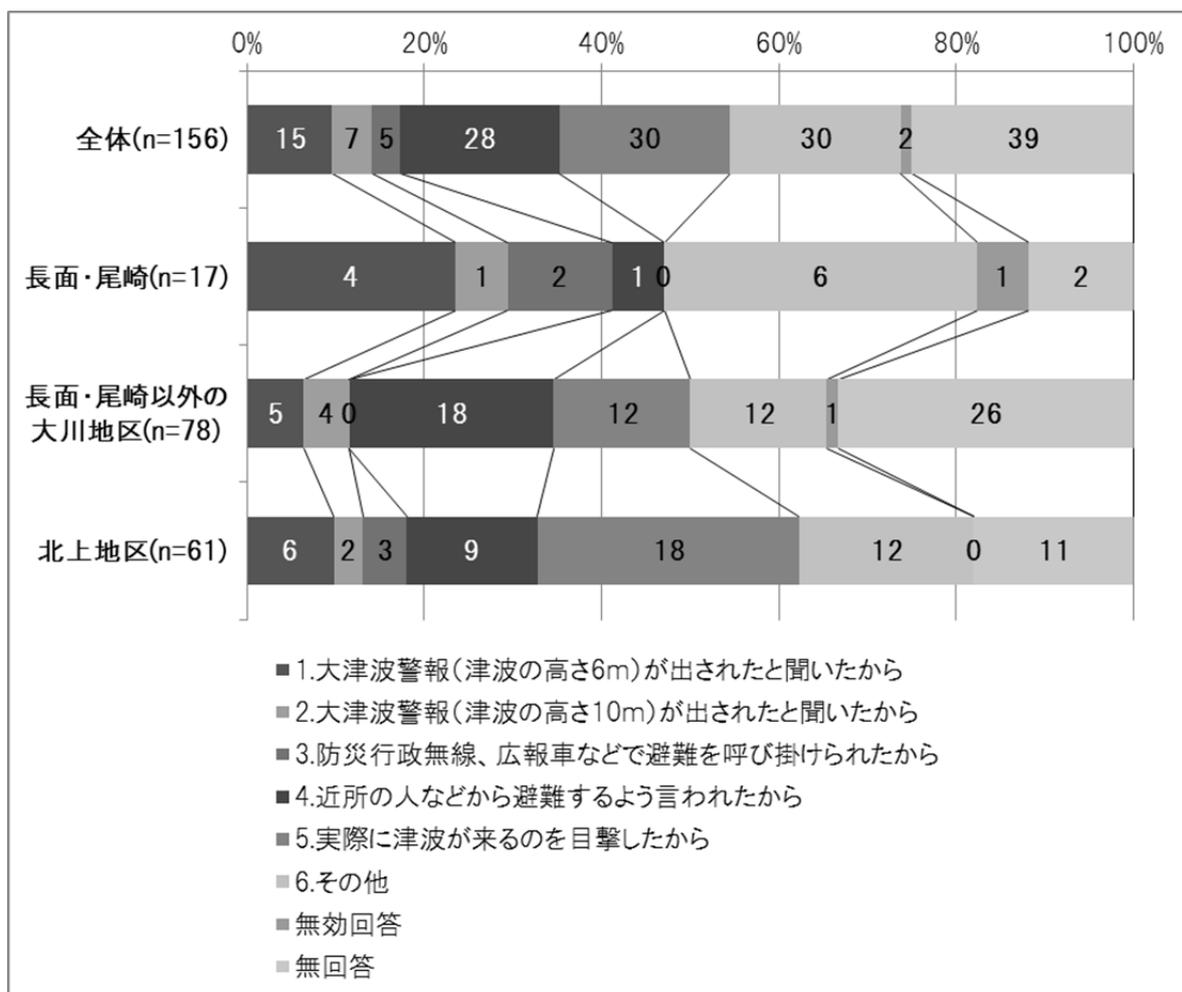
大川地区・北上地区の地域住民を対象としたアンケート調査において、震災当日、自宅周辺にいた方（有効回答数 156）を対象として、当日の避難行動について尋ねた。この結果は以下のとおりである。

まず、地震発生後の避難開始時刻について尋ねたところ、津波来襲より早い15時15分頃までに避難を始めた人の割合は、全体で約27%であったが、うち長面・尾崎地区で最も多く（約53%）、次いで、北上地区（同28%）、長面・尾崎地区以外の大川地区（同28%）となった。



地震発生後の避難開始時刻

また、避難のきっかけに関しては、長面・尾崎地区では大津波警報や防災行政無線、広報車での避難の呼びかけをきっかけに避難を開始した方が約40%である一方で、長面・尾崎以外の大川地区や北上地区では、「近所の人などから避難するよう言われたから」「実際に津波が来るのを目撃したから」といったきっかけで避難を開始した方が約40%であることが明らかとなった。



避難開始のきっかけ

。

(2) 釜谷地区住民の被害状況

行政区としての釜谷地区（入釜谷の一部、谷地中を含む）で津波により犠牲となった住民等の人数は、197名とされている。ただし、この中には、震災当日は地区外にて入院・入所生活を送っていた住民、地区内の診療所勤務者、地区内の住民宅を訪問していた当該住民の親戚なども含まれている。一方、地区内の賃貸住宅に居住していた住民（一部）や、地区内に勤務していた在勤者は含まれていない。

このため、大川小学校近隣における津波による人的被害の全体像を整理するため、ご遺族、地域住民などからの聴き取り及び情報収集を行った。この結果をもとに、地震発生から大川小学校付近へ津波が来襲するまでの間、地区内にいた（もしくは地区へ来訪していた）住民等の被災状況を整理した（下表）。

なお、この整理にあたっては、以下のような考え方で集計対象を選択した。

- 釜谷地区のうち、地形的にやや離れた入釜谷については、間垣の堤防を越流し破堤に至らしめた津波で被災したと考えられることから、集計には含まない。
- 小学校以外の被害を整理するため、小学校の児童・教職員と、来訪者のうち小学校へ児童の引き取りに来た保護者等は、集計には含まない。

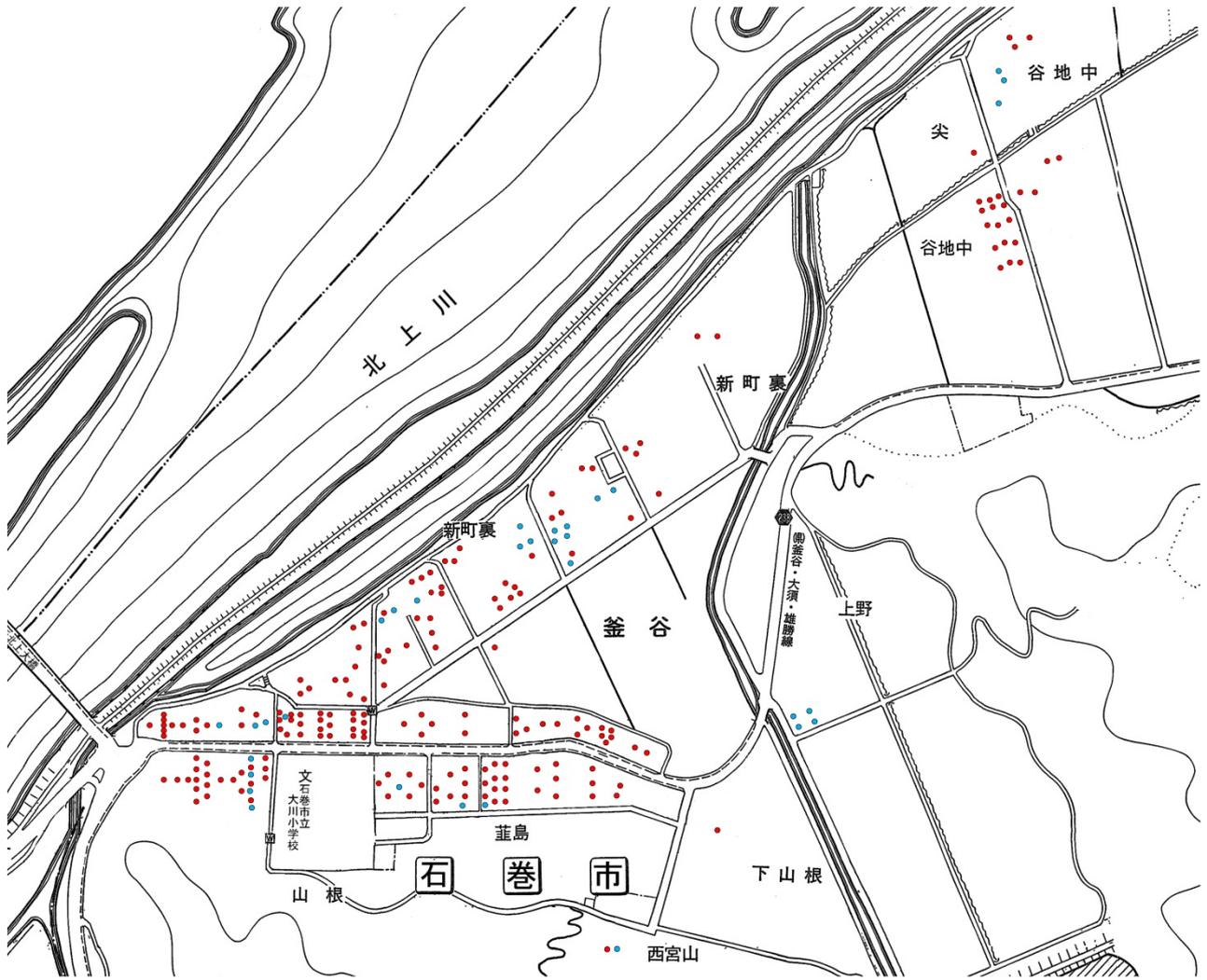
また、地区内の在勤者や来訪者については、聴き取り等から得られた範囲のみに限定されることから、必ずしもすべてを網羅できているとは限らない。この点も含め、表中の数値には、一定の不確実性が残されていることに留意する必要がある。

釜谷地区（入釜谷を除く）における住民・在勤者等の被災状況
（聴き取り等によって得られた情報に基づく）

単位：人

	住 民	在勤者	来訪者	計
死 者	1 7 5	2	3	1 8 0
生存者	3 4	7	1 1	5 2
計	2 0 9	9	1 4	2 3 2
(死亡率)	(8 3 . 7 %)	(2 2 . 2 %)	(2 1 . 4 %)	(7 7 . 6 %)

また、この結果を、住民の場合は自宅、在勤者・訪問者の場合は勤務先・訪問先として、地図上に示したものが、次図である。ただし、これは必ずしも津波来襲時にこの場所にいたことを示したものではない。



【凡例】 ●：死亡・行方不明、●：生存
 印の位置は自宅及び勤務先を示しており、その場所で被災したとは限らない

釜谷地区（入釜谷を除く）における住民・在勤者等の被災状況図
 （聴き取り等によって得られた情報に基づく）

3. 2. 4 大川小学校における避難行動の経過

(1) 広報等から得ていた情報

大川小学校の備品台帳などによると、震災当時の同校における各種情報機器の設置・配備状況は、次のとおりである。なお関係者の証言によると、備品台帳に記載はないものの、同校には、乾電池で作動するCDプレーヤー付きラジオが少なくとも1台はあったとされている。

機器の種類等	設置・配備状況
防災行政無線子局	校庭西側マスト上に屋外拡声器設置（写真参照）
災害時優先電話	AVアナログ主装置内蔵電話機（非常時優先）あり
緊急地震速報受信端末	なし
テレビ	5台
ラジオ	備品台帳に記載なし



大川小学校校庭の防災行政無線子局（関係者提供写真を一部拡大）

一方、地震発生から当日17時までの間、宮城県沿岸に対して出された津波警報の発表・変更状況は、次表のとおりである。なお、これとは別に、地震発生の直後、14時46分48.8秒（最初の地震波検知から8.6秒後）には緊急地震速報が発表されている。

宮城県及び近隣への津波警報（予想される津波の高さ）発表状況

発表時刻 津波予報区	14:49	15:14	15:30	16:08
青森県太平洋沿岸	1 m	3 m	10 m以上	10 m以上
岩手県	3 m	6 m	10 m以上	10 m以上
宮城県	6 m	10 m以上	10 m以上	10 m以上
福島県	3 m	6 m	10 m以上	10 m以上
茨城県	2 m	4 m	10 m以上	10 m以上

【出典】「気象庁技術報告第 133 号 平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震調査報告」（平成 24 年 1 2 月）



津波警報（大津波）
津波警報（津波）

地震直後から、各報道機関は、テレビ・ラジオを通じてこれらの警報発表を報道するとともに、各地の津波の来襲状況などについて報道した。大川小学校付近において、ラジオ又はテレビのワンセグ放送で視聴可能であったと考えられる主な情報を、次表に示す。なお、表中の放送時刻は、繰り返し同じ内容が放送される中で最も早い時刻を示す。

時刻	報道内容（概要）
14:50	宮城県太平洋側に大津波警報発令
14:51	予想される津波高 6m, 予想到達時刻は午後 3 時
14:53	石巻鮎川の予想到達時刻 3 時 10 分
15:00	津波観測；岩手県大船渡港（14:54 20cm）
15:02	津波観測：宮城県石巻市鮎川（14:52 50cm）、岩手県釜石港（14:56 20cm）
15:14	（テレビ画面のみ）宮城県：第一波到達確認、予想される津波高 10m
15:16	岩手県釜石市で車が流されている（屋外カメラ映像を説明）
15:18	岩手県大船渡市で津波が川を逆流（屋外カメラ映像を説明）
15:20	福島県いわき市小名浜で、道路が冠水（屋外カメラ映像を説明）
15:21	岩手県釜石市で道路に大きな船が流れている（屋外カメラ映像を説明）
15:21	女川で、屋根のひさし付近までの波、車を押し流す、およそ 3~5m（屋外カメラ映像を説明）
15:22	福島県いわき市小名浜で、車が流されている（屋外カメラ映像を説明）
15:25	津波観測：岩手県釜石港（15:21 4m20cm）、岩手県大船渡港（15:15 3m30cm）、宮城県石巻市鮎川（15:20 3m30cm）、岩手県宮古港（15:19 2m80cm）
15:26	宮城県気仙沼、白波が渦巻き、海面なのか陸上なのか不明（屋外カメラ映像を説明）
15:29	宮城県気仙沼で、大きな船、建物の屋根など流されている。（屋外カメラ映像を説明）
15:32	（ラジオ音声）宮城県で津波の到達確認。予想される津波高 10m以上。
15:36	宮古 4m、大船渡 3.3m、釜石 4.2m、鮎川 3.3m などの津波確認

注）協力を得た報道機関からの情報をもとに作成。このほか、情報提供を得られていない報道機関による放送もあることから、上記がすべての報道を網羅しているわけではない。

一方、石巻市提供資料によると、同校を含む旧・河北町の地域では、河北総合支所から防災行政無線による次の2回の広報が行われたとされている。

	時 期	広報内容
1 回 目	発表直後 (14時52分)	大津波のサイレンを放送 「只今、宮城県沿岸に大津波警報が発令されました。 只今、宮城県沿岸に大津波警報が発令されました。 海岸付近や河川の堤防などに絶対近づかないでください。 繰り返します。(以上をもう一度繰り返し)」
2 回 目	沿岸部に津波が押し 寄せているとの情報 を得た後 (15時10分頃*)	サイレン無し、チャイムを鳴らし 「現在、宮城県沿岸に大津波警報が発令中です。 現在、宮城県沿岸に大津波警報が発令中です。 海岸付近や河川の堤防などには絶対近づかないでください。 繰り返します。(以上をもう一度繰り返し)」

*河北総合支所では、報道機関の放送のほか消防無線の傍受が可能であったが、「沿岸部に津波が押し寄せている」との情報の入手元が不明であり、この時刻は正確ではない可能性がある。

地域住民に対するアンケートでは、大川地区住民の約35%が「防災行政無線の放送は流れていなかった」と回答しているが、一方で約1割が「聞いたことをはっきり覚えている」又は「聞いたような気がする」と回答している。また、地震後に大川小学校の校庭で、防災行政無線による「大津波警報発令」の広報を聞いたとする具体性を持つ証言も得られた。

さらに、関係機関提供の資料等によると、少なくとも次の公的機関の車両が、大川小学校周辺で広報活動を行っていた。

時 期	広報内容
15時15～ 20分頃	河北消防署の消防車が、新北上大橋から長面地区方面へ走行しつつ、「大津波警報が発令されています。避難して下さい。」という内容を広報。
15時25～ 30分頃	石巻市河北総合支所の公用車が、長面方面から新北上大橋方面へ戻りつつ「松原を津波が抜けてきたので避難して下さい」という内容を広報。

このうち、河北総合支所の車両が行っていた広報については、これを聞いた地域住民が「尋常ではない言い方だった」と証言している一方で、広報車の通行した県道からやや離れた自宅付近にいた住民の中には、「何か言っていたが、内容は聞き取れなかった」と証言する者もいた。また、広報車の走行する速度も、かなり速かったと証言する者もいる。

このため、県道から見て校舎の奥側に位置する大川小学校の校庭では、この広報車による広報内容を明確に聞き取ることはできなかった可能性が考えられる。

(2) 地域住民の動き

地震発生と大津波警報の発表を受け、河北総合支所から3台の車両が、長面・尾崎方面へと広報に向かった。このうち1台は、往路で、大川小学校に立ち寄っている。これは、大川小学校の体育館に沿岸部住民の受け入れが可能かどうか確認するため（チリ地震での大津波警報発令時、沿岸部住民が小学校の体育館に避難していたため）であり、その時刻は15時25分前頃であったとされる。教職員に確認したところ、体育館は照明器具落下の危険性があるので受け入れできないとの回答であった。市職員らが小学校にいたのは1～2分程度であった。

地震発生後、地域住民の中には、自宅から避難してくる者があった。しかしその多くは交流会館に避難し、校庭に避難した地域住民はそれほど多くなかった。教職員が避難してきた地域住民の対応に追われたということはない。

当初、小学校のスクールバスが、県道の左側に長面方面を向いて駐車していたが、その後、校地内に入った。このころ校庭では、地域住民数名が子供達を整列させる等の手伝いをしていた。小学校付近の道路は、子どもを迎えに来た保護者の車でやや混んでいた時間帯もあったようである。

河北総合支所の車両のうち、大川小学校へ立ち寄らずに直接、長面方面へ向かった1台は、谷地中付近を走行中、長面の松林を津波が越えてきたのを確認してUターンし、すれ違う同僚の車両に津波の来襲を呼びかけるとともに、釜谷地区内を三角地帯まで戻った。この間、釜谷の入り口から三角地帯の信号機辺りまで時速40km程度でゆっくり走行して、「松原を津波が抜けてきたので避難して下さい」、「高台に避難して下さい」と避難を呼び掛けたが、避難しようとする住民も少なくなかった。

その後、市職員らは、三角地帯で避難を呼び掛けるとともに、間垣方面から釜谷方面に走行しようとする車を雄勝方面へ誘導した。最上屋の前辺りまで車が3～5台滞留したときもあった。

川の水面は堤防の高さを越えるほどになり、北上大橋付近に船が流れてきた。そのため、市職員らは山に駆け上って避難した。雄勝側の斜面は擁壁が続いており登れないため、山の雑木林とコンクリートの境目の辺りを駆け登った。

河北警察署のパトロールカー1台が15時30分頃に間垣の堤防付近に到着し、1名の警察官が避難誘導を開始したが、その後、まもなく同所付近に津波が来襲して被災した。

津波来襲時に釜谷地区にいて避難できた地域住民の多くは、津波が来襲したのを実際に見たり、津波来襲を見た人の「津波だ」「高い所に逃げろ」との避難の呼び掛けに応じたりして避難しており、津波来襲を確認する前に避難した者は少数である（次ページ表参照）。防災無線や市職員の広報車からの避難の呼び掛けは聞こえなかったという証言も少なくない。

助かった釜谷地区住民の避難のきっかけ
 (地域住民等の証言に基づき詳細な行動が判明した28人について)

避難開始のきっかけ	人数
津波そのものを目撃して (内、釜谷地区内の低地・三角地帯で一度止まった人)	9人 (2人)
津波を目撃した人に言われて (内、釜谷地区内の低地・三角地帯で一度止まった人)	16人 (11人)
津波について見聞きする前に	3人
計	28名

山に登って避難した地域住民は、交流会館近くの竹やぶから山に登って避難している。山に逃げる途中で、交流会館の駐車場を移動している小学生の後ろ姿(最後尾)を見た地域住民もいる。

地域住民は、山に逃げる前、小学生が校庭に並んでおり、教職員や地域住民が子どもたちに「三角地帯に移動します」、「一列になって」と声を掛けているのを聞いている。「三角地帯に移動します」という声を聞いてから、津波が来るまでの時間は数分間であった。

なお、三角地帯まで行けば大丈夫だと考えていたとの地域住民の証言もあった。

(3) 学校における動き

- 地震発生時から15時過ぎ頃まで

14時46分の地震発生時、ほとんどの学年は帰りの会の最中だった。3年生は帰りの会が終わって解散しており、また4年生は教室で歌の練習をしていた。このとき学内にいた教職員のうち、クラス担任はそのほとんどが受け持ちのクラスにいたが、その他、職員室等で揺れに見舞われた教職員もいた。また、地震発生時には数人の保護者が、早退等への対応のために学校内、あるいは学校付近にいた。この中には、地震発生前に来校する途中ですでに帰途についた児童を見かけた保護者もいた。

多くの児童は、地震の発生と同時に机の下に隠れた(一次避難)。2日前の地震で同様の経験をしていたことが、教職員に指示される前の円滑な避難につながったとの証言もあった。クラス担任は受け持ちのクラスにおいて、揺れが収まるまで一次避難を続けるように指示をしたり、泣き出した一部の児童をなだめたりしていた。児童同士でも、互いに声を掛け合い、揺れが収まるまで避難を続けた。教職員Aは停電で校内放送が使えなくなったために、揺れが続く中で校舎内を走り回って一次避難を呼びかけていた。

3分ほど続いた揺れが収まったのち、教職員らは児童を校庭への避難のために廊下へ誘導した。廊下では整然と列を組み、あらかじめ決められた避難ルートに従って、校庭へ移動し

た（二次避難）。この際、すでに帰りの準備が終わっていた児童を除き、ほとんどの児童が室内での服装のまま避難をした。避難に際しては、通常の避難訓練と同様に、ランドセル等の持ち物は持たなかった。ただし、登下校時に着用するヘルメットを持参もしくは着用した児童が多かったようである。

校庭では各学年2列に並んだ。並び順については、平時の朝礼等の際と同じように並んだという証言がある一方で、規則性がなかった、あるいは、途中で移動したという証言もあるなど、現時点ではどのように並んだかはまだ判断できない。雪は、校庭に避難したこの頃から降り出したようである。

14時52分に校庭道路側に設置された防災行政無線子局が大津波警報の発令を広報したのは、この頃と考えられる。また、同じ頃、地域の住民から体育館脇の通用門や、自転車置き場の脇の隙間などから入ってきていた。自転車置き場付近のタイヤ遊具のあたりには毛布を身体に巻くなどして座るお年寄りが数人いたという証言もある。地域住民は、最終的に、10人～10数人程度が校庭に避難してきたと考えられる。釜谷交流会館に避難した住民もいたと思われるが、その人数は判断できない。

スクールバスは県道238号線の道路上に、長面方面へ向かう第1便のために海側を向いて止まっていた。運転手は、バスの中にいるところを目撃されているほか、バスのそばで保護者と会話をしたり、あるいは校庭脇にいるところを目撃されているものの、どのように動いたかの詳細はわからない。

児童は整列したのちに点呼が取られた。その後、多くの教職員は指揮台の付近に集まって相談を始めたようである。ラジオを指揮台の上に置き、その放送を聞きながら何か相談をしていたという証言もある。ただし、一部の教職員は、泣いている子どもをあやすために児童の列に入ったり、あるいは、校舎内の状況を確認するために校内を走り回るなどしていた。

その頃、地震発生時に学校内、あるいは学校付近にいた保護者の中で、引き渡しを求める保護者が出てきた。教職員Bが引き渡しを記録するように指示し、教職員Cが校舎内から名簿を取ってきた。そして、教職員Dが担当して引き渡しを始めた。引き渡しはスムーズに行われたようである。この時間帯には、少なくとも9名の児童の引き渡しが完了したことが確認できる。このうち、親族以外に引き渡しされたケースが少なくとも1名あった。

迎えに来た保護者の間では、互いに知っている保護者同士が津波についての情報を交換するなどしていた。中には危機意識を持っている保護者もいたが、ほとんどの保護者は危険が差し迫っているという認識はなかったようである。

校庭では、教職員から特に指示がなかったこともあり、次第に児童が列を崩しはじめ、輪になって会話を始める集団もあった。防災無線子局の広報を聞いたことなどで、津波が学校まで到達するののかも話題にのぼったが、「もし来てもたいしたことはないだろう」といった危機感のない様子だったようである。ほとんどの会話は、ゲームやマンガのこと、次週の時間割のことなど、児童が日常的に行う会話だったと考えられる。

● 15時過ぎ～15時15分頃まで

引き渡し完了した児童の中には、すぐに帰ることなく校庭に留まっていた児童らもいたが、徐々に児童の数も減り、座っていた輪も小さくなったり、あるいは、校庭の樹木で遊び始める児童もいた。教職員は引き渡しと校舎内等の安全確認を続けているほかは、特に目立った変化はみられない。この時間帯においては、少なくとも5名の児童の引き渡しが完了した。

● 15時15分頃から津波来襲まで

15時20分頃までに、引き渡しの教職員が変わったと考えられる。すなわち、当初から主として一人で引き渡しに対応していた教職員Dから、他の教職員が代わる代わる担当するようになった¹。この時間帯では津波来襲までの間に、少なくとも5名の引き渡しが完了した。

15時25分頃、長面地区の住民を避難させることを念頭に、大川小学校の体育館が受け入れ可能かどうかを、市職員が確認に来た。対応した教職員は、落下物等が多く危険なため利用できないと伝えたとされる。市職員が校内にいたのはごく短時間（1～2分）で、体育館に関する会話以外には特に会話はなかった。

この頃、地震発生時から県道に止まっていたスクールバスが、校門から校地内に後進する形で移動している。この際、スクールバスが一時的に県道をふさいだため、三角地帯へ向かう数台の車が滞留したとの証言もある。

同じ頃、三角地帯への移動が開始された（三次避難）。この際、地域住民による「三角地帯に移動します」という声かけがあったとの証言がある。移動においては地域のお年寄りが先頭を歩き、そのあとに児童が続いていたため、かなりゆっくりとした速度で移動をしていたようである。移動ルートは、自転車置き場の脇から道路に出て、釜谷交流会館の駐車場に入り、同駐車場を横切って、その先の民家前を右に曲がり、県道を目指したものと推定される。

移動を開始した頃、教職員Bは県道の方に様子を見に行ったようである。おそらく、北上川の堤防の上を移動する船舶や、その他の津波の兆候を目撃したか、それらを目撃した人の話を聞いたものと推定され、戻ってきた際に「津波が来ていますので皆さん急いでください」などと児童らに声を掛けた。

教職員Bの声掛けを受け、列は乱れ、小走りで先を目指した児童もいた。校庭から150mほど移動して県道に差し掛かったあたりで、先頭付近にいた一部の児童は新北上大橋直下付近から津波が越流し、付近の家を破壊した様子を目撃した。津波を目撃した児童らはあわてて来た道を走って戻り、釜谷交流会館脇を通過して、竹やぶのある山を駆け登った。この付近の斜面は急だった上に、雪が積もっていたためにとっても登りづらかったという証言もある。

¹ 引渡しを受けた教職員を特定できる児童13名のうち、ここまでの時間帯では、教職員Dが7名、教職員Eが2名、教職員Fが1名だった。これ以降の時間帯においては、教職員Dが0名、教職員Eが1名、教職員Gが1名、教職員Hが1名だった。

なお、列の先頭にいなかったために津波を目撃していない児童らは、逃げている児童がなぜこのような行動をしているか、理解できなかったものと推定される。

児童らが避難している間にも陸上を遡上し続けていた津波は、突風のような風を巻き起こし、家々を破壊する大きな音を立てながら大川小学校付近に到達し、一帯は壊滅的な被害を受けた。

3. 2. 5 他の小中学校における震災後の対応

(1) 石巻市内の学校園における児童・生徒等の被害状況

石巻市内の、公立の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校において、死亡又は行方不明となった園児及び児童・生徒の数は、次表のとおりである。

市内全域において死亡・行方不明となった園児・児童・生徒は計182人であり、内109人が学校管理下であったが、このうち下校途中を除く73人は、すべて大川小学校における被災であった。また、宮城県内で下校途中などを除く学校管理下の犠牲は74人であり、大川小学校以外では1名のみとなっている。

石巻市の公立学校園における園児・児童・生徒の被害

(宮城県教育委員会提供資料)

	死亡・行方不明			左の内訳								
				学校管理下内			学校管理下外					
	死亡	行方不明	計	避難中	下校中等	計	学校休業	欠席早退	帰宅(地震前)	帰宅(地震後)	不明等	計
石巻市	166	16	182	73	36	109	0	6	44	18	5	73
内 大川小	70	4	74	73	0	73	0	0	0	0	0	1
【参考】 宮城県全体	339	23	362	74	68	142	77	12	95	31	5	220

(2) 石巻市内小中学校の対応状況

石巻市立の小中学校64校のうち、浸水した学校は24校だった(次ページ表)。これらのうち、4校は校内に児童・生徒がいなかったため三次避難をしていない。したがって、何らかの三次避難をした学校は20校となる。

20校のうち、校舎の2階以上等の校地内に三次避難をした学校は13校であり、大川小を含む7校(大川小、門脇小、船越小、谷川小、相川小、雄勝小、荻浜中)が校地外へ三次避難をした。

これら7校のうち、荻浜中は結果として体育館の一部が浸水した被害にとどまったため、仮に校地内へ三次避難をしていても助かったが、残る6校は水没するなどして大川小と同様に校地外への避難が不可欠だった(門脇小は1階までの浸水だったが、漂着物による火災により焼失)。これらの学校のうち大川小を除く5校においては、学校管理下における児童の被害はない。それぞれの学校の特性と震災後の避難等の対応について以下にまとめる。

石巻市内で津波により浸水した小中学校の被災及び避難の状況

(石巻市教育委員会調べ)

	基本情報					当日の状況								
	教員数	全校児童・生徒数	校舎の高さ	標高	海からの距離	浸水の程度	教職員死者数	死亡・行方不明児童・生徒数	うち学校管理下	発災時に学内にいた児童・生徒数	15:30頃に学内にいた児童・生徒数	三次避難した児童・生徒数	三次避難の状況	三次避難の場所
真山小学校	23	273	総3階	—	—	1階				7	7	0	—	—
湊中学校	24	246	一部4階	—	—	1階	1	3					—	—
大川中学校	13	58	総3階	—	—	1階		3					—	—
開北小学校	27	419	総3階	0.5	3094	1階				413	80	20	校庭避難。消防から校舎倒壊の恐れの連絡。でも校舎1階へ移動。	校地内
荻浜中学校	12	27	一部3階	4.8	57	1階	1			24	24	24	県道沿い駐車場に避難。波の引きから山へ避難し、本校舎へ戻る。	裏山
住吉中学校	22	339	それ以上	0.4	3037	1階				50	50	100	校庭から体育館へ。浸水で校舎へ移動。避難車両整理と避難民対応。	校地内
山下中学校	26	319	一部4階	0.9	2078	1階				175	110	110	校庭から体育館へ避難。水があふれたので避難民と一緒に3階へ。	校地内
鹿妻小学校	22	430	一部3階	2	1031	1階		4	1	260	100	130	校庭から体育館へ避難。津波情報からギャラリと校舎へ住民と移動。	校地内
大街道小学校	22	407	総3階	1.5	1067	1階		2		400	120	150	校舎から体育館へ避難。津波情報で住民とともに校舎2・3階へ移動。	校地内
湊小学校	17	205	一部4階	0.7	1420	1階		1		130	150	150	校庭から校舎3階へ避難。避難住民(1200名)2階以上。	校地内
湊第二小学校	17	235	一部4階	0.7	741	1階		3		165	165	184	校庭から校舎3階へ避難。本部立ち上げ、避難住民と共に対応。	校地内
住吉小学校	19	200	総3階	0.6	2511	1階				196	45	196	校庭から校舎3階へ避難。保護者と避難住民も同様。	校地内
門脇小学校	22	300	総3階	3.2	725	1階		7		約240	0	240	校庭から日和山へ。神社境内へ移動し引き渡し開始。石巻高校へ。	裏山
石巻小学校	25	279	一部4階	2.9	1555	1階				273	273	273	校庭から校舎3階へ避難。避難住民を2階に分け対応。	校地内
渡波小学校	27	453	総3階	1.1	703	1階		7	4	440	440	440	校庭から講堂へ避難。避難住民(1200名)も一緒。	校地内
釜小学校	35	657	それ以上	1.3	1380	1階		25	23	559	514	514	校庭から住民と共に体育館へ避難。その後校舎3・4階へ移動。	校地内
渡波中学校	31	506	総3階	1.1	182	2階		6		5	11	11	駐車場から新校舎3階へ避難。必要物資收拾など避難者対応。	校地内
雄勝中学校	13	77	総3階	—	—	3階	1						—	—
吉浜小学校	12	49	総3階	1	167	3階	1	7	7	14	5	5	校庭から校舎3階へ避難。津波襲来で屋上へ移動。一夜を明かす。	校地内
船越小学校	8	22	総3階	6.7	214	3階				21	21	21	校庭から津波情報で晴に向かい避難。頂上から「憩いの家」へ移動。	裏山
谷川小学校	8	14	総2階	9.2	75	水没				12	12	12	体育館に避難。学校前の高台へ移動。その後、道路脇山へ登る。	裏山
相川小学校	13	73	総3階	2.9	153	水没		1		45	21	21	校庭から裏山へ避難。迎え保護者とともに、子育てセンターへ移動。	裏山
雄勝小学校	15	104	総2階	3.3	313	水没		1		45	37	37	新山神社へ避難。忠魂碑へ移動。さらに裏山からクリーンセンターへ。	裏山
大川小学校	12	108	一部2階	1	3679	水没	10	74	73	105	77	77	避難中に被災	高台

● 門脇小学校 (児童数 300名)

門脇小においては、地震発生時に 240 人ほどの児童が校内にいた。二次避難は校庭に行ったが、大津波警報が発令されたことを防災無線等で知り、かねてより訓練していたとおり、15時過ぎには6年生を先頭に学校脇の階段を使って裏山にある日和山公園に避難した。避難に際しては、引き取りに来た保護者も同行させた。

● 船越小学校 (児童数 22名)

船越小においては、地震発生時に 5 人の児童が校内にいたが、15:30 頃には児童は 11 人に増え、加えて、地域住民 50 人ほどが校庭に集まっていた。海が見えるところまで見に行った職員が海の状況を見て戻ってきて、「津波が来るぞ!」「走れ!」「上だ!」と伝え、学校脇の舗装道路を国道 238 号線まで登った。

- 谷川小学校（児童数 14 名）

谷川小においては、地震発生時に 12 人の児童が校内にいたが、15:30 頃には地域住民 50 人ほどが校庭に集まっていた。消防団員 2 人が校庭より低い位置と高い位置の 2 箇所で津波を見張り、津波の予兆を確認したあとに、学校脇の舗装道路を県道 41 号線まで登った。地元の猟師が引き波の状況を見てさらに高い場所への避難を進言し、県道脇の山を登った（結果的には最初の三次避難場所である国道は浸水しなかった）。

- 相川小学校（児童数 73 名）

相川小においては、地震発生時に 45 人の児童が校内にいたが、引き渡しによって 15:30 頃には 21 人の児童が校庭にいた（何名くらいの地域住民が避難していたかは不明）。教師の一人が自分の車を肯定に移動させ、ラジオのボリュームを上げて共有。また、防災無線でも大津波警報を聞き、訓練していたとおりに学校の裏山へ避難。そこからさらに山を登れば山頂の子育て支援センターへ到着することを知っていた教員の先導で山を登った。

- 雄勝小学校（児童数 104 名）

雄勝小においては、地震発生時に 45 人の児童が校内にいたが、引渡しによって 15:30 頃には 37 人の児童が校庭にいた。加えて地域住民 100 人ほどが避難していたと思われる。引き取りに来た保護者の一人が「雄勝湾の水が引いて海底が見えている。いつまでも校庭にいないで、早く神社に逃げて！」と強い進言があったことをきっかけに、マニュアルでも想定していた神社へ避難した。しかし、津波の来襲を目の当たりにしてさらに高くへ逃げる必要性を感じ、山頂に道が通じていることを知っている教員の判断で山頂へ向かい、さらに奥のクリーンセンターまで 1 時間程度登った。

（3）石巻市以外の小学校における避難良好事例

- 山元町立山下第二小学校（児童数 205 名）

校舎 1 階まで浸水。地震の時、低学年児童はすでに帰宅した子もいたが、かなりの児童は掃除をするなど残っていた。地震後約 10 分で校庭に避難させ、迎えに来た保護者に引き渡しをしている時に、「何やっているんだ！津波が来るんだぞ！」「役場に急いで逃げろ！」と拡声器で学校に告げに来た役場の職員がいた。地震で防災無線塔が倒れ、機能しなくなったので、3 キロほど離れて高台になっている役場の職員が、自転車で急いで連絡に来たのである。その情報に背中を押された校長は、急いで役場に避難することを職員に伝え、その時点で残っていた児童約 100 人を連れて走り出した。低学年の子どもを先頭に駆け出したが、途中で教職員の車 6 台と、迎えに来た保護者の車数台に小さい子から乗せ、役場に急いだ。歩いていくと子どもの足だと 1 時間近くかかるところを、20 分ほどで高台の役場に全員到着した。

● 南三陸町立戸倉小学校（児童数107名）

長く続いた地震の後「校長先生、高台ですね」と教頭の声。「はい、校庭への一次避難¹⁾」は省いて、玄関前で点呼、即座に高台に避難します」と校長は叫んだ。揺れの中で考えていたことを指示した。家に帰った若干名の子を除き、校庭で遊んでいた児童も含め91名の児童と教職員が三次避難場所の宇津野高台に駆け上がった。それが14時58分で、地震から12分で避難した（地震に耐えた2分を除くと点呼も含め10分で避難したことになる）。2日前の津波注意報が出たときもここに避難し、高台から海を見ながら震えていた。その経験が生き、全員が防寒着を持ち、養護教諭は毛布と薬品を、教頭は手動発電機のラジオを、教務主任は重要ファイルの入ったUSBを抱え手際よく対応した。「今日も津波は来ないのか」と思い始めていた矢先に、町の防災無線が海の潮位を知らせ、固唾をのんで見守ると、沖合から波の壁がみるみる近づき、民家を飲み込み始めた。「ここも危ない」と考え、さらなる高台、五十鈴神社の階段を登るよう指示した。病人やお年寄り、それから保育園の園児などもいて、その人たちを支援しながら神社の境内に着いた。校長は当初、大学の専門家に相談したところ、津波は早い場合は3分でやってくることもあると聞いたので、校舎の屋上にするか随分迷ったが、地元出身のベテラン教諭の「絶対高台に避難すべき」との職員会での発言に救われたという。「思い込みの想定判断はダメ」「臨機応変なその場での判断がどうしても必要」と指摘する。同時に、教師集団のまとめ、地域の人たちとの協働、人間の力が防災の要、とも教訓を言っている。

● 釜石市立唐丹小学校（児童数73名）

校舎3階まで浸水。地震時は、低学年（1・2年生）は1階の教室で帰りの会、3年生以上は卒業式の練習で体育館にいた。体育館は上からの落下物があり、すぐさま体育館を出て校庭に避難した。1・2年生も校庭に集まり、全員集まった所に、保護者で元消防団のOさんが顔を出し、「津波が来るから、今すぐ避難しろ！」と言いに来てくれた。校長も、職員室から校庭に駆けつけ、「この揺れはただ事でないから、津波は間違いなく来る」と思い、急いで緊急避難場所にしていた天照御祖神社に行くよう指示を出し、避難した。

● 釜石市立鶴住居小学校（児童数362名）

地震発生時、欠席・早退は12名であり、350名が在校していた。揺れが大きく長いため早く津波が来ると思い、当初は3階に避難をしようとした。大津波警報が出され、隣の釜石東中の生徒が校外に避難を始めたので、付いていくようにして、校舎から700mほどある高齢者介護施設Aに駆け足で避難した。避難後、裏山の崩れを見て、地域の方の「もっと高台に！」との進言で、小学生・中学生・そしてその施設の入所者や職員約700名がさらに上の介護施設Bまで500mほど駆け足で避難した。その頃には先の介護施設Aが津波に飲み込まれ、介護施設Bの近くまで津波は来ていた。子どもたちは、さらに高台にある石材店まで避難した。

1) 本とりまとめでの二次避難に該当する。

● 大船渡市立越喜来小学校（児童数 73 名）

地震時には 71 名の児童がいたが、激しい揺れと校舎と校舎をつなぐ螺旋階段が激しくぶつかる音がして、校外への避難を決行。去年の 11 月に完成したばかりの津波避難用の非常通路を通して、二次避難場所の三陸鉄道の越喜来駅（標高約 20m）に避難した。その昇降口を通ることで、わずか 3 分ほど（地震発生から 6 分）で駅まで避難を終えることができ、そこで確認の点呼を取る。またその時、防災無線から大津波警報の情報を聞こえてきて、海の様子も見えたので、さらに三次避難場所としていた山の中腹（約 300m）にある南区公民館に避難する。地震発生から 15 分ほどでそこに全員が移動し、その場から間もなく 3 階の校舎が完全に水没するのを目の当りにする。非常用の通路が 4 か月前にでき、津波の半月前にそこを使った訓練を実施し、また校庭点呼でなく二次避難場所を高台とし、さらに上の公民館が市の指定避難場所になっていたことが、迅速に無事対応できたことにつながった。

● 岩泉町立小本小学校（児童数 88 名）

校長は大きな地震で必ず地震が来ると察知し、急いで避難対応を考えたが、事前の津波対応ワークショップで、宮城沖地震だと津波が来るまで 20 分は最低余裕があることに確信があり、落ち着いて対応することと、避難は長時間になることを予測し、急いでその服装準備をさせ避難させた。避難場所は、岩泉町の防災対策の施策で 21 年の 3 月に近隣の山に 130 段の階段が設置され、底への訓練もされていた。子どもと地域住民の迅速な避難に、絶大なる役割を果たした。以前の避難より 5～7 分早く避難できたとのことである。

3. 3 事後対応に関する情報

事後対応に関する事実情報は、現在、収集・精査中であることから、ここでは、震災直後の初期対応を中心に、これまでに得られた主な事実情報から、その経過を記載する。

● 震災時の市教育委員会における体制

石巻市教育委員会では、平成22年7月末日までは旧町ごとに地域教育事務所が置かれており、地域教育事務所長は本庁課長級の扱いであったが、震災の約7ヶ月前にあたる同年8月にこれが廃止されていた。また震災当時、石巻市教育委員会では、教育長が欠けており、教育委員会事務局長が教育長代理を努めていた。震災当時の指導主事は6名の態勢であった。

● 震災直後における市教育委員会の対応状況

震災により、石巻市は、東北3県の全市町村の中で最大の被害（3700名以上の死者・行方不明者）を受けた。津波後も水が引かず、市役所周辺では1週間程度は水に囲まれ、市役所は孤立していた。場所によっては、水の深さが150cmのところもあった。

旧石巻市内の規模の大きい小中学校も津波や火災などの被害を受けた。一部の学校では多数の児童の安否の確認ができなかった。例えば「湊小や石巻商業は壊滅」や「渡波小学校では百数十名が犠牲になった」などの断片的な情報が寄せられた。教育委員会は、各学校と連絡を取ろうとしたが、なかなか電話が通じず、徒歩や自動車で行ける学校に行って避難所開設の指示を行った。電話で連絡がとれたのは約半分程度の学校に過ぎなかった。遠方の学校の状況については、教育委員会が独自に情報収集することはほとんどできず、市災害対策本部に入ってくる情報をもらうしか方法がなかった。3月11日の時点で4日後に入試の合格発表が予定されていたが、そのデータが完全になくなっており、どのように対処するかということについての判断も迫られた。外部から教育委員会に寄せられてきた情報のほとんどは、避難所への支援要請であった。市内の多くの学校が住民の避難所となったおり、その運営は学校側が行うしかなかった。

震災から数日間は、石巻市教育委員会としての独自の情報収集はきわめて困難であり、自衛隊など市災害対策本部に寄せられた情報によるところが大きかった。その中には、

「大川小学校の地区が壊滅状態」や「大川小学校では屋根に 20 人避難」などという情報もあったが、具体的なことは分からなかった。大川小学校以外では、例えば湊中学校の教員から「千人以上が二日間何も食べていない。周囲の車中にご遺体があるままになっている」などの連絡も寄せられた。

震災後の教育委員会事務局の問題意識の中心は避難所運営であった。本来であれば、避難所は市の防災対策課が開設し、その後の管理・運営は保護課が担当することになっていたが、市の防災対策課も保護課もたいへんな状況で、教育委員会が保護課と学校をつなぐ必要があった。市の防災対策課では毎日 19 時から避難所運営対策会議が行われたが、教育委員会からは必ず誰かが出席していた。

● 大川小学校に関する初期情報

震災後数日の間、大川小学校については、校長からも生存教諭からも情報が入らなかったが、3月15日付けで、河北総合支所から防災対策課へ届いたファクスにより、校長から児童等の安否確認に関する簡単な情報が届き、市教育委員会にもたらされた。

3月16日、初めて校長が市教育委員会に来庁した。対応した指導主事は校長から「まだ現場には行っていない。これから行く予定。校庭に避難。引き渡し中に津波。油断」という内容を聴取した。この日以後は校長から情報が入るようになった。校長から報告された情報は、主に生存している児童に関する情報であった。

校長が大川小の現地に初めて入ったのは、3月17日である。校長の説明によると、現地に行こうとしたが交通が途絶して行くことができなかったことと、ビッグバンで児童の安否情報を集めようとしたためとのことである。3月25日には、校長と生存教諭が教育委員会に来庁した。

震災から1～2週間過ぎた頃になって、大川小の被害状況が他校と比べて特別に大きいことが教育委員会にも明らかになってきた。それは他校の被害状況の把握が進み、安否不明者の数が減ってきたこととの相関であった。

● 大川小学校における児童・遺族などへの直後の対応

3月29日、大川小学校において、生存児童の集まる登校日が実施された。震災後、市教育委員会は、各学校の判断で登校日を実施して欲しいとの通知を出したため、石巻市内の各校では、それぞれの校長の判断で登校日が行われた。大川小学校における登校日の日程や持ち方は当時の校長が判断しており、特に教育委員会からの指示・指導はな

かった。父兄に対する告知は、主に避難所の掲示板における掲示により行われ、加えて、住宅被害を免れた生存児童宅には直接足を運んでの告知も行われた。

これとほぼ同じ時期となる3月末、市教育委員会において、指導主事の一人（指導主事A）を大川小学校の主担当とすることが決められた。しかしながら、これは専従ではなく、他の業務も行いながら担当窓口をこの指導主事に一本化するという位置づけであった。

3月29日に実施された登校日は、生存児童とその保護者を中心に告知がなされたため、必ずしもすべての遺族にその開催が知らされてはいなかった。このため、翌30日から31日にかけて当時のPTA関係者から、この点について配慮不足を指摘するとともに説明会の開催の要望する声が教育委員会に寄せられ、教育委員会が説明会を開催することになった。

説明会は4月9日に開催され、教育委員会からは事務局長と学校教育課長以下が出席した。この際の教育委員会の認識は、現時点で得ている情報をできる限り説明することと、保護者の要望を聞いてそれを叶えよう、というものであった。開催直前になって、保護者説明会には、急きょ生存教諭も出席することになった。この説明会の後は不明児童捜索に教育委員会も参加することになった。

5月上旬から中旬にかけて、生存児童らに聞き取り調査が行われた。生存児童以外では3名（生存教諭、用務員、市職員）が聞き取りの対象となった。事前に保護者の同意を得ずに聞き取り調査が行われた例もあった。聞き取り調査の報告書が作成された後に、聞き取りの際に作成されたメモは廃棄されていた。

6月4日、市長も出席の上で、第2回の保護者説明会が行われた。説明会の冒頭に、「今日の説明会は1時間程度」という言葉があった。質疑の途中で「時間なので」とされて説明会は終了した。

6月25日、空席であった教育長に境直彦氏が就任した。境教育長は就任記者会見の場で、全遺族宅を吊問すると表明した。事前に訪問を拒否された2件以外は全遺族宅を吊問した。

平成24年1月22日、第3回説明会が行われた。生存教諭が6月3日（第2回の説明会の前日）に学校にファクスで送付したという手紙が公開された。

巻末資料

収集資料一覧

本資料一覧は、当委員会の検証のため、関係者・関係機関のご協力を得て収集した資料を一覧としたものです。

これら資料は、「委員会における情報の取扱規程」に基づき、当委員会の検証作業のみに使用します。

石巻市教育委員会提供資料	
No	件名
A-001	東日本大震災に係る大川小学校事故報告書並びに聞き取り調査記録
A-002	東日本大震災に係る不明死亡児童生徒について※発議は写し
A-003	東日本大震災による大川小学校児童及び教職員の被災事故について（報告）
A-004	〇〇先生への質問事項について（依頼）
A-005	電話（口頭）受付票（大川小学校 〇〇教諭の面会希望について）
A-006	Re：石巻市教育委員会の〇〇です。
A-007	3・11に関する聞き取り調査の説明会について（ご案内）
A-008	電話（口頭）受付票（大川小学校行方不明児童捜索に関して他）
A-009	電話受付票（1月22日の説明会について他）
A-010	石巻市立大川小学校「ご遺族への説明会」の取材について（依頼）
A-011	1月22日開催の大川小遺族に対する説明会に関する申し入れ書の受理について
A-012	大川小不明児童及び教諭捜索に当たってのロボット調査について
A-013	大川小学校「3・11震災」に関する追加聞き取り記録
A-014	3・11に関する聞き取り調査の説明会の開催について
A-015	東日本大震災に関する聞き取り調査の説明会について（ご案内）
A-016	1月22日開催の大川小学校遺族に対する説明会に関する通知の受理について
A-017	電話（口頭）受付票（大川小について）
A-018	電話受付票（1月22日の大川小遺族への説明会の報道に関して）
A-019	電話受付票（1月22日の大川小遺族への説明会の報道に関して）
A-020	電話受付票（大川小学校のことについて）
A-021	東日本大震災に関する聞き取り調査の説明会の開催について
A-022	電話受付票（メール 大川小不明児童及び教諭捜索に当たってのロボット調査について②）
A-023	3・11に関する聞き取り調査の説明会の開催について（1月22日説明会欠席者向け）
A-024	復命書（大川地区行方不明者捜索会議（富士川の捜索））
A-025	電話受付票（1月22日の大川小遺族への説明会に関する報道について）
A-026	電話（口頭）受付票（捜索について）
A-027	電話受付票（大川小学校のことについて）
A-028	1月22日開催の大川小学校遺族に対する説明会の議事録について
A-029	復命書（河北総合支所災害対策会議）
A-030	市政へのご意見・ご提言
A-031	平成24年1月22日開催の大川小学校遺族説明会の議事録について（送付）
A-032	電話受付票（今後の話合いについて他）
A-033	電話受付票（合同捜索のことについて）
A-034	電話（口頭）受付票（大川小校地へ中継車を入れることについて）
A-035	東日本大震災に関する聞き取り調査の説明会後の話合いについて（ご案内）
A-036	〇〇大川小学校長聞き取り記録について
A-037	2月4日開催の大川小学校教職員遺族説明会の議事録について
A-038	大川小遺族との話合いについて
A-039	1月22日開催の大川小学校遺族説明会後の記者会見記録について
A-040	東日本大震災に関する聞き取り調査の説明会議事録について（送付）
A-041	大川小学校ご遺族との話合いについての記者クラブへの投げ込みについて
A-042	市政へのご意見・ご提言
A-043	市政へのご意見・ご提言（はがき）
A-044	電話（口頭）受付票（大川小遺族会と県警本部長との面会について）
A-045	松山観光スクールバス運転手再開き取りの結果
A-046	2月2日開催の大川小学校遺族説明会の議事録について（1月22日開催の説明会欠席者対象）
A-047	市政へのご意見・ご提言
A-048	東日本大震災による大川小学校児童及び教職員の被災事故について（第2報）
A-049	上記No.48添付資料1）
A-050	上記No.48添付資料2）
A-051	上記No.48添付資料3）
A-052	上記No.48添付資料4）
A-053	上記No.48添付資料5）
A-054	3月18日開催の大川小学校遺族との話合いの議事録について
B-001	平成24年3月18日開催の大川小学校遺族会説明会議事録の送付について
B-002	平成24年3月18日開催の第4回大川小学校ご遺族への説明会報道記者会見について
B-003	大川小学校遺族との話合いのための準備会の概要について（第1回・平成24年4月6日）
B-004	Re：ロボット調査に係る訪問日程について
B-005	Re：ロボット調査に係る訪問日程について
B-006	電話対応受付票（今後の捜索の予定について）
B-007	口頭受付票（大川小に関する質問）
B-008	復命書（大川小児童の捜索について）
B-009	復命書（水中ロボット捜索打ち合わせ）
B-010	大川小学校遺族会全体会の開催について
B-011	大川小学校遺族との話し合いのための準備会の概要について（第2回・平成24年4月17日）
B-012	大川小探査の面談希望5/31、6/1
B-013	復命書（大川小学校〇〇教諭の病状確認）

No	件名
B-014	電話対応受付票（長面方面の水田捜索について）
B-015	大川小学校遺族との話し合いのための準備会の概要について（第3回・平成24年5月2日）
B-016	復命書（大川小学校遺族会全体会）
B-017	電話対応受付票（大川小校舎の存続等について）
B-018	電話対応受付票（大川小情報開示等について）
B-019	平成23年4月9日開催の大川小学校保護者説明会議事録について
B-020	Re：大川小探査の面談希望5/31、6/1
B-021	水中ロボット探査について
B-022	復命書（大川小学校不明児童の捜索について）
B-023	平成23年4月9日開催の大川小学校「保護者説明会」議事録の送付について
B-024	復命書（4月17日に雄勝湾で発見された頭蓋骨の鑑定結果についての打合せ）
B-025	電話対応受付票（被災3県調査（文科省）結果の公表について）
B-026	復命書（大川小学校不明児童の捜索について）
B-027	復命書（平成24年度みやぎの漁場再生事業についての説明会（長面方面））
B-028	電話対応受付票（大川小学校の事故について）
B-029	DSP災害支援プロジェクト
B-030	長面湾探査について
B-031	石巻市立大川小学校児童遺族有志への「回答書」の取材について
B-032	電話対応受付票（大川小を含めた石巻の防災について）
B-033	大川小学校児童遺族有志の「質問書」について（回答）
B-034	電話対応受付票（大川小学校について）
B-035	大川小学校児童遺族有志からの質問書に対する回答書の手渡し並びに記者会見について
B-036	大川小学校遺族との話し合いのための準備会の概要について（第4回・平成24年6月12日）
B-037	石巻市立大川小学校遺族との話し合い（概要） 平成24年6月17日（日） 20：43～23：10
B-038	復命書（大川小学校「不明者捜索についての説明会」）
B-039	東日本大震災に関する聞き取り調査の説明会後の話し合いについて（ご案内）
B-040	復命書（第2回長面浦漁場復旧調整会議）
B-041	石巻市立大川小学校「御遺族との話し合い」の取材について（依頼）
B-042	東日本大震災当日の大川小学校付近の状況について（話しの内容の記録）
B-043	Re：石巻市教育委員会 ○○です
B-044	復命書（重機捜索現場確認ほか）
B-045	大川小学校遺族との話し合いに係る記者会見について（平成24年7月8日）
B-046	復命書（捜索用重機の支援依頼についての話し合い）
B-047	Re：石巻市教育委員会 ○○です
B-048	平成24年7月8日開催の大川小学校遺族との話し合いに係る記者会見議事録の送付について
B-049	復命書（柏葉前大川小学校長の携帯電話のデータ復元依頼）
B-050	平成24年7月8日開催の大川小学校遺族との話し合いの議事録について
B-051	東日本大震災当日の聴き取りについて （平成24年8月8日）
B-052	東日本大震災当日の聴き取りについて （平成24年8月9日）
B-053	大川小学校児童遺族有志の「要望書」について
B-054	石巻市立大川小学校児童遺族有志の「要望書」について
B-055	平成24年7月8日開催の大川小学校遺族との話し合い議事録の送付について
B-056	平成24年8月21日実施予定の現場確認実施計画について
B-057	聞き取り調査等に関する話し合い及び第三者機関による学校防災検証事業の説明について（ご案内）
B-058	大川小学校遺族有志への対応の概要
B-059	文部科学大臣、宮城県教育長、石巻市長、石巻市教育委員会教育長等の意見交換の概要
B-060	○○氏からの質問事項に対する回答
B-061	石巻市立大川小学校現場確認の結果について
B-062	復命書（○○前大川小学校長の3月11日の足取り調査及び携帯電話のデータ復元依頼）
B-063	石巻市立大川小学校「御遺族との話し合い」の取材について（依頼）
B-064	大川小学校遺族代表との話し合いの概要（平成24年7月25日）
B-065	平成24年3月18日実施の大川小学校遺族との話し合いについての会議録の訂正について
B-066	平成24年6月4日実施の大川小学校「第2回保護者説明会」の議事録の訂正について
B-067	石巻広域消防本部の検索救助活動
B-068	口頭受付票（公文書開示請求時の要望）
B-069	口頭受付票（釜谷地区で被災した方々との会議への出席依頼）
B-070	電話受付票（話し合いの要請）
B-071	電話受付票（大川小学校浄化槽の捜索について）
B-072	報告書（大川小捜索立会い）
B-073	○○さん主催の会議への出席結果について
B-074	過去の大川小学校に関する公文書の保存年限・類目（文書分類番号）・完結年月日の訂正について
B-075	電話受付票（長面地区行方不明者捜索調整会議について）

No	件名
B-076	聞き取り調査等に関する話し合い及び第三者機関による学校防災検証事業の説明について（ご案内）
B-077	相談機関の案内について
B-078	会議記録簿（長面地区行方不明者捜索調整会議について）
B-079	大川小行方不明児童に係る長面地区捜索の打合せについて
B-080	打合わせ記録簿（大川小行方不明児童に係る長面地区捜索の打ち合わせ）
B-081	大川小遺族代表との話し合い（平成24年9月10日）の記録
B-082	聞き取り調査等に関する話し合い及び第三者機関による学校防災検証事業の説明について（延期のお知らせ）
B-083	聞き取り調査等に関する話し合い及び第三者機関による学校防災検証事業の説明について（お知らせ）
B-084	平成24年8月26日開催 大川小学校遺族との話し合いの議事録の供覧について
B-085	平成24年8月26日開催の大川小学校遺族との話し合いの後の記者会見議事録の供覧について
B-086	平成24年8月26日開催の大川小学校遺族との話し合い及び記者会見議事録の送付について
B-087	打合わせ記録簿（大川小行方不明児童に係る長面地区捜索の打ち合わせ）
B-088	宮城県議会改革みやぎ調査視察のお知らせ
B-089	Re：面談希望について（石巻市教育委員会）
B-090	Re：面談希望について（石巻市教育委員会）
B-091	打ち合わせ記録簿（長面地区行方不明者捜索打ち合わせ）
B-092	電話受付票（開示請求に関する事項）
B-093	大川小学校「3.11震災」に関する聴き取り記録（〇〇、△△夫妻）
B-094	石巻市立大川小学校「御遺族との話し合い」の取材について（依頼）
B-095	「大川小学校事故検証に関する『4者円卓会議』の開催について（ご案内）」について（送付）
B-096	協議記録簿（文部科学省担当者との協議）
B-097	復命書（大川小学校〇〇教諭の病状確認）
B-098	会議記録簿（長面地区行方不明者捜索打合せについて）
B-099	「4者円卓会議（第1回）」開催に伴う取材に関するお願い
B-100	打合わせ記録簿（大川小行方不明児童に係る富士川捜索の打ち合わせ）
B-101	平成24年9月28日開催 文部科学大臣官房長、宮城県教育次長、石巻市長等の意見交換の概要
B-102	大川小学校不明児童等の捜索に関する関係者会議について（依頼）
B-103	大川小学校事故検証に関する「4者円卓会議」配布資料の送付について
B-104	報告書（遺体捜索業務現場確認）
B-105	会議記録簿（長面地区行方不明者捜索打合せについて）
B-106	会議記録簿（大川小学校行方不明児童の捜索に関する関係者会議）
B-107	会議記録簿（長面地区行方不明者一斉捜索会議について）
B-108	平成24年11月3日開催の大川小学校事故検証に関する「4者円卓会議」当日配布資料の供覧について
B-109	大川小学校不明児童等の捜索に関する関係者会議（第2回）について（依頼）
B-110	これまでの経過と第三者機関による検証事業についての説明会について（ご案内）
B-110-1	上記資料(その1)
B-110-2	上記資料(その2)
B-110-3	上記資料(その3)
B-110-4	上記資料(その4)
B-110-5	上記資料(その5)
B-110-6	上記資料(その6)
B-110-7	上記資料(その7)
B-111	大川小学校事故検証に関する「4者円卓会議」（第2回）の開催について
B-112	口頭受付票（情報公開に関する事項）
B-113	会議記録簿（長面地区行方不明者捜索打合せについて）
B-114	平成24年10月28日開催の大川小学校遺族との話し合い後の記者会見議事録の供覧について
B-115	〇〇からの聴き取り記録
B-116	大川小行方不明児童に係る捜索の打合せについて
B-117	平成24年10月28日開催 大川小学校遺族との話し合いの議事録の供覧について
B-118	会議記録簿（大川小学校行方不明児童等の捜索に関する関係者会議（第2回））
B-119	会議記録簿（長面地区行方不明者捜索打合せについて）
B-120	大川小学校事故検証に関する「4者円卓会議」（第2回）開催に伴う取材に関するお願い
B-121	平成24年10月28日開催の大川小学校遺族との話し合い議事録の送付について
B-122	大川小学校教職員遺族説明会（平成24年11月17日開催）の資料について
B-123	平成24年11月25日開催の大川小学校事故検証に関する「4者円卓会議」（第2回）配付資料等の送付について
B-124	平成24年11月25日開催の大川小学校事故検証に関する「4者円卓会議」（第2回）議事録の送付について
B-125	打ち合わせ記録簿（長面地区行方不明者捜索打ち合わせ）
B-126	第三者機関による検証事業についての説明会について（ご案内）
B-127	平成24年11月25日開催の大川小学校事故検証に関する「4者円卓会議」当日配布資料の供覧について
B-128	行方不明者の捜索に係る協力要請について（依頼）

No	件 名
B-129	平成24年10月22日開催 大川小学校遺族代表との話し合い議事録の供覧について
B-130	平成24年8月10日開催 大川小学校遺族代表との話し合い議事録の供覧について
B-131	「4者円卓会議」等の資料と議事録について (送付)
B-132	平成24年11月17日開催の大川小学校教職員遺族との話し合い議事録の供覧について
B-133	平成24年11月17日開催の大川小学校教職員遺族との話し合い議事録の送付について
B-134	会議記録簿 (長面地区行方不明者捜索打ち合わせ)
B-135	大川地区ほ場整備事業代表実行委員会の開催について
B-136	口頭受付票 (情報の扱いについて)
B-137	会議記録簿 (大川地区ほ場整備事業代表実行委員会)
B-138	平成24年12月9日開催の大川小学校教職員遺族説明会欠席者への資料等について (送付)
B-139	会議記録簿 (長面地区捜索打ち合わせ)
B-140	捜索に関する打ち合わせ (概要)
B-141	平成24年11月25日開催の大川小学校事故検証に関する「4者円卓会議」 (第2回) 記者会見議事録の供覧について
B-142	大川小学校教職員遺族説明会 (平成24年12月9日開催) の資料について
B-143	Re: 議会資料の差し替えについて
B-144	電話受付表 (遺体捜索関係)
B-145	Re: 面談のお願いについて (石巻市教育委員会)
B-146	会議記録簿 (長面地区捜索打ち合わせ)
B-147	平成24年12月9日開催の大川小学校教職員遺族との話し合い議事録の供覧について
B-148	平成24年12月9日開催の大川小学校教職員遺族との話し合い議事録の送付について
B-149	復命書 (釜谷道路復旧工事に係る捜索活動打合せ)
B-150	大川小学校不明児童等の捜索 (富士川) に関する調整会議について (依頼)
B-151	復命書 (大川小学校 ○○教諭の病状確認)
B-152	平成24年12月10日開催の大川小学校児童代表遺族との話し合い議事録の供覧について
B-153	平成24年11月3日開催の大川小学校事故検証に関する「4者円卓会議」 記者会見議事録の供覧について
B-154	会議記録簿 (長面地区捜索打ち合わせ)
B-155	会議記録簿 (大川小学校不明児童等の捜索 (富士川) に関する調整会議)
B-156	打合わせ記録簿 (大川・長面地区捜索作業現場確認)
B-157	大川小捜索関連: H25. 1. 7から排水作業を開始
B-158	打合わせ記録簿 (大川・長面地区捜索作業現場確認)
B-159	口頭受付票 (情報開示等について)
B-160	打合わせ記録簿 (大川・長面地区捜索作業現場確認) 1/18
B-161	打合わせ記録簿 (大川・長面地区捜索作業現場確認) 1/21
B-162	報告書 (大川小学校遺族 ○○さん宅訪問結果)
B-163	打合わせ記録簿 (富士川捜索作業現場確認)
B-164	打合わせ記録簿 (富士川捜索作業現場確認)
B-165	電話受付票 (話し合いの継続等について)
B-166	打合わせ記録簿 (大川・長面地区捜索作業現場確認)
B-167	平成23年6月4日開催 大川小学校「第2回保護者説明会」の議事録の供覧及びご遺族への送付について
B-168	大川小捜索関連: H25. 1. 21現在富士川水位状況
B-169	会議記録簿 (大川小学校不明児童等の捜索 (富士川) に関する業者との調整会議並びに現地確認)
B-170	富士川の捜索に関する不明児童遺族との打合わせについて
B-171	打合わせ記録簿 (長面地区行方不明者捜索打合せについて)
B-172	打合わせ記録簿 (長面地区行方不明者捜索打合せについて)
B-173	会議記録簿 (第1回大川小学校事故検証委員会)
B-174	打合わせ記録簿 (富士川捜索作業現場確認)
B-175	打合わせ記録簿 (富士川捜索作業現場確認)
B-176	大川小学校児童及び教職員の三回忌合同法要について
B-177	大川小学校不明児童等の捜索 (富士川) に関する調整会議について (依頼)
B-178	復命書 (業者・担当者打合わせ等)
B-179	大川小学校児童及び教職員の三回忌合同法要について
B-180	打合わせ記録簿 (大川・長面地区捜索作業現場確認)
B-181	口頭受付票 (話し合いの継続等について)
B-182	会議記録簿 (大川小学校不明児童等の捜索 (富士川) に関する調整会議)
B-183	打合わせ記録簿 (富士川・長面地区捜索作業現場確認)
B-184	口頭受付票 (3報) (話し合いの継続について)
B-185	RE: 大川小学校不明児童等の捜索 (富士川) について (お知らせ)
B-186	Re: 面談のお願いについて (石巻市教育委員会)
B-187	打合わせ記録簿 (富士川捜索作業現場確認)
B-188	大川小学校不明児童等の捜索 (富士川) について パネル展示の連絡
B-189	平成25年2月26日開催の大川小学校代表遺族との話し合い議事録の供覧について
B-190	電話受付票 (大川小学校で亡くなった児童、教職員への対応等について)
B-191	石巻市教育委員会の活動状況について (お知らせ)
B-192	打合わせ記録簿 (長面地区行方不明者捜索打ち合わせ)
B-193	会議記録簿 (第2回大川小学校事故検証委員会)

No	件 名
B-194	打合わせ記録簿（長面地区行方不明者捜索打合せについて）
B-195	東日本大震災による大川小学校児童及び教職員の被災事故について（第3報）
C-001	大川小学校「保護者説明会」の流れ
C-002	大川小学校保護者有志からの要望書について
C-003	大川小学校「第2回保護者説明会」の流れ
C-004	大川小学校「第2回保護者説明会」議事録
C-005	大川小学校慰霊碑及び植樹場所について
C-006	第2回大川小学校保護者説明会での要望事項について
C-007	平成22年度教育計画 大川小学校（抜粋）
C-008	河北町立学校の設置に関する条例の一部を改正する条例の制定について
C-009	事務引継書（〇〇 → 〇〇・〇〇）
C-010	事務引継書（〇〇 → 〇〇）
C-011	人事発令通知書並びに人事発令内訳書 （過去5年分）
D-001	平成23年6月4日開催大川小学校「第2回保護者説明会」の議事録（詳細版）
D-002	平成23年6月4日開催大川小学校「第2回保護者説明会」の議事録（詳細・送付版）
E-001	平成22年度教育計画 石巻市立大川中学校（抜粋）
E-002	平成23年度教育計画 石巻市立大川中学校（抜粋）
E-003	危機管理マニュアル（抜粋）
E-004	病欠休暇申請書（診断書添付） 県負担教職員の休職内心について 休職教職員の状況報告書の提出について
E-004-01	同上
E-004-02	同上
E-004-03	同上
E-004-04	同上
E-004-05	同上
E-004-06	同上
E-004-07	同上
E-004-08	同上
E-004-09	同上
E-004-10	同上
E-004-11	同上
E-004-12	同上
E-004-13	同上
E-004-14	同上
E-004-15	同上
E-004-16	同上
E-004-17	同上
E-004-18	同上
E-005	県費負担教職員の休職内申について
E-006	休職教職員の状況報告書の提出について
E-007	平成24年度教育計画 大川小学校（抜粋） Ⅲ 危機管理 1 防災教育全体計画 2 防災教育 3 防災管理 4 災害安全（防災） 災害対策マニュアル
E-008	平成24年度の学校防災の取組について（通知）
E-009	学校における総合的な災害対策の整備について
E-010	平成24年度 6月補正（定例会）予算要求集計表 学校教育課（抜粋）
E-011	23.3.11大地震 学校の状況
E-012	医療専門家による巡回相談、支援体制の整備—大川小学区重点巡回訪問について—
E-013	東日本大震災における学校（園）の対応等に関する調査（大川小学校分）
E-014	学校施設・設備被害報告
E-015	平成22年度 石巻市立小・中学校校長会第6回（11月定例）役員会
E-016	10月校長会の災害対応資料
E-017	平成22年度石巻市立小・中学校教頭・中堅教員研修会について
E-018	平成24年度防災教育研修会グループ協議記録
E-019	復命書（平成24年度防災教育研修会）
E-020	平成22年度教育計画 石巻市立小・中学校（抜粋）（地震・津波対策分）【別表のとおり】
E-020-001	平成22年度教育計画 石巻市立石巻小学校（地震・津波対策分）
E-020-002	平成22年度教育計画 石巻市立住吉小学校（地震・津波対策分）
E-020-003	平成22年度教育計画 石巻市立門脇小学校（地震・津波対策分）
E-020-004	平成22年度教育計画 石巻市立湊小学校（地震・津波対策分）

No	件名
E-020-005-1	平成22年度教育計画 石巻市立湊第二小学校(地震・津波対策分)
E-020-005-2	同上 平成22年度災害発生時における対応マニュアル 石巻市立湊第二小学校(地震・津波対策分)
E-020-006	平成22年度教育計画 石巻市立釜小学校(地震・津波対策分)
E-020-007	平成22年度教育計画 石巻市立山下小学校(地震・津波対策分)
E-020-008-1	平成22年度教育計画 石巻市立蛇田小学校(地震・津波対策分)
E-020-008-2	同上 平成22年度危機管理の手引き 石巻市立蛇田小学校(地震・津波対策分)
E-020-009	平成22年度教育計画 石巻市立荻浜小学校(地震・津波対策分)
E-020-010	平成22年度教育計画 石巻市立東浜小学校(地震・津波対策分)
E-020-011	平成22年度教育計画 石巻市立渡波小学校(地震・津波対策分)
E-020-012-1	平成22年度教育計画 石巻市立稲井小学校(地震・津波対策分)
E-020-012-2	同上 危機管理の手引き 石巻市立稲井小学校(地震・津波対策分)
E-020-013	平成22年度教育計画 石巻市立向陽小学校(地震・津波対策分)
E-020-014-1	平成22年度教育計画 石巻市立貞山小学校(地震・津波対策分)
E-020-014-2	同上 非常時・緊急事態時用 危機管理マニュアル 石巻市立貞山小学校(地震・津波対策分)
E-020-015-1	平成22年度教育計画 石巻市立開北小学校(地震・津波対策分)
E-020-015-2	同上 平成22年度危機管理マニュアル 石巻市立開北小学校(地震・津波対策分)
E-020-016-1	平成22年度教育計画 石巻市立万石浦小学校(地震・津波対策分)
E-020-016-2	同上 平成22年度危機管理の手引き 石巻市立万石浦小学校(地震・津波対策分)
E-020-017	平成22年度教育計画 石巻市立大街道小学校(地震・津波対策分)
E-020-018-1	平成22年度教育計画 石巻市立中里小学校(地震・津波対策分)
E-020-018-2	同上 学校管理マニュアル 石巻市立中里小学校(地震・津波対策分)
E-020-019-1	平成22年度教育計画 石巻市立鹿妻小学校(地震・津波対策分)
E-020-019-2	同上 危機管理マニュアル(災害の場合) 石巻市立鹿妻小学校(地震・津波対策分)
E-020-020-1	平成22年度教育計画 石巻市立飯野川第一小学校(地震・津波対策分)
E-020-020-2	同上 危機管理マニュアル 石巻市立飯野川第一小学校(地震・津波対策分)
E-020-021-1	平成22年度教育計画 石巻市立飯野川第二小学校(地震・津波対策分)
E-020-021-2	同上 諸規定及び対応マニュアル 石巻市立飯野川第二小学校(地震・津波対策分)
E-020-022-1	平成22年度教育計画 石巻市立大谷地小学校(地震・津波対策分)
E-020-022-2	同上 平成22年度危機管理要綱 石巻市立大谷地小学校(地震・津波対策分)
E-020-023-1	平成22年度教育計画 石巻市立二俣小学校(地震・津波対策分)
E-020-023-2	同上 石巻市立二俣小学校危機管理マニュアル(地震・津波対策分)
E-020-024	平成22年度教育計画 石巻市立大川小学校(地震・津波対策分)
E-020-025	平成22年度教育計画 石巻市立雄勝小学校(地震・津波対策分)
E-020-026	平成22年度教育計画 石巻市立船越小学校(地震・津波対策分)
E-020-027-1	平成22年度教育計画 石巻市立大須小学校(地震・津波対策分)
E-020-027-2	同上 石巻市立大須小学校危機管理マニュアル(地震・津波対策分)
E-020-028	平成22年度教育計画 石巻市立広瀬小学校(地震・津波対策分)
E-020-029	平成22年度教育計画 石巻市立須江小学校(地震・津波対策分)
E-020-030-1	平成22年度教育計画 石巻市立北村小学校(地震・津波対策分)
E-020-030-2	同上 平成22年度危機管理マニュアル 石巻市立北村小学校(地震・津波対策分)
E-020-031	平成22年度教育計画 石巻市立前谷地小学校(地震・津波対策分)
E-020-032	平成22年度教育計画 石巻市立和瀬小学校(地震・津波対策分)
E-020-033-1	平成22年度教育計画 石巻市立鹿又小学校(地震・津波対策分)
E-020-033-2	同上 平成22年度 危機管理マニュアル 石巻市立鹿又小学校(地震・津波対策分)
E-020-034	平成22年度教育計画 石巻市立中津山第一小学校(地震・津波対策分)
E-020-035	平成22年度教育計画 石巻市立中津山第二小学校(地震・津波対策分)
E-020-036	平成22年度教育計画 石巻市立桃生小学校(地震・津波対策分)
E-020-037	平成22年度教育計画 石巻市立相川小学校(地震・津波対策分)
E-020-038	平成22年度教育計画 石巻市立橋浦小学校(地震・津波対策分)
E-020-039-1	平成22年度教育計画 石巻市立吉浜小学校(地震・津波対策分)
E-020-039-2	同上 平成22年度危機管理マニュアル 石巻市立吉浜小学校(地震・津波対策分)
E-020-040-1	平成22年度教育計画 石巻市立鮎川小学校(地震・津波対策分)
E-020-040-2	同上 危機管理マニュアル 石巻市立鮎川小学校(地震・津波対策分)
E-020-041-1	平成22年度教育計画 石巻市立大原小学校(地震・津波対策分)
E-020-041-2	同上 自然災害に備えて<保護者、教職員用> 石巻市立大原小学校(地震・津波対策分)
E-020-042-1	平成22年度教育計画 石巻市立寄磯小学校(地震・津波対策分)
E-020-042-1	同上 平成22年度緊急対応マニュアル 石巻市立寄磯小学校(地震・津波対策分)
E-020-043	平成22年度教育計画 石巻市立谷川小学校(地震・津波対策分)
E-020-101-1	平成22年度「石中の教育」 石巻市立石巻中学校(地震・津波対策分)
E-020-101-2	同上 平成22年度危機管理の手引き 石巻市立石巻中学校(地震・津波対策分)
E-020-102-1	平成22年度「住中の教育」 石巻市立住吉中学校(地震・津波対策分)
E-020-102-2	同上 平成22年度危機管理の手引き 石巻市立住吉中学校(地震・津波対策分)
E-020-103-1	平成22年度教育計画 石巻市立門脇中学校(地震・津波対策分)
E-020-103-2	同上 地震災害が発生した場合の行動マニュアル
E-020-104	平成22年度教育計画 石巻市立湊中学校(地震・津波対策分)
E-020-105-1	平成22年度教育計画 石巻市立蛇田中学校(地震・津波対策分)
E-020-105-2	同上 平成22年度蛇田中学校長期休業計画(自身・津波対策分)
E-020-106-1	平成22年度教育計画 石巻市立荻浜中学校(地震・津波対策分)

No	件名
E-020-106-2	同上 “平成22年度石巻市立荻浜中学校避難訓練計画（地震・津波対策分）”
E-020-107-1	平成22年度教育計画 石巻市立渡波中学校（地震・津波対策分）
E-020-107-2	同上 平成22年度石巻市立渡波中学校予防規定（日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災規程）
E-020-108-1	平成22年度教育計画 石巻市立稲井中学校（地震・津波対策分）
E-020-108-2	同上 平成22年度危機管理の手引き 石巻市立稲井中学校（地震・津波対策分）
E-020-109-1	平成22年度山中の教育 石巻市立山下中学校（地震・津波対策分）
E-020-109-2	同上 平成22年度危機管理の手引き 石巻市立山下中学校（地震・津波対策分）
E-020-110-1	平成22年度青葉中学校の教育 石巻市立青葉中学校（地震・津波対策分）
E-020-110-2	同上 平成22年度石巻市立青葉中学校避難訓練実施計画（地震・津波対策分）
E-020-111	平成22年度教育計画 石巻市立万石浦中学校（地震・津波対策分）
E-020-112-1	平成22年度教育計画 石巻市立飯野川中学校（地震・津波対策分）
E-020-112-2	同上 平成22年度地震・津波に備えた学校の対応マニュアル 石巻市立飯野川中学校
E-020-113-1	平成22年度教育計画 石巻市立大川中学校（地震・津波対策分）
E-020-113-2	同上 平成22年度地震・津波に備えた学校の対応マニュアル 石巻市立大川中学校
E-020-114-1	平成22年度河北中の教育 石巻市立河北中学校（地震・津波対策分）
E-020-114-2	同上 平成22年度地震・津波に備えた学校の対応マニュアル 石巻市立河北中学校
E-020-115	平成22年度教育計画 石巻市立雄勝中学校（地震・津波対策分）
E-020-116	平成22年度教育計画 石巻市立大須中学校（地震・津波対策分）
E-020-117	平成22年度教育計画 石巻市立河南東中学校（地震・津波対策分）
E-020-118	平成22年度教育計画 石巻市立河南西中学校（地震・津波対策分）
E-020-119	平成22年度学校教育計画 石巻市立桃生中学校（地震・津波対策分）
E-020-120-1	平成22年度北中の教育 石巻市立北上中学校（地震・津波対策分）
E-020-120-2	同上 石巻市立北上中学校危機管理マニュアル2010（地震・津波対策分）
E-020-121	平成22年度教育計画 石巻市立牡鹿中学校（地震・津波対策分）
F-001	平成17年度 教職員名簿及び学校経営案
F-002	平成21年度 教職員名簿及び学校経営案
F-003	平成22年度 教職員名簿及び学校経営案
F-004	平成22年度 石巻市立大川小学校 教育計画
F-005	平成22年度教育施策に係るアンケート調査
F-006	学校の自己評価等について
F-007	石巻市立学校評議員の設置について
F-008	石巻市立学校評議員の設置について
F-009	平成22年度石巻市立学校学校評議員の依頼について
F-010	平成19年度 勤務成績報告書 市町立学校職員の職員評価における自己評価の記入及び提出について
F-011	平成20年度 勤務成績報告書 市町立学校職員の職員評価における自己評価の記入及び提出について
F-012	平成21年度 勤務成績報告書
F-013	平成22年度 勤務成績報告書
F-014	平成21年度 第1回 石巻市学校安全連絡会議要項
F-015	平成21年度 第2回 石巻市学校安全連絡会議要項
F-016	平成21年度 第3回 石巻市学校安全連絡会議要項
F-017	平成21年度 石巻市学校安全対策研修会アンケート結果
F-018	平成21年度石巻市学校安全対策研修会要項
F-019	平成22年度石巻市学校安全対策研修会要項
F-020	平成23年度石巻市学校安全対策研修会要項
F-021	平成24年度石巻市学校安全対策研修会要項
F-022	平成21年度 石巻市立小・中学校教頭会議資料 （4月、6月、9月、11月分）
F-023	平成22年度 石巻市立小・中学校教頭会議資料 （4月、6月、9月、11月分）
F-024	平成22年度 石巻市立小・中学校長・園長会議資料 （4月、5月、7月、8月、10月、12月、1月、2月分）
F-025	大川小学校耐火金庫から回収された資料の一覧
G-001	23.3.11大地震 学校の状況（全小・中学校分）
G-002	石巻市地域防災計画（震災対策編と資料編）
G-003	河北町立大川小学校誕生（開校10周年記念誌）
G-004	平成22年度公立学校施設等の総括表（大川小学校分）
G-005	河北地区 防災ガイド・ハザードマップ 保存版
G-006	自主防衛組織 組織率等集計用紙
G-007	平成18年度 防災訓練関係書類
G-008	平成19年度 防災訓練関係書類
G-009	平成20年度 防災訓練関係書類
G-010	平成21年度 防災訓練関係書類
G-011	平成22年度 防災訓練関係書類
G-012	大川小学校 校舎平面図
G-013	平成15年度大川小学校学校沿革史について
G-014	完成届（校舎屋根工事）
G-015	工事写真帳

No	件名
G-016	平成17年度 大川小学校 教育計画
G-017	長面地区緊急避難場所設置に係る陳情書の提出について
G-018	平成16年度 河北地区総合防災訓練計画（大川小学校会場）
H-001	復命書（大川小学校 ○○ ○○教諭の病状確認）
H-002	会議記録簿（第2回大川小学校事故検証委員会ご遺族説明会）
H-003	打合わせ記録簿（長面地区搜索作業現場確認）
H-004	打合わせ記録簿（長面地区搜索についての打合せ）
H-005	震災遺構の3Dデジタル化事業に関する撮影に関する意向調査
H-006	打合わせ記録簿（長面地区搜索作業現場確認）
H-007	打合わせ記録簿（長面地区搜索作業現場確認）
H-008	打合わせ記録簿（長面地区搜索作業現場確認）
H-009	打合わせ記録簿（長面地区搜索についての打合せ）
H-010	打合わせ記録簿（長面搜索作業現場確認（長面農村漁業者トレーニングセンター跡地周辺））
H-011	石巻市教育委員会の活動状況について（お知らせ）
H-012	打合わせ記録簿（長面地区搜索についての打合せ）4/26
H-013	打合わせ記録簿（長面地区搜索についての打合せ）4/30
H-014	東日本大震災による大川小学校児童及び教職員の被災事故について（第3報追加分）
H-015	打合わせ記録簿（長面地区行方不明者搜索打合せについて）
H-016	長面上地区の搜索活動について（お願い）
H-017	大川小学校不明児童等の搜索に関する関係者調整会議について（依頼）
H-018	打合わせ記録簿（長面地区搜索作業現場確認）
H-019	平成25年4月17日開催の大川小学校代表遺族との話し合い議事録の供覧について
H-020	打合わせ記録簿（大川小学校児童搜索の見通しについて（富士川搜索））
H-021	打合わせ記録簿（長面搜索作業現場確認（長面農村漁業者トレーニングセンター跡地周辺））
H-022	会議記録簿（大川小学校児童等の搜索に関する調整会議）
H-023	打合わせ記録簿（長面地区搜索についての打合せ）
H-024	会議記録簿（大川小学校不明児童搜索に関する調整会議）
H-025	打合わせ記録簿（長面地区行方不明者搜索打合せについて）
H-026	会議記録簿（大川小学校不明児童搜索に関する調整会議）
H-027	返答（話し合いについて）
H-028	打合わせ記録簿（搜索現場確認）
H-029	会議記録簿（大川小学校不明児童搜索に関する現地調査（蛇沼））
H-030	返答（話し合いについて）
H-031	石巻市議会環境教育委員会への資料について（送付）
H-032	平成25年5月31日開催の大川小学校代表遺族との話し合い議事録の供覧について
H-033	石巻市議会環境教育委員会への資料（追加分）について（送付）
H-034	打合わせ記録簿（蛇沼搜索についての打合せ）
H-035	Re：疑問（話し合いについて）
H-036	Re：疑問（話し合いについて）
H-037	打合わせ記録簿（長面地区行方不明者搜索打合せについて）
H-038	遺族への返答について
H-039	RE：話し合いについて
H-040	7月8日のメールへの返信（案）
H-041	御遺族との話し合いについて（ご案内）
H-042	打合わせ記録簿（大川小学校児童搜索の見通しについて）
H-043	Re：面談のお願いについて（石巻市教育委員会）
H-044	石巻市議会各種記録複写等申請について
H-045	RE：話し合いについて
H-046	会議記録簿（第3回大川小学校事故検証委員会）
H-047	打合わせ記録簿（搜索についての調整会議）
H-048	打合わせ記録簿（長面搜索作業現場確認（蛇沼））
H-049	平成25年7月1日開催の大川小学校代表遺族との話し合い議事録の供覧について
H-050	打合わせ記録簿（蛇沼搜索についての打合せ）
H-051	会議記録簿（大川小学校事故検証委員会教職員遺族説明会及び児童遺族説明会（第3回））
H-052	復命書（大川小学校 遠藤 純二教諭の病状確認）
H-053	協議記録簿（大川小学校遺族会会長と市長の懇談）
H-054	石巻市立大川小学校「御遺族との話し合い」の取材について（依頼）
H-055	御遺族との話し合いについて（ご案内）（市長の出席願ひ）
H-056	協議等記録簿（長面地区搜索についての打合せ）
H-057	協議等記録簿（今後の長面地区搜索について）
H-058	打合せ記録簿（8月遺族説明会についての打合せ）
H-059	御遺族との話し合いについて（延期のお知らせ）
H-060	御遺族との話し合いについて（ご案内）
H-061	会議記録簿（第4回大川小学校事故検証委員会）
H-062	石巻市大川小学校「御遺族との話し合い」の取材について（依頼）
H-063	第9回遺族説明会の打ち合わせについて
H-064	追記です。
H-065	Re:第9回遺族説明会の打ち合わせについて

No	件名
I-001	学校沿革史（S60～H15）
I-002	学校沿革史（H16～H21）
I-003	学校沿革史（H22年度分）
I-004	学校経営要録（H8～H22）
I-005	学校要覧
I-006	学校経営録綴（H7）
I-007	教職員研修カード（H18）
I-008	大川小設立記念式典リーフレット
I-009	石巻かほくH2. 9. 14記事のコピー（大川小の防災教室の記事）
I-010	学校要覧
J-000	提供依頼のあった資料について資料（回答）
J-001	大川小学校備品台帳
J-002	河北消防団幹部（班長以上）会議及び河北消防団互助会総会 復命書
J-003	河北消防団震災対応訓練の実施について
J-004	休職教職員の状況報告書の提出について
J-005	休職教職員の状況報告書の提出について
K-001	東日本大震災に係る不明死亡児童生徒について（報告）（小中学校児童生徒分抜粋）
K-002	東日本大震災に係る不明死亡児童生徒について（報告）（吉浜小学校分抜粋）
K-003	東日本大震災における学校（園）の対応等に関する調査（死亡・不明児童生徒がいた小中学校抜粋）
L-001	東日本大震災災害検証作成業務報告書
M-001	報告書（平成25年度石巻市学校防災推進会議委員委嘱状交付式・第1回石巻市学校防災推進会議）
M-002	会議録（大川小学校「心のケア」サポート会議（東日本大震災に対する支援活動））
M-003	第2回 大川小学校「心のケア」サポート会議
N-001	各種被害状況等の報告について ※抜粋 被害状況報告書 人的被害【職員等】、石巻市立学校・園 死者行方不明者一覧
N-002	平成23年度第1回石巻市立学校施設災害復旧整備計画策定検討委員会の開催について ※抜粋 東日本大震災に伴う平成23年度児童生徒数・実学級数の推移
O-001	平成22年度教育計画 石巻市立大川小学校
O-002	平成16年度教育計画河北町立大川小学校
O-003	平成17年度教育計画石巻市立大川小学校
O-004	平成23年度教育計画石巻市立大川小学校
O-005	危機管理マニュアル 平成23年度石巻市立大川小学校
O-006	平成24年度教育計画石巻市立大川小学校
O-007	危機管理マニュアル 平成24年度石巻市立大川小学校
O-008	平成25年度教育計画石巻市立大川小学校
O-009	平成25年度学校防災マニュアル 石巻市立大川小学校
P-001	平成20年度大川小学校教育計画
P-002	平成21年度大川小学校教育計画
P-003	石巻市地域防災計画【風水害等対策編】
P-004	石巻市地域防災計画【震災編】
P-005	石巻市地域防災計画【資料編】
P-006	大川中学校校舎映像
Q-001	弔問記録
Q-002	出席者リスト
R-001	平成19年度教育計画 石巻市立大川小学校（「地震発生時の奇異管理マニュアル」抜粋）
R-002	平成20年度教育計画 石巻市立大川小学校（「避難訓練（地震想定）実施計画」、「安全教育指導計画」及び「地震発生時の危機管理マニュアル」抜粋）
R-003	平成21年度教育計画 石巻市立大川小学校（「避難訓練（地震想定）実施計画」、「安全教育指導計画」及び「地震発生時の危機管理マニュアル」抜粋）
S-001	大川小学校〇〇校長が事故検証委員会へ提出した資料について（平成19年度教育計画 石巻市立大川小学校の一部）
S-002	大川小学校教育計画について（平成20年度教育計画 石巻市立大川小学校、平成21年度教育計画 石巻市立大川小学校）
石巻市提供資料	
No	件名
石-001	石巻市危機対策課ハザードマップ策定経緯に関する回答書
石-002	平成2年 河北町地域防災計画 避難所に関する部分抜粋
石-003	平成18年 石巻市地域防災計画【河北相貌支所暫定運用編】 避難所に関する部分抜粋
石-004	平成18年 石巻市地域防災計画（素案）（日本海溝特措法編）一部抜粋
石-005	平成18年度第1回専門部会防災部会資料災害危険箇所報告
石-006	防災河北支部 三陸沖地震対応経過抜粋
文部科学省提供資料	
No	件名
A-000	文部科学省が東日本大震災前（過去5ヶ年分程度）に作成・配布してきた資料等について
A-002-1	防災教育のための参考資料「生きる力」をはぐくむ防災教育の展開

No	件名
A-002-2	学校防災のための参考資料「生きる力」を育む防災教育の展開
A-003	小学校教職員用研修資料DVD「子どもを事件・事故災害から守るためにできることは」
A-004	中学校・高等学校教職員研修用資料DVD「生徒を事件・事故災害から守るためにできることは」
A-005	小学生用防災教育教材CD「災害から命を守るために」
A-006	中学生用防災教育DVD「災害から命を守るために」
A-007	高校生用防災教育DVD「災害から命を守るために」
A-008	石巻かほく証言集（抜粋）
B-001	第1回資料4「東日本大震災における学校施設の津波被害状況」
B-002	平成24年度研究報告 No.1 防災教育の推進について
B-003	平成24年度研究報告 No.4 学校等における災害対策の現状と課題
E-001	第1回4者円卓会議（H24.11.3開催）アンケート原票
E-001	第2回4者円卓会議（H24.11.25開催）アンケート原票
F-001	校長証言（谷川小と戸倉小）
宮城県教育委員会提供資料	
No	件名
A-001	「みやぎ防災教育基本指針」
A-002	「防災教育に関する実態調査」結果
A-003	平成18年度防災教育指導者研修会開催要領（要綱のみ）
A-004	平成19年度防災教育指導者研修会開催要領
A-005	平成20年度防災教育指導者研修会開催要領
A-006	平成21年度防災教育指導者研修会開催要領
A-007	平成22年度防災教育指導者研修会開催要領
A-008	第三次地震被害想定報告書（H16.3）検討中の宮城県防災会議自身対策等専門部会議事録（第1回～第5回）
A-009	宮城県津波対策ガイドライン（H15.12）策定経緯に関する資料
児童ご遺族提供資料	
No	件名
遺-001	裏山からとった大川小・地区写真
遺-002	釜谷地区航空写真
遺-003	学校周辺航空写真
遺-004	大川小移動経路
遺-005	大川小学校SS_01(北東俯瞰)
遺-006	大川小学校SS_02(南西俯瞰)
遺-007	大川小学校SS_03(学校周辺01)
遺-008	学校周辺の写真
遺-009	〇〇先生の筆跡
遺-010	〇〇聴き取り録音データ
遺-011	第3回保護者説明会ビデオ
遺-012	第5回保護者説明会ビデオ
遺-013	第6回保護者説明会ビデオ
遺-014	第7回保護者説明会ビデオ
遺-015	クローズアップ現代 巨大津波が小学校を襲った ～石巻・大川小学校の6か月～
遺-016	ニュース映像
遺-017	ニュース映像
遺-018	H24.8.26開催保護者説明会ビデオの一部
遺-019	NHKスペシャル 3.11 あの日から2年 わが子へ ～大川小学校 遺族たちの2年～
遺-020	第1回本部役員選考委員会要綱
遺-021	平成18年度大川小学校PTA専門部並びに第2回拡大役員会
遺-022	平成19年度第1回拡大役員会
遺-023	平成19年度大川小学校PTA専門部並びに第2回拡大役員会
遺-024	平成20年度第1回拡大役員会
遺-025	平成21年度PTA総会資料
遺-026	平成22年度第1回拡大役員会
遺-027	平成22年度 週予定表（4～9月まで）
遺-028	平成22年度第1回職員会議協議事項
遺-029	平成22年度第2回職員会議協議事項
遺-030	平成22年度第3回職員会議協議事項
遺-031	平成22年度第4回職員会議協議事項
遺-032	平成22年度第5回職員会議協議事項
遺-033	平成22年度第6回職員会議協議事項
遺-034	平成22年度石巻市立小・中学校教頭・中堅教員研修会
遺-035	大川小学校だより 未来をひらく 9・10月号
遺-036	平成22年度9月 生徒指導全体協議会

No	件名
遺-037	平成22年度 第1学期学校評価全体会資料
遺-038	教育実習計画表
遺-039	平成22年度石巻市立小・中学校教頭・中堅教員研修会について (通知)
遺-040	平成22年度 石巻市立大川小学校職員連絡網
遺-041	平成21年度 不祥事の状態について
遺-042	平成22年度の不祥事に関する報道の概要
遺-043	大川地区復興協議会ビデオ
遺-044	〇〇氏提出資料
遺-045	〇〇氏提出資料
遺-046	ラジオ放送録音音声NHK1
遺-047	ラジオ放送録音音声NHK2
遺-048	ラジオ放送録音音声TBC1
遺-049	ラジオ放送録音音声TBC2
遺-050	事後対応における疑問点
遺-051	鶴住居に関する新聞記事
遺-052	20130904検証委員会へ
写真関係	
No	件名
写-001	調査委員ご提供 現場写真
写-002	調査委員ご提供 現場写真
写-003	調査委員ご提供 現場写真
写-004	委員ご提供 大川小・大川中写真
写-005	委員ご提供 船越小・相川小・雄勝小・雄勝中周辺写真
写-006	〇〇氏提供 津波襲来状況写真
写-007	委員ご提供 谷川小写真
東北大学大学院工学研究科環境水理研究室提供資料	
No	件名
津-001	20130208国総研水理実験
津-002	You Tube北上川_長面浦
津-003	現場写真
津-004	国土交通省水位データ&資料_(記者へ提供)110320津波遡上状況
津-005	国土交通省水位データ&資料_110320地震発生後の水位観測所データ(津波遡上範囲確認) グラフ個別ver
津-006	東北地方太平洋沖地震を踏まえた河口堰・水門等技術検討委員会 第1回委員会資料 津波の河川遡上と河口堰・水門等の被害状況
津-007	国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所 平成23年東北地方太平洋沖地震 鳴瀬川・北上川被害状況(速報第9報)
津-008	国土交通省水位データ&資料_20110512 参考情報[痕跡調査結果]
津-009	国土交通省水位データ&資料_20110711 説明用パネル
津-010	国土交通省水位データ&資料_岩手県側の水位変動について
津-011	国土交通省水位データ&資料_被災前後の新北上川河口部
津-012	新聞記事_20110908河北新報ニュース 検証 石巻・大川小の惨事/証言でたどる51分間/黒
津-013	新聞記事_大川小学校
津-014	茅根康佑・盧敏・田中仁・NUGYE Xuan Tinh: 津波の河川遡上に対する河口地形・潮位変動の影響に関する検討, 土木学会文集B2(海岸工学), Vol.67, pp.1246-250, 2011.
津-015	田中仁・Nguyen Tinh・盧敏・Nguyen Xun Dao: 2010年チリ地震津波の東北地方河川への遡上-河口地形と遡上特性との関連-, 水工学論文集, 第55巻, pp.S1627-1632, 2011.
津-016	HITOSHI TANAKA・NGUYEN XUAN TINH・MAKOTO UMEDA・RYUTAROHIRAO・EKO PRADJOKO・AKIRAMANO・KEIKO UDO: COASTAL AND ESTUARINE MORPHOLOGY CHANGES INDUCED BY THE 2011 GREAT EAST JAPAN EARTHQUAKE TSUNAMI, Coastal Engineering Journal, Vol.54, No.1, pp.1250010-1 - 25
津-017	MOHAMMAD BAGUS ADITYAWAN・MIN ROH・HITOSHI TANAKA: INVESTIGATION OF TSUNAMI PROPAGATION CHARACTERISTICS IN RIVER AND ON LAND INDUCED BY THE GREAT EAST JAPAN EARTHQUAKE 2011, Journal of Earthquake and Tsunami, Vol.6, No.3, pp.1250033-1 - 22, 2012.
津-018	Mohammad Bagus ADITYAWAN1・Min ROH・Hitoshi TANAKA・Mohammad FARID: The Effect of River Mouth Morphological Features on Tsunami Intrusion, pp.75-83
津-019	茅根康佑・田中仁・Mohammad Bagus ADITYAWAN: 津波の河川遡上に対する河床勾配の影響に関する検討, 土木学会論文集B2(海岸工学), Vol.68, No.2, pp.1176-180, 2012.
津-020	盧敏・田中仁・Mohammad Bagus ADITYAWAN・真野明・有働恵子: 河川遡上津波の波速・流速の評価に関する研究, 土木学会論文集B1(水工学), Vol.68, No.4, I253-I258, 2012.
津-021	水工学委員会東日本大震災調査報告書, pp.1-6
津-022	第3.2堰樋門水門, pp.1-7
津-023	到達時間推定_走時線
津-024	到達時間推定_到達時刻の計算
津-025	到達時間推定_福地1分水位データ
津-026	実績津波流向判読図

No	件名
国土交通省北上下流河川事務所提供資料	
No	件名
国-001	大川小学校事故検証委員会へのデータ提供について
国-002	福地水門水位計モデルのカタログ
国-003	釜谷水門構造図
国-004	北上川横断測量_平成21年横+B656断図
国-005	北上川横断測量_平成24年横+B656断図
国-005	福地水門カメラ_DVD
石巻市消防本部提供資料	
No	件名
消-001	「3.11東日本大震災石巻地区の消防活動現場」抜粋
消-002	石巻地区広域行政事務組合消防本部「東日本大震災 3.11石巻広域の消防活動記録」抜粋
消-003	情報提供依頼への回答書(その1)
消-004	情報提供内容(平成23年12月1日報告文書)
消-005	平成23年3月11日、河北署広報車により長面方面の津波避難広報に当たった〇〇副士長の活動状況
消-006	〇〇副士長の証言詳細(波の方向等について)
消-007	消防団の闘い-3.11東日本大震災-より「涙は3日だけ、あとは強い絆に感謝」宮城県石巻市河北消防団 団長の手記《Web上のpdfよりテキスト化》
消-008	大川小周辺で傍受可能であった消防無線の交信記録全体(地震発生から16時頃まで)
消-009	〇〇教諭及び子ども2名を救急搬送した救急隊の記憶している子どもの発言内容(津波について)
総務省公開資料	
No	件名
携帯-001	NTT docomo 大規模災害等緊急事態における通信確保の在り方に関する検討会(ネットワークインフラWG)
携帯-002	ソフトバンクモバイル 大規模災害等緊急事態における通信確保の在り方に関する検討会 ネットワークインフラWG
携帯-003	KDDI 大規模災害等緊急事態における通信確保の在り方に関する検討会(ネットワークインフラWG)
携帯-004	イー・アクセス 東日本による当社携帯電話基地局への影響とサービスエリアの復旧について
携帯-005	WILLCOM 大規模災害等緊急事態における通信確保の在り方に関する検討会
携帯-006	NTT東日本 追加資料
携帯-007	大規模災害等緊急事態における通信確保の在り方に関する検討会の議事録
河北警察署提供資料	
No	件名
警-001	東日本大震災発生時における河北警察署の活動状況について(回答)
警-002	河北警察署 情報提供に関する聴き取り(結果概要)
警-003	大川小学校・大川中学校の時計の写真
教職員関係者提供資料	
No	件名
教-001	平成20年度11月定例教頭会議
教-002	平成20年度学校経営研修会(危機管理セミナー&ロールプレイ演習)
教-003	平成20年度9月定例教頭会議
教-004	平成20年度石巻市小中学校教頭研修会資料
教-005	平成20年度第2回管内石巻地区小・中学校教頭会議
教-006	平成20年度石巻市立小・中学校教頭会7月河北支会
教-007	平成20年度6月定例教頭会議
教-008	平成20年度石巻市立小・中学校教頭会5月河北支会
教-009	平成20年度石巻市立小・中学校教頭会5月河北支会の開催について(通知)
教-010	平成20年度第1回東部教育事務所管内小・中学校教頭会議
教-011	平成20年度第1回東部教育事務所管内小中学校教頭会議資料
教-012	平成20年度4月定例教頭会議
教-013	大川小写真集
教-014	大川小_3月17・20日撮影分
教-015	大川小周辺現場写真集
教-016	平成19年度災害対応マニュアル
河北総合支所提供資料提供資料	
No	件名
支-001	動画/写真

No	件名
仙台気象台提供資料	
No	件名
仙-001	地震観測資料について
北澤建築設計事務所提供資料	
No	件名
北-001	文教施設_3.11による被災小学校をめぐって
北-002	大川小学校パース図
北-003	大川小学校工事概要
北-004	河北町立大川小学校新築工事について
北-005	大川小学校新築校舎竣工写真
北-006	河北町誌下巻第二章第六節第三 町村合併（河北町発足）
北-007	河北町誌下巻第二章第六節第四 河北町発足二十年
北-008	河北町誌下巻第三章第二節 町内学校沿革誌
北-009	河北町誌下巻第三章第三節 教育委員会等
北-010	河北町誌下巻第三章第四節 河北町の神社・寺院・仏堂など
北-011	河北町誌下巻第四章 北上川下流の改修工事と土地改良
北-012	ニュース映像
北-013	奥様新時代の映像
北-014	大川小学校-断面図
北-015	大川小図面
報道関係機関提供資料	
報-001	東北放送のラジオ放送に関する回答
報-002	大川小学校_時計写真
報-003	仙台放送のラジオ・テレビ放送に関する回答
報-004	宮城テレビ放送、大川小学校事故検証に関わる情報の提供について
報-005	東北放送のラジオ放送に関する回答_追加
委員提供資料	
No	件名
委-001	震災・津波で被災した学校子どもたちへの支援研究プロジェクト ～個別アプローチとコミュニティアプローチの統合モデルの構築に向けて～
委-002	東日本大震災 宮城・岩手・福島の学校 ～その被災と対応の報告～ (当日から1年後まで)
委-003	釜石市鶴住居地区防災センターにおける東日本大震災津波被災調査 中間報告書
委-004	岩手県の巨大津波被災学校名と被災状況一覧
委-005	宮城被災校の状況一覧
委-006	津波浸水被害のあった学校一覧(宮城県)
委-007	津波被災校のその後の状況(宮城県調査)
委-008	宮城県教職員組合編：あの日、学校はどう判断し、行動したか 東日本大震災 教職員が語る 子ども・いのち・未来、明石書店 (関連部抜粋)
委-009	教見隆生：子どもの命は守られたのか 東日本大震災と学校防災の教訓、かもがわ出版 (関連部抜粋)
委-010	宮城県中学校長会・仙台市中学校長会：明日に向かって 東日本大震災・宮城県内中学校長の記録(関連部抜粋)
委-011	宮城県小学校長会・仙台市小学校長会：3.11からの復興 絆そして未来へ 東日本大震災 2年間の記録(関連部抜粋)
委-012	河北新報平成23年8月23日「ドキュメント大震災 逃げるその時Ⅱ」
委-013	津波防災の歴史と今後の課題
その他公表資料	
No	件名
他-001	菊池正憲：なぜ大川小学校だけが大事事となったのか、中央公論HPバックナンバー、2011年8月号
他-002	独占スクープ大川小学校生き残った生徒たちの証言、週刊現代、pp.44-47
他-003	葉上太郎：あの日、大川小で何が起こったか、文藝春秋、2015年5月号、pp.334-343
他-004	教見隆生：東日本大震災の事実に学び、学校防災、防災教育をどう見直すか、教育展望、2012年9月号、pp.4-10
他-005	仲真紀子：司法面接 事実焦点を当てた面接法の概要と背景、ケース研究、299号、pp.3-34
他-006	仲真紀子：子どもの記憶—子どもの証言と司法面接—、子どもの虹情報研修センター紀要、No.8、pp.39-55
他-007	仲真紀子：子どもの証言と心理学鑑定、科学、2010年6月、Vol.80、No.6、pp.654-656
他-008	仲真紀子：事実確認と子どものケア 感情を交えずに話を聞く事、世界の児童と母性、pp.41-45

No	件名
他-009	仲真紀子(2012)：面接のあり方が目撃した出来事に関する児童の報告と記憶に及ぼす影響，心理学研究，第83巻，第4号，p p. 303-313
他-010	法と人間科学通信LH_vol1
他-011	法と人間科学通信NL_vol1
他-012	法と人間科学通信NL_vol2
他-013	越智啓太：認知符号化法による目撃者の記銘促進，文学部紀要，第59号，pp. 63-72
他-014	【東日本大震災】「松の上を津波が超えるのが見えたんです」～大川小学校より下流・尾崎地区の人たちの証言
他-015	宮城県地震被害想定に関する報告書
他-016	大川村誌（関連部抜粋）
他-017	桃生郡誌（関連部抜粋）
他-018	消防団副団長提供資料
他-019	47NEW・共同ニュース・2001/4/2の記事